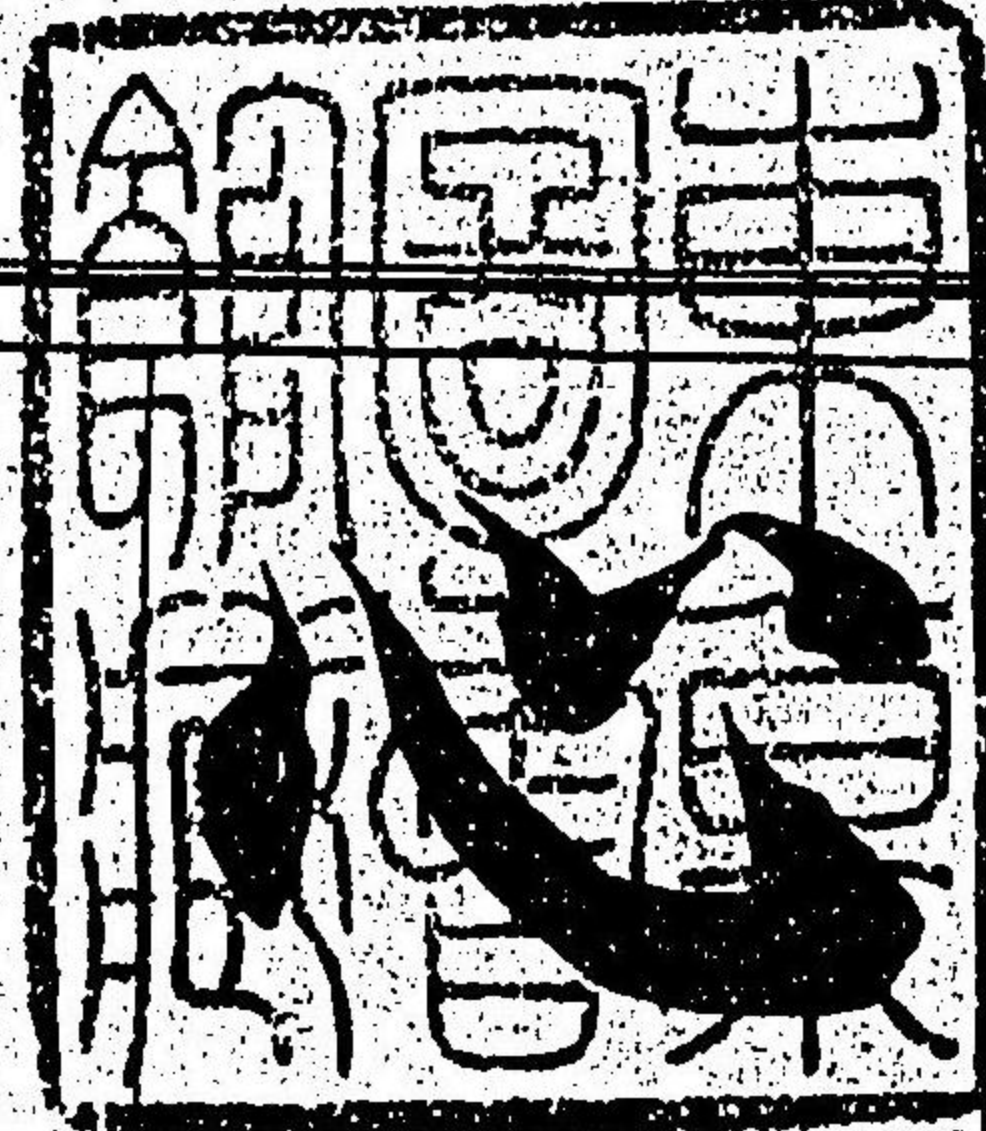


No 43/XXIV



元良勇次郎著

理學

東京金港堂



## 心理學

### 緒言

心理學ハ人間ニ直接の關係を有する樞要の學なり。世人或ハ謂ヘらく心理學ハ至難の學なりと。在レハ稗史小説を愛讀するも心理の書を繙かず。政事ハ熱心なるも未だ心理の研究を好まざる者多し。然リ而シテ精神の眞理なるものハ遠望すレハ眼前ニ現ルヽも接近シテ之を捕ヘんと欲セハ得ベカラざるの場合少カラズ。惟ふニ世人心理を研究セんと欲シテ哲學中ニ之を求め。其の望むところ多キニ過ぎ却テ哲學の深林ニ彷徨シ木ニ緣テ魚を求むるの觀

を呈するハ蓋し接近して之を捕へんと欲すること  
ならん。是れ世人をして此の學ハ奥妙不可思議なる  
ものとの思想を懐かしめたる所以なるか  
心理の奥義ハ人智の到達すべからざる處ハ陰蔽す  
るものハ非ず。我等日常眼前の事實ハ於て心理の現  
るゝを見る。詩歌ハ宗教ハ風俗ハ政事ハ商賣ハ心理  
の現るゝこと多し。余ハ之等の事實と心理の關係を  
明かよせんことを欲す。今や我國の文學ハ日ハ月ハ  
駸々乎として歩を進め。殊ハ教育學の如きハ世人の  
注意を促し教育ハ關する良書を求むる人多きハ至  
り。隨て其の需要に應ずるの書亦少しとせず。特り

心理學の如きは其の書無きに非ずと雖も。尙ほ未だ  
完全なりと云ふ能はず。適々余の友人余に促すに心  
理書を著はすを以てす。心理學は素より好むところ  
なれば不肖を顧ず書して以て世の需要の幾分に應  
ぜんとす。因て成るべく簡易にして且つ現今歐洲に  
行はるゝ心理の思想を表さんことを試むるものな  
り。是れ本書を著述する所以なり

明治二十三年十二月

著者識

# 心理學目錄

## 總論一

### 感覺一八

#### 第一章 五官一八

- 神經二種ノ別一八
- 刺激ノ種類一九
- 神經細胞二〇
- 細胞ノ活動二一
- 些細ナル無數ノ細胞二四

#### 第二章 感覺ノ結合二七

- 知覺ノ時間二七
- 認識ト觀念二九
- 心理學ノ目的三〇
- 觀念ノ性質三〇
- 唯物論及唯心論三〇
- 心物相關論三一
- 觀念ノ起源三二
- 觀念ノ聯合三四
- 觀念活動ノ法三四
- 外感及內感三五
- 視覺ノ性質三五
- 平面ノ知覺三八
- 物牀ノ厚及遠近ノ知覺四二
- 小兒ノ視覺四三
- 視覺ト觸覺トノ關係四五
- 音響ト感情トノ結合四六
- 概念及抽象的觀念四七

第三章 意識ノ性質四九

- 意識ノ能量四九
- 意識ノ相對的性質五〇
- 意識ノ結合的性質五三

主觀的觀念五六

第四章 觀念ノ再生五六

- 知覺心像及抽象的觀念ノ別五六
- 後像ノ解五七
- 心像ノ異類五八
- 記憶ノ三要素五八
- 遺傳六〇
- 本能及直覺ノ別六一
- 直覺ノ性質六二
- 早熟六四
- 一種ノ記憶六八
- 記憶總論六九
- 腦髓ト印象トノ關係七〇
- 印象ノ種類七四
- 細胞相關ノ理七五
- 觀念聯合一般七八
- 時間ノ聯絡法七八
- 種類ノ聯絡法八一
- 第二兩極ノ同伴八二
- 第三論理的同伴法八三
- 復雜ナル聯絡法八五
- 再生ナル心像八六
- 記號ト智識八六
- 智識ノ交通八八
- 時ノ前後九二
- 記憶ノ衰弱九三

第五章 幻影九五

- 知覺ノ二要素九六
- 幻影ノ類別九六
- 複雜ナル幻影一〇三

第六章 概念一〇七

- 外物五官及感覺一〇七
- 概念ノ外延及內包一一一
- 概念ノ發達一一二
- 判斷ノ種類一一五
- 合式的命題一一五
- 約結的命題一一八
- 離接的命題一一九
- 詭辯論一二〇

第七章 想像一二二

- 智情意ノ關係一二三
- 意識ノ組織法一二四
- 理性的想像一二四
- 美術的想像一二六
- 記憶ト想像ノ別一二七
- 想像ハ整理器ノ如ク一二七

第八章 理想一二九

- 天然ト人意一二九
- 開化一三〇
- 變化一三〇
- 變化中ノ不變一三一
- ふれどりの觀念一三三
- 理想ノ真意一三四
- 苦樂ノ感一三六

第九章 苦樂ノ學理。一三六

- 苦ト樂トノ關係。一三六
- そくらてすノ說。一三七
- わりすとどるノ說。一三九
- 馬琴ノ說。一四〇
- はみるとんノ說。一四〇
- すべんさゝノ說。一四一
- 結論。一四一
- 苦樂ト感覺トノ關係。一四四

第十章 音樂。一四七

- 調音ノ原因。一四七
- 調音ノ理。一四八

第十一章 繪畫。一五三

- 嗜好ノ差異。一五三
- 繪畫ノ觀念同伴。一五四
- 第一摸擬ノ巧拙。一五四
- 第二、繪畫ノ撰擇。一五七
- 第三、畫工ノ意匠。一五七

第十二章 美ノ學理。一五九

- 何ヲ美麗ト云フ。一五九
- 第一、眼球筋肉ノ感。一六〇
- 筋肉ノ働キ。一六〇
- 第二、色ノ調和。一六三
- 第三、同伴法ニ基ク觀念。一六五
- らをこゝんノ事。一六六
- らをこゝんヲ見テ發スル感覺。

一六八

第十三章 「リズム」。一六九

- 萬物皆「リズム」アリ。一六九
- 精神ノ「リズム」。一七〇
- 注意ノ「リズム」。一七一
- 文學ト「リズム」。一七二
- 和歌ト「リズム」。一七三
- 和歌「リズム」ノ發達。一七四
- 「リズム」ノ應用。一七七

第十四章 笑。一七七

- 人ハ笑フ動物ナリ。一七七
- 微笑。一七八
- 僞笑。一七八
- 滑稽ノ笑。一七九
- 愛情。一八〇
- 同情ノ範圍。一八二
- 欽仰。一八四
- 固着。一八五
- 兩性ノ愛情。一八五
- 親子ノ愛情。一八五
- 朋友ノ愛情。一八六
- 愛國心。一八七

第十六章 社會的的感覺。一八七

- 總論。一八七
- 社會ノ特有性。一八八
- 社會的的感覺トハ如何。

八九 ○社會的感覺ノ説明。一九〇 ○社會的感覺ノ要素。一九一  
 ○他ノ感覺ト比較ス。一九二 ○倫理ノ原理。一九三 ○社會及ヒ國  
 家ハ一脈ナリ。一九五 ○結論。一九六  
 觀念ノ刺激的性質。一九七

第十七章。注意。一九七

○觀念ト刺激。一九七 ○注意力ノ解。一九八 ○注意活動ノ方法。一  
 九八 ○主觀的及客觀的注意。二〇〇 ○注意二種ノ區別。二〇〇  
 ○心期。二〇二 ○机ノ自動。二〇三 ○結論。二〇四

第十八章。習慣及本能。二〇四

○習慣ト腦髓組織トノ關係。二〇五 ○習慣ト理性トノ關係。二〇七 ○  
 習慣ト教育トノ關係。二〇八 ○習慣ノ利用。二〇九 ○本能。二一〇

第十九章。自覺ノ性質。二一二

○反省及自動。二一三 ○反省。二一三 ○自動。二一四 ○自覺。二  
 一五 ○自覺ノ發達。二一六 ○動神經ト感神經。二一七 ○佛教

ニ所謂我。二一九 ○結論。二二〇

第二十章。慾望。二二一

○生存競争。二二一 ○精神現象ノ材料。二二一 ○力學ノ比喩。二二  
 二 ○觀念ノ形質的性質。二二三 ○觀念ノ力學。二二四 ○慾望  
 ノ發スル狀態。二二五 ○觀念活動ノ方向。二二七 ○慾望ト理性トノ  
 關係。二二八 ○慾望ト自覺トノ關係。二二九

第二十一章。表出。二三〇

○感動ト顔色トノ關係。二三一 ○顔筋肉ノ解剖。二三一 ○悲嘆及ヒ  
 心配ノ表出。二三六 ○號泣ノ表出。二三六 ○笑ノ表出。二三七  
 ○智力ノ表出。二三八 ○眼ノ運動。二三八 ○表出種々。二三九  
 ○身體ニ於ケル表出。二四〇 ○表出ノ理由。二四一

第二十二章。意志。二四三

○意志ト腦髓トノ關係。二四三 ○意志活動ノ有様。二四四 ○意志正  
 面的活動。二四五 ○意志反面的活動。二四七 ○筋肉收縮ノ試驗法。

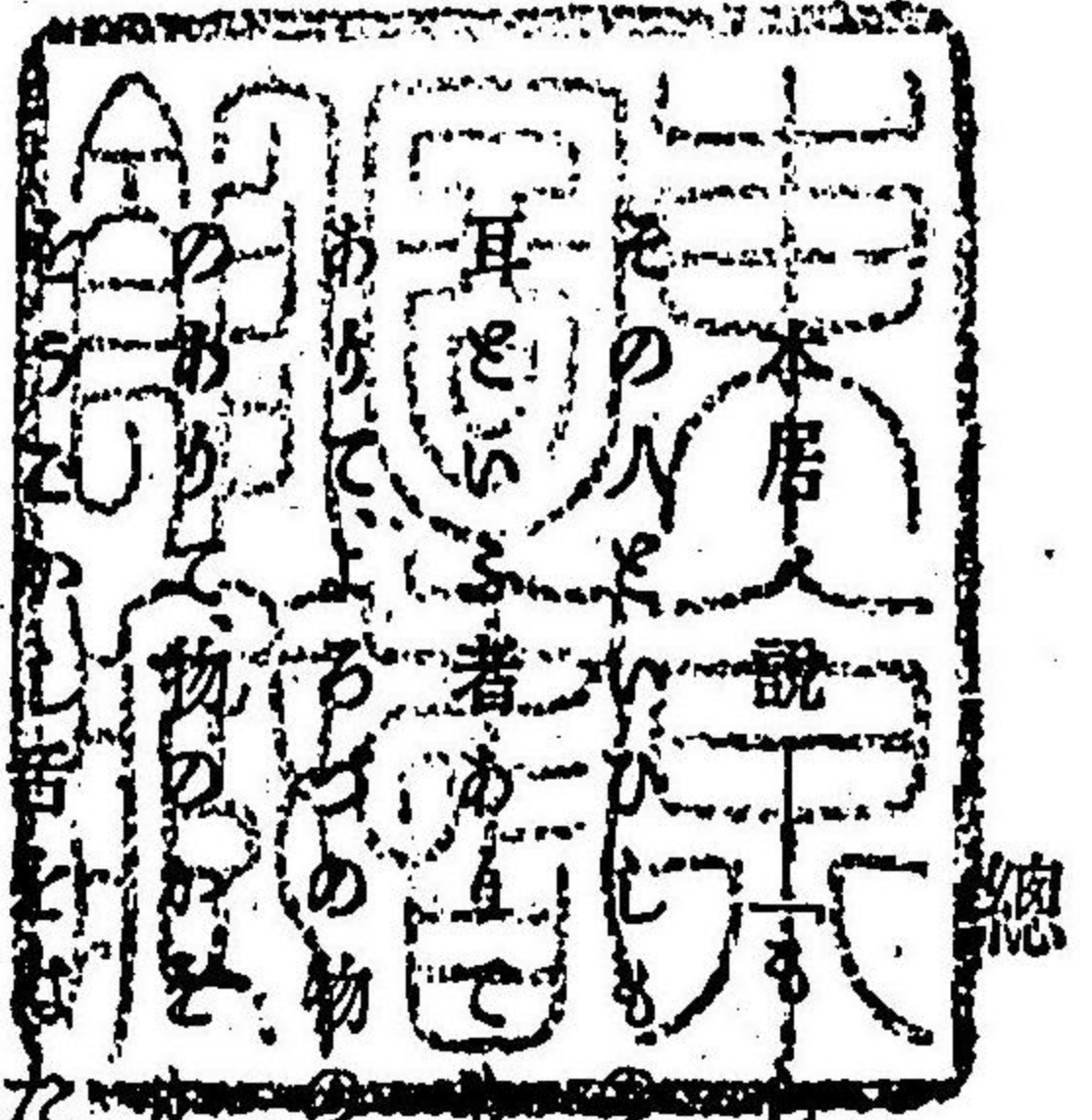
目録

二四九 ○筋肉收縮ノ形狀二五〇 ○腦中ノ刺激二五二  
 第二十三章 倫理的感覚二五三  
 ○意志トノ關係二五四 ○倫理ノ範圍二五五 ○良心ノ快不快二  
 五七 ○良心ノ阿責四種二五九 ○良心ノ阿責ト迷信二六二  
 ○理性ト良心トノ關係二六三 ○自愛ト他愛二六五 ○社會的及  
 國家的愛情二六七 ○直覺的良心ノ價值二六八 ○德育二六九  
 ○良心ノ絶對的性質二七〇

心理學目錄終

心理學

元良勇次郎著



論

人といふもの、今はあき世にて、神代にさる者ありきと記して、  
 ありしやうまづ上つかたに首といふ所有りて、その左右に  
 ろくの聲をよくき、おもての上の方に目といふもの、二つ  
 色かたちをのこるくまなく見あきらめ、その下に鼻といふも  
 ぎ、又下に口といふ者ありて、おくより聲のいづるを、くちびる  
 をいひわけ、又た首の下、左右の手といふものありて、末に岐ありて、指といふ。此  
 ゆびをはたらかして、萬のわざをなし、萬の物を造り出せり。又下つかたに足といふ  
 もの、これも二つありて、うごかしはこへ、百重の山をものぼりこえて、いづこまで



もありきゆきつ。かくて又胸の内にかくれて心といふものゝありつゝあるが中にも、いどおやしき物にて、色も形もなきものから、上の件の聲をき、目の物を見、口のものいひ、手足のはたらくも皆この心の志わざよてぞありける。さるゝこの人といひし者、ある時、いたくなやみて、やうくは重りもてゆくほどよ、つひにかの萬の志わざみなやみて、いさゝかうごとくもせずなりてやみよきと記したらむ書と、じゆしやの見しらむよ、例の信ぜずして、神代ならんからみ、いづこのさるおやしき事があるべき。すべて、理もなくつたなき実言よこそあれど、いはいはむかし、

(五) 勝間、おやしき事の説

心理学ノ研究問題トハ何ゾヤ——心理学ハ前文ニ所謂人ヲ研究スルモノナリ、夫レ人ハ身軀ト精神トヲ有スルモノニシテ精神ハ恰モ海中ノ孤島ノ如ク無意識ナル物質世界ノ大海ニヨリ圍繞サレ各自ノ精神ハ互ニ孤立スルモノナレバ其ノ作用ハ獨リ心中ニ現ハル、ノミニシテ直接ニ其ノ感覺ヲ他人ニ知ラシムル能ハズ唯、外面ニ現ハル、徴號ニ依リテ其ノ一部分ヲ知ラシムルノミ、おもひやる、こゝろはうみをわたれども

ふみしなければ、しらすやあるらん(紀貫之)

斯ノ如ク文(歌賦ノ一種)ニ因ラザレバ意ヲ通スル能ハザルナリ、左レバ顔色ノ如何ヲ見テ其ノ人ノ喜怒哀樂ヲ知ルハ直接ニ精神ノ有様ヲ知リタルニ非ズシテ唯、徴號ト推理ニヨリテ内界ノ心像ヲ察知セルノミ、此レ他人ノ精神界ヲ察知スルノ事ナリ、若シ又單ニ身軀ノミヲ他人ヨリ見ルトキハ人ハ唯一ノ動物タルニ過ギズシテ外物ノ刺激ヲ受ケ之ニ反動スル者ノミ、故ニ身軀ト精神トハ互ニ密着ノ關係ヲ有シテ相分離スベカラズト雖モ而モ説明ノ易カラシメ今假リニ此二者ヲ區別シテ論ゼントス、故ニ先ツ精神ノ性質ト身軀ノ性質トヲ區別シテ論シ、而シテ後兩者ノ關係ヲ論ゼン

意識中ノ現象——抑モ精神ノ現象ハ種類ノ如何ヲ問ハズ總テ意識中ニ存在スルモノナリ、猶ホ物質ノ現象ハ悉ク空間ニ包含セラレ、ガ如シ然レドモ意識ナル者ハ絶ヘズ存在スルニアラズ、睡眠中ノ如キハ存在スルコトナシ、又存在スル時ト雖モ精神活潑ナルトキアリ、或ハ衰弱スルトキアルヲ以テ常ニ其ノ働キニ變動アルヲ記セザル可ラズ、而シテ精神ノ現象ニ種々アリ、即チ苦樂ノ感、物ヲ欲望スル

情慾物ノ道理ヲ考究スルノ理性等是レナリ是等ノ現象互ニ時ヲ異ニシテ現ハル  
 トキハ相衝突スルコトナカルベシト雖モ事實上屢諸種ノ現象同時ニ現ハル  
 コトアルガ故ニ互ニ衝突ヲ來スコト少ナカラズ何トナレバ意識中ニ活動セント  
 スル無數ノ觀念アリト雖モ意識ハ同時ニ唯僅少ノ觀念ヲノミ活動セシムルヲ得  
 ルモノナレバナリ故ニ甲ノ觀念意識中ニ現ハルコト最モ明白ナルトキハ乙ノ  
 觀念モ亦現ハルト雖モ其ノ明白ナルコト甲ノ觀念ニ若カザルナリ其ノ他丙丁  
 ノ觀念モ亦現ハルト雖モ其次ニ微少トナルヤ言ヲ俟タズシテ知ルベシ又時トシテ  
 ハ乙ノ觀念最モ明白ニシテ其ノ他ノ觀念之ニ若カザルコトアリ斯ノ如ク一ノ觀  
 念ハ明白ニシテ其ノ他ノモノハ稍微カナルハ意識中ニ無數ノ觀念現ハレントス  
 ルモ意識ハ同時ニ之ヲ受クル能ハザルニヨル然リ而シテ無數ノ觀念中何レガ最  
 モ明白ニ現ハルヤハ精神ノ撰擇ニヨリテ定マルコトアリ又然ラザルコトアリ  
 而シテ各人自由ニ甲或ハ乙ヲ擇ビテ意識ノ焦點ニ集合セシムルコトヲ得ルコト  
 アリ其ノ精神ノ力ヲ有意注意カト云フ又偶一ノ觀念ガ意識中ニ現ハレ意識ノ全  
 カヲ之ニ引キ付ケ他ノ觀念ノ現ハルヲ防クコトアリ之ヲ偶然ノ注意ト云フ左

バ觀念ナルモノハ無數ニシテ或ハ意識中ニ存シ或ハ意識外ニ存スルコトアルヲ  
 知ル可シ故ニ吾人ハ過去ノ事實ヲ腦中ニ貯フルト雖モ一時回想シ得ザルコト往  
 々之レアリ然レトモ是レ必シモ其ノ觀念ヲ消失シタルニ非ズ唯一時障礙ノ爲メ  
 ニ意識中ニ現ハレザルノミ而シテ意識中ニ存在スル觀念ハ意識外ニ存在スルモ  
 ノニ比スレバ其ノ數僅少ニシテ是等ハ一定ノ法則ニ從ヒ新陳代謝シテ意識中ニ  
 現ハルモノナリ而シテ其ノ一定ノ法則ヲ稱シテ觀念同伴ノ法ト云フ今假リニ  
 人ノ五官ヲ閉ヂテ外物ヨリ刺激ヲ受クルコトナシトセンカ精神世界ハ外界ト其  
 ノ縁故ヲ絶チ甲ノ觀念ハ乙ノ觀念ヲ惹キ起シ又乙ハ丙ヲ惹キ起シ觀念ヨリ觀念  
 ニ遷リテ人生恰モ夢ノ如ク波ニ漂フ小舟風ニ吹カル浮雲ト均シク自ラ其ノ方  
 向ヲ定ムル能ハズシテ唯同伴ノ法則ニ其ノ運命ヲ任スニ至ラン斯ノ如ク外界ノ  
 形狀ニ關スルコトナク唯意識中ニ現ハル處ノ觀念ヲ稱シテ主觀的或ハ内界ノ  
 現象ト云フ

身體ノ反動力——抑モ動物ノ身軀ハ神經ト筋骨ヨリ成ル者ニシテ其ノ他ノ消  
 化機肺臟血液脂肪等ハ此三者ヲ助クル爲メニ存スルガ如シ而シテ神經ナルモノ

情慾物ノ道理ヲ考究スルノ理性等是レナリ、是等ノ現象互ニ時ヲ異ニシテ現ハル、トキハ相衝突スルコトナカルベシト雖モ事實上屢諸種ノ現象同時ニ現ハル、コトアルガ故ニ互ニ衝突ヲ來スコト少ナカラズ、何トナレバ意識中ニ活動セシムルヲ得スル無數ノ觀念アリト雖モ意識ハ同時ニ唯、僅少ノ觀念ヲノミ活動セシムルヲ得ルモノナレバナリ、故ニ甲ノ觀念意識中ニ現ハル、ゴト最モ明白ナルトキハ乙ノ觀念モ亦現ハル、ト雖モ其ノ明白ナルコト甲ノ觀念ニ若カザルナリ、其ノ他丙丁ノ觀念モ亦現ハル、モ漸次ニ微少トナルヤ言テ俟タズシテ知ルベシ、又時トシテハ乙ノ觀念最モ明白ニシテ其ノ他ノ觀念之ニ若カザルコトアリ、斯ノ如ク一ノ觀念ハ明白ニシテ其ノ他ノモノハ稍、微カナルハ意識中ニ無數ノ觀念現ハシメントスルモ意識ハ同時ニ之ヲ受クル能ハザルニヨル、然リ而シテ無數ノ觀念中何レガ最モ明白ニ現ハル、ヤハ精神ノ選擇ニヨリテ定マルコトアリ、又然ラザルコトアリ、而シテ各人自由ニ甲或ハ乙ヲ擇ビテ意識ノ焦點ニ集合セシムルコトヲ得ルコトアリ、其ノ精神ノ力ヲ有意、注意、力ト云フ、又偶一ノ觀念ガ意識中ニ現ハレ意識ノ全カチ之ニ引キ付ケ他ノ觀念ノ現ハル、ヲ防クコトアリ、之ヲ偶然ノ注意ト云フ、左レ

バ觀念ナルモノハ無數ニシテ或ハ意識中ニ存シ、或ハ意識外ニ存スルコトアルヲ知ル可シ、故ニ吾人ハ過去ノ事實ヲ腦中ニ貯フルト雖モ一時回想シ得ザルコト往々之レアリ、然レトモ是レ必シモ其ノ觀念ヲ消失シタルニ非ズ、唯一時障礙ノ爲メニ意識中ニ現ハレザルノミ、而シテ意識中ニ存在スル觀念ハ意識外ニ存在スルモノニ比スレバ其ノ數僅少ニシテ是等ハ一定ノ法則ニ從ヒ新陳代謝シテ意識中ニ現ハル、モノナリ、而シテ其ノ一定ノ法則ヲ稱シテ觀念同伴ノ法ト云フ、今假リニ人ノ五官ヲ閉ヂテ外物ヨリ刺激ヲ受クルコトナシトセンカ、精神世界ハ外界ト其ノ縁故ヲ絶チ、甲ノ觀念ハ乙ノ觀念ヲ惹キ起シ、又乙ハ丙ヲ惹キ起シ、觀念ヨリ觀念ニ遷リテ人生恰モ夢ノ如ク波ニ漂フ小舟、風ニ吹カル、浮雲ト均シク自ラ其ノ方向ヲ定ムル能ハズシテ唯、同伴ノ法則ニ其ノ運命ヲ任スニ至ラン、斯ノ如ク外界ノ形狀ニ關スルコトナク、唯、意識中ニ現ハル、處ノ觀念ヲ稱シテ主觀的、或ハ内界ノ現象ト云フ、

身體ノ反動力——抑モ動物ノ身體ハ神經ト筋骨ヨリ成ル者ニシテ其ノ他ノ消化機、肺、血液、脂肪等ハ此三者ヲ助クル爲メニ存スルガ如シ、而シテ神經ナルモノ

ハ智力及び感覺ノ器械ニシテ筋ト骨トハ觀念ヲ外面ニ表出スルノ器械ナリ、左ノ  
 パ動カント欲スルモ手足ナケレバ動ク能ハズ、又心ニ喜悅ノ情感アルモ面部ノ筋  
 ナケレバ笑フコトヲ得ザルナリ、夫レ下等動物ハ單ニ外物ノ身軀ニ觸接スル者ア  
 リテ是レニ刺激ヲ與フレバ神經ハ之ニ反動シテ身軀ノ運動ヲ生スルノミナラズ  
 次高等ニ進ムニ從ヒ身軀ノ運動ハ管ニ外物ノ刺激ニ反動シテ生スルノミナラズ  
 意識中ノ觀念モ亦動神經ヲ刺激シ筋骨ノ運動ヲ惹キ起スコトアルナリ、故ニ意識  
 ノ發達スルコト大ナルニ從ヒ觀念ハ益々外物ノ刺激ト筋骨ノ運動トノ中間ニ介マ  
 リ大ニ二者ノ關係ヲシテ複雜ヲ極メ其ノ間ニ直接ノ關係ヲ發見シ能ハザルコト  
 往々是レアリ、其ノ故ハ人類ニ於テハ意識ノ働き最モ大ナルハ假令外物ノ刺激腦  
 中ニ傳ハルト雖モ直チニ之ニ反動スルコトナク腦中ニ於テ其ノ刺激ヲ吸收シ後チ  
 自發的ニ活動スレバナリ、

腦ノ禁制ノ事——抑モ腦中ノ禁制トハ何ソヤ、試ミニ一小蛙ノ腦ヲ取り出し之  
 レニ何物ヲモ觸接セシメズシテ置クトキハ少シモ活動スルコトナシト雖モ若シ  
 外物ノ刺激ヲ與ヘン乎、直チニ之レニ反動シテ手足ノ活動ヲナス可シ、之ニ反シテ  
 腦ヲ有スル蛙ハ其ノ反動シテ活動スルコト前者ノ如ク著シキモノニ非ルナリ、又  
 人類ノ睡眠シ腦髓働カザルトキ若クハ髓脊ノ一部麻痺シテ外物ノ刺激ヲ腦髓ニ  
 傳ヘザルトキハ僅カニ外面ヲ刺激スルモ直チニ反動ヲ生シテ屢々痙攣ヲ來スコト  
 アルナリ、然ルニ麻痺スルコトナク又睡眠セザルトキハ腦髓活潑ニシテ外物ノ刺  
 激アリト雖トモ直ニ反動スルコトナク、忽チ其ノ刺激ハ腦中ニ消失スル如ク見ユ  
 ルモノナリ、左レバ腦髓ニシテ働カザルトキハ刺激ト反動トノ關係單一ニシテ明  
 カナリト雖トモ之ニ反シテ腦髓働クトキハ外物ヨリ刺激ヲ受クルト雖モ之ヲ禁  
 止スルモノ、如シ、此現象ヲ稱シテ腦髓ノ禁制ト云フ、

身軀ト精神ノ一致——前述セル所ハ精神ト身軀トチ假リニ區分シテ見タルモ  
 ノナリト雖モ其ノ實スク區別セラルハモノニ非レバ一步ヲ進メテ人ノ全軀ニ於  
 ケル活動ノ有様ヲ述ベザルヲ得ズ、然レトモ精神ノ説明ハ後章ニ譲リ、心理學ニ密  
 着ノ關係ヲ有スル左ノ四點ニ就キテ其ノ大意ヲ陳述セントス、即チ五官、腦髓、意識  
 及ヒ筋骨是レナリ、夫レ身軀ハ精神ノ活動ヲ助クル器械ナリトハ普ク稱スル所ナ  
 リト雖モ此說タル一方ニ偏スルノ嫌ナキ能ハズ、何トナレバ他ノ一方ヨリ觀察ス

レバ精神ナルモノハ又身軀ノ活動ヲ助クルモノナリト云フモ不可ナクレバナリ、  
 換言スレバ精神ト身軀トハ相須ツテ始メテ完全ナルモノナリ故ニ精神ト身軀ト  
 ハ如何ニ相助ケ合フヤノ理ヲ知ルハ人ノ人タル所以ヲ知ルモノト云フ可シ、  
 單一ナル刺激及ヒ感覺——身軀ノ構造ハ總テ細小ノ細胞ヨリ成ル如ク精神ノ  
 組織ハ最モ單一ノ感覺ヨリ成ルモノナリ例ヘバ一點ノ光線眼中ニ入ルトキハ光  
 ノ感覺ヲ生シ又一ノ木片ヲ以テ體ノ表面ヲ刺激スルトキハ一ノ感覺ヲ惹キ起ス  
 ガ如シ此單一ナル感覺ハ物理的ニ云ヘバ外物ノ刺激ナリト雖モ精神的ニ云ヘバ  
 感覺トナル故ニ外物ノ五官ニ觸ル、ト云フモ又精神中ノ感覺ト云フモ畢竟同一  
 物ノ兩面ヲ云フノミ其ノ同一物トハ何ゾヤ神經ノ働キ是レナリ、外物ノ五官ニ接  
 觸スルトキハ神經ハ其ノ爲メニ刺激ヲ受ケ又神經ノ刺激サル、トキハ精神ノ感  
 覺ヲ生スルナリ故ニ神經ノ刺激ハ一方ニ於テハ外物ノ接觸ト直接ノ關係ヲ有シ、  
 他ノ一方ニ於テハ精神ノ感覺ト直接ノ關係ヲ有ス、是レ神經ノ働キハ精神活動ノ  
 基礎タル所以ナリ而シテ外物ト神經トノ關係ハ後篇ニ譲リ今神經ノ働キト精神  
 現象トノ關係ニ就キ少シク左ニ説明セン、

印象及ヒ腦ノ變更——神經ハ一度刺激サル、ヤ其ノ刺激ヲ腦髓ニ傳ヘ腦髓ハ  
 直チニ是レニ反動シテ筋ノ運動ヲ生セシムルコトアリ、或ハ其ノ刺激ヲ禁止スル  
 コトアリ、而シテ其ノ反動スルト禁止スルトヲ問ハス神經ヨリ來レル刺激一度腦  
 髓ニ傳ハルトキハ細胞ノ組織ニ於テ變更ヲ生ズルナリ、例ヘハ山上ニ雨降リ山腹  
 ニ沿フテ流下スルトキハ山腹中最モ低キ所ニ流レテ尙ホ其ノ處ヲ低カラシム故  
 ニ低キ所ハ益、低クナリ、斯ノ如クスルコト數度ニ及ビ終ニハ谷川トナルナリ、是レ  
 其ノ雨水ノ一度流下スル毎ニ山腹ノ表面ニ些細ノ變更ヲ生スルコト屢ナリシニ  
 由ル之レト同シ理ニヨリテ腦髓ハ神經ノ刺激ヲ受ケテ其ノ組織中ニ變更ヲ生ズ  
 ルナリ、而シテ其ノ變更或ハ永久腦中ニ存在スルコトアリ、或ハ直チニ腦中ニ於テ  
 消滅スルコトアリ、其ノ永久腦中ニ存在スルトキハ即チ記憶トナルナリ、斯ノ如ク  
 シテ單一ナル神經ノ刺激ガ單一ナル精神ノ感覺ヲ惹キ起シ、或ハ記憶トナリテ腦  
 中ニ存スル如キコトハ下等ノ動物若クハ小兒ノ生活ニ於テモ同様ノ事ニシテ實  
 ニ精神活動ノ元始ナリト云フ可シ、然リ而シテ神經ノ刺激ヲ受クルコト數度ニ及  
 ベバ腦中ノ變更ハ漸次ニ複雑トナリ、隨テ精神ノ活動モ亦大ニ複雑トナルナリ、其

ノ時ニ至リ腦中ニ生シタル變更ハ單一ナル刺激ノ印象相重ナリテ成リタルモノ  
 ナレバ既ニ複雜ナリト雖モ其ノ各個ノ印象ハ元來ノ形ヲ維持シ之ヲ失フコト甚  
 ダ稀レナリ故ニ此點ヨリ言ヘバ白紙ノ上ニ文字或ハ繪畫ヲ重テ印刷シタルト  
 大ニ異ナリテ幾度其ノ神經ノ印象ヲ重ヌルモ互ニ之ヲ區別スルコトヲ得ルナリ  
 然リ而シテ此等數多ノ印象ハ互ニ秩序ヲ正シ連絡シテ存ス若シ其ノ中ノ一ツノ  
 印象ヲ刺激シテ活動セシムルトキハ其ノ他ノ印象モ亦引キ續キテ活動スルモノ  
 ナリ試ミニ一個人アリテ其ノ人ノ耳目ヨリ單一ナル刺激ヲ受クルトキハ管ニ其  
 ノ刺激ニ對スル單一ナル感覺ヲ生スルノミナラズ共ニ連絡スル數多ノ印象モ亦  
 同時ニ活動シテ是等ノ印象ニ對スル感覺ヲモ惹キ起シ複雑ナル精神ノ活動ヲ生  
 ズルナリ例ヘバ鐘ノ音ハ單一ナル聽神經ノ刺激ヲ惹キ起スト雖モ一度其ノ音ノ  
 耳朶ニ達スルヤ管ニ音響ノ感覺ヲ生スルノミナラズ火事ハ何レニアルヤ其ノ邊  
 ニハ我カ友人ナキヤ何某ノ家屋ハ安全ナルヤ等其ノ他種々ノ感覺ヲ惹キ起シ人  
 テシテ激動セシムルニ至ル上ニ述ブル所ヲ以テ見レバ始メ生活ノ極メテ單一ナ  
 ルトキハ一ツノ刺激アレバ必ズ夫レニ對スル單一ナル感覺アリト雖モ生活ノ益

複雜ナルニ從ヒ印象相重ナルコト多クナリ隨テ些少ナル激動ノ爲メニ複雜ナル  
 精神ノ活動ヲ惹キ起スニ至ルモノナリ

觀念ノ生存競争——刺激ト反動トハ相分離スベカラザルモノナリト雖モ腦髓  
 ニ禁止スルコトアルガ故ニ假令刺激アルモ直チニ反動ノ現ハレザルコトアリ斯  
 ノ如キ場合ニ於テハ彼ノ刺激ノ腦髓ニ達スルヤ精神中種々ノ觀念ヲ惹キ起シ是  
 等ノ觀念ハ互ニ生存競争ヲ始ムルナリ其ノ生存競争トハ所謂思慮スルコトニシテ  
 彼レ是レ思ヒ廻ラステ云フ試ミニ或ル人父母ノ家ヲ離レ遠國ニアリテ商業ニ從  
 事スルト假定セヨ一日故郷ヨリ電報來リ報シテ曰ク父大病ナリ早ク歸レト此電  
 報ヲ一讀スルヤ眼ヨリ入り來ル刺激ハ僅カニ十五字ノ假名ニ過ヤズト雖モ其ノ  
 報知一度精神ニ達スルヤ俄カニ種々ノ觀念ヲ惹キ起シ一方ニ於テハ直チニ父ノ  
 許ニ歸ラントスルノ觀念ハ動神經ノ助ケニヨリテ手足ヲ動カシメ歸國スルノ用  
 意ヲ爲サントス其ノ時又他ノ一方ニ於テハ若シ今直チニ歸國セバ商法上大ニ損  
 失ヲ來ス恐レアリ故ニ今一日ヲ猶豫セントノ觀念起リテ歸國スルコトニ反對ス  
 又他ノ一方ヨリ損失ノ如何ニ大ナルニモ拘ラス片時モ速カニ父ノ許ニ歸ルベシ

トノ觀念起リテ競争ヲ試ム、斯ノ如ク競争スルコト數分時間ニシテ此等ノ觀念中一ツノ觀念ハ、其ノ他ノ觀念ニ打テ勝ツベシ爰ニ於テカ競争終リ思想定ルナリ、有意ノ活動——抑モ觀念ハ活動シテ絶エズ意識中ニ新陳代謝スルモノナリ、而シテ是レニ一定ノ法則アリ、觀念ヲ意識中ニ呼び起スニ二様ノ方法アリ、即チ同伴法ニヨリテ他ノ觀念ノ爲メニ惹キ起サル、コトアリ、又新ニ五官ヨリ來レル神經ノ刺激ニヨリテ惹キ起サル、コトアリ、然リト雖モ其ノ惹キ起サル、ノ方法何レニアルモ既ニ意識中ニ顯ハレタルトキハ其ノ性質ニ於テ違フ所ナシ、觀念ノ一度意識中ニ現ハレ出ヅルヤ既ニ論シタル如ク種々ノ觀念互ニ競争ヲ爲シテ後一ツノ觀念他ノ觀念ニ打テ勝ツナリ、是レヲ決心ト云フ、故ニ心中意ヲ決スルヤ唯一ツノ觀念意識中ニ存在ス、此觀念ノ働キニ二様アリ、即チ同伴ノ法ニヨリテ他ノ觀念ヲ惹キ起スコトアリ、又其ノ觀念直チニ動神經ニ働キテ身軀ノ活動ヲ爲サシムルコトアリ、斯ノ如ク觀念ノ刺激ニヨリテ身軀ノ活動ヲ生スルトキ之ヲ有意ノ活動ト云フ、是レ心理學全體ヲ簡單ニ陳述シタルモノニシテ本書ニ於テ論セシトスルノ範圍ト其ノ趣旨ノ大體ヲ示シタルモノナレバ尙ホ本書ノ全章ニ於テ其ノ詳細

ヲ論述セシトス。

言葉ノ定義——觀念トハ意識中ニ現ハレタル諸現象ヲ云フ、而シテ觀念ニ單一ナルアリ、又複雑ナルアリ、感覺ノ如キハ最モ單一ナルモノニシテ五官ニ觸ル、モノヲ其ノ儘、意識中ニ受ケ入レタルモノナリ、情緒ノ如キハ複雑ナル觀念ナリ、例ハ花月ヲ見テ心中愉快ヲ感スルハ嚴冬ニ火ヲ以テ體ヲ暖ムルノ感覺トハ大ニ違フモノナリ、蓋シ花月ニヨリテ得タル感覺ハ必ズシモ多クノ快樂ヲ生スルニ非ズト雖モ此感覺ハ惟ニ花月ニ止マラズ同伴法ニヨリ其ノ他ノ多クノ觀念ヲ惹キ起スガ故ニ大ニ複雑トナルナリ、彼ノ安部仲磨紀元一千年三百(日本)亦實ニハ日本ニハ西曆ヲ用カ唐ニ在リテ月ヲ眺メタリシトキハ其ノ心中實ニ月ヲ認識セシノミナラズ其ノ月ニヨリテ春日ナル三笠山ヲ思ヒ出ダシ、夫レヨリ己ガ家ノコト迄モ思ヒ出ダスニヨリテ遂ニ彼ノ

天の原ふりさけ見れば春日ある

三笠の山に出でし月かも

ノ歌ヲ詠ムニ至リシコトナラン、然リ而シテ物質世界ハ千變萬化セル物質的現象

ヨリ成ル如ク精神世界ハ千種萬類ノ觀念ヨリ成ルモノナリ、  
同○伴○法○トハ種々ナル觀念相互ニ聯合スル法ニシテ即チ多數ノ觀念意識中ニ新  
陳代謝スルノ順序ヲ整フルノ法ヲ云フ

意○識○トハ一種ノ能力ニ非ズ、精神界ノ現象ヲ總括シタルモノナリ、譬ヘバ空間ハ  
物質ノ現象ヲ含有スルモノナルガ如ク意識ハ精神ノ現象ヲ含有スルモノナリ

精○神○トハ英語ノ「メンタル」或ハ「サイキック」ナル語ト同意ニシテ物質的現象ニア  
ラザルモノ、總名ナリ、而シテ通常活潑ナル人ヲ指シテ精神ノアル人ト云ヒ或ハ  
議論ノ勢ヒ及ビ方針ヲ指シテ議論ノ精神ト云フト雖トモ本書ニ於テ用フル精神  
トハ是等ノ義ニアラザルナリ、

感○覺○トハ外物ノ五官ニ接觸シ或ハ筋ノ收縮ニヨリテ惹キ起サレタル神經ノ動  
作ヲ云フコトアリ、又其ノ神經ノ動作ニヨリテ惹キ起サレタル精神ノ動作即チ單  
純ナル觀念ヲ云フコトアリ、本書ニ於テ用フル所ハ第二ノ意味即チ外物ヨリ惹キ  
起サレタル單純ノ觀念ヲ表ハスモノナリ、

智○力○トハ複雑ナル觀念相互ノ比較及ビ關係ヲ示スモノニシテ別ニ一種ノ勢力

アルニ非ズ、唯觀念ノ現ハル、一種ノ形狀ニ過キザルナリ、

情○緒○トハ複雑ナル觀念ノ動作ヨリ起レル苦○或ハ樂○ノ感覺ヲ云フ

意○志○トハ一種ノ勢力ニアラズ、唯種々ノ觀念ガ生存競争シテ終ニ一ツノ觀念其  
ノ他ニ打チ勝ツトキハ其ノ觀念ガ動神經ニ刺激ヲ與ヘ筋骨ノ運動ヲ生ズ、斯ノ如  
キ動神經ニ於ケル觀念ノ刺激的作用ヲ云フ、

五○官○ナル語ハ昔時學術進步セザルトキニ於テ耳、目、口、鼻、皮膚ノ五官ノミガ外物  
ヨリ腦ヲ刺激スル門戸ノ如ク思フヨリ終ニ五官ノ名ヲ下シタルナラン、然レドモ  
其ノ他ニ筋肉收縮ノ感飢、渴ノ感、疲勞ノ感等ノ如キハ皆神經ノ周圍ヲ刺激スルヨ  
リ起ルモノナレバ本書ニ於テハ五官トハ惟、彼ノ耳、目、鼻、口、皮膚ノミニ限ラズ總テ  
神經ノ邊端ヲ含有スル總名トシテ用フルモノナリ、

心○理○學○ト諸學トノ關係——心○理○學○ト哲學トハ大ニ異ナルモノナリ、心理學ハ人  
ヲ研究スル學ニシテ哲學ハ萬有神靈及ビ人間ノ存在スル根元ヲ研究スル奧妙ノ  
學ナリ、然リト雖モ是等ノ二學屢、同一視サレタルハ其ノ理ナキニ非ズ、心理學研究  
ノ方法明カナラザルトキハ世人心理ヲ研究スルニ外界ノ事實ヲ利用スルコトナ



頃

ク自己ノ想像ヲノミ重モナル基本トナセリ故ニ世人ハ哲學ト同ク心理學ヲシテ形而上ノ學ニ位セシメ是等二學ヲ同一類ノモノナリト見做スニ至リタルナリ然レトモ心理學ハ全ク形而上ノモノニ非ズ寧ロ形而上ノ學ト形而下ノ學トノ間ニ跨リテ二者ノ關係ヲ定ムルモノナリト云フベシ

心理學ト科學トハ密ナル關係アリ佛國ノ碩學こんど氏ハ總テノ學ヲ大別シテ六トス之ヲ簡單ヨリ始メ複雜ニ移ルノ順序ニ數フレバ即チ數學、星學、物理學、化學、生物學、社會學是レナリ而シテ氏ハ心理學ヲ生物學ノ一部トナシタリ故ニ氏ノ說ニ依レバ心理學ハ生物學ト直接ノ關係ヲ有シ該學中最モ高尚ナルモノナリ氏ハ心理學ト哲學トハ殆ント關係ナキガ如ク説ケリ是レ素ヨリ少シク偏スルノ傾キアリト雖モ心理學ト科學ノ關係ニ至リテハ氏ノ解説明白ニシテ著者ノ大ニ感服スル所ナリ

心理學ハ生物學中最モ複雜ナリト雖モ社會學ニ比スレバ稍簡單ナルモノナリ夫レ一個人ハ社會ヲ組織スル元素ナリ去レバ元素ノ性質ヲ知ラズシテハ社會ノ組織ヲ了解スル能ハザルヤ明カナリ世人心理學ヲ知ラズシテハ社會ノ運動ヲ研究

シ或ハ之ヲ改良スル能ハズ社會ノ組織ハ人間ノ性質ニ適セザル可カラズ然ラザレバ如何ニシテ良好ナル社會ヲ組織シ得ルノ理アラシヤ比喻ヲ以テ之ヲ説明セシテ顔ノ表出ハ其ノ精神ノ有様ニ關ス内ニ快樂アレバ自ラ顔色爽快ナリ之ニ反シテ内ニ苦痛アルトキハ外貌モ亦自ラ之ニ準ズ顔ノ容貌ハ精神ノ有様ニヨリテ變ズ社會活動モ亦之ヲ組織スル一個人ノ精神ニヨリテ大ニ變スルモノナリ故ニ社會ノ組織ハ其中ニアル一個人ノ精神ヲ表出スルモノナリ社會現象ト精神現象ト密ニ相關スル斯ノ如シ

### 感覺

#### 第一章 五官

吾人ノ身體ヲ組織スルニハ種々ノ細胞アリ、又纖維アリ、然リト雖モ其ノ中精神ニ直接ノ關係ヲ有スルハ神經ノ系統是レナリ、神經系統ナルモノハ腦髓、脊髓及ヒ其ノ他ノ神經ヨリ成ルモノニシテ、腦髓ト脊髓トヲ合シテ之ヲ腦脊髓或ハ神經系統ノ中心ト云フ、而シテ脊髓ヨリ出テ身體ノ所々ニ配布スル神經ヲ脊髄神經ト云ヒ、又面部及ヒ頭部ノ神經ハ腦髓ヨリ直接ニ出テ來ルモノナレバ腦神經ト云フ、腦神經ト脊髓神經トハ神經系統ノ中央ヨリ起リ、耳目、鼻、口、皮膚及ヒ筋肉ニ至リテ終ルモノナリ、之ヲ車輪ニ譬フレバ、腦脊髓ハ恰モ轂ニシテ、神經ハ猶ホ輻ノ如シ、故ニ神經ノ耳目、鼻、口等ニ於テ終ル處ノ邊端ヲ稱シテ神經ノ周圍ト云フモ、敢テ不可ナカラルベシ、

神經二種ノ別——神經ニ二種ノ區別アリ、感神經及ヒ動神經是レナリ、感神經トハ

神經ノ周圍ニ受ケタル刺激ヲ中央ニ傳フルノ機關ニシテ、動神經ハ中央ニ於テ受ケタル神經ノ刺激ヲ筋肉ニ傳ヘ其ノ收縮ヲ惹キ起ス爲メノ機關ナリ、去レバ感神經ハ五官ニ接觸シタル外物ヨリノ刺激ヲ受クルノ道路ニシテ、動神經ハ腦髓中ノ觀念ヲ外ニ現ハスノ機關ナリト云フ可シ、

刺激ノ種類——抑モ外物ノ神經ヲ刺激スルヤ種々ノ方法アリ、光線ノ身體ニ觸レテ、神經ヲ刺激スルヤ、聽神經又ハ臭神經ヲ刺激スルコトナク、唯視神經ヲ刺激シテ、精神中光リノ感覺ヲ生ゼシム、又音響ノ神經ヲ刺激スルヤ、唯耳ノ機關ニ由リテ其ノ目的ヲ達スルヲ得ルノミ、瓦斯體ノ物質直接ニ身體ニ觸レテ、神經ヲ刺激スルヤ、唯臭神經ヲ刺激スルコトヲ得ルノミ、化學的ノ作用ニヨリテ、神經ヲ刺激スルハ舌ノ機關ニ由リテ、之ヲ爲スコトヲ得ルナリ、斯ノ如ク五官中ニ各分業ノ法アリテ、各神經ハ其ノ特性ニ從フテ、外物ノ刺激ヲ受クルモノナリ、然リト雖モ、熱ノ刺激或ハ物體ノ接觸ヨリ惹キ起サル、所ノ刺激ヲ受クル如キハ、神經一般ノ通有性ナリ、ガ如シ、蓋シ身體ノ如何ナル部分ニ於テモ、熱ニ感ゼサル所ナク、又外物之ニ觸ル、トキハ感覺ヲ生ゼザルコトナク、レバナリ、而シテ、又筋肉ト神經トノ關係ハ二様ニ

區別セザルベカラズ、其ノ一ハ筋肉ト動神經トノ關係ニシテ筋肉ノ收縮スルニ於テハ缺クベカラサルモノナリ、其ノ二ハ筋肉ト感神經トノ關係ニシテ筋肉ハ動神經ノ刺激ヲ受ケテ收縮シ、又其ノ收縮ニヨリテ感神經ニ刺激ヲ與ヘ、面シテ筋肉ノ感ト稱スル一種ノ感覺ヲ惹キ起スモノナリ、

神經細胞——凡テ神經ハ二種ノ物質ヨリ成ル、灰白質及ヒ白質是レナリ、腦神經、脊髓神經及ヒ脊髓ニ於テハ白質外面ニ在リテ灰白質内部ニ在リ、(第一及ヒ第二圖ヲ見ヨ)之ニ反シテ腦ニ於テハ灰白質ハ外部ニアリテ白質ハ内部ニアルナリ、腦ノ迂廻ハ即チ灰白質ヨリ成レリ(第七圖ヲ見ヨ)而シテ之ヲ其ノ構造ヨリ區別スレバ白質ハ重モニ纖維ヨリ成ルモノニシテ灰白質ハ重モニ細胞ヨリ成ルモノナリ、實ニ精神ノ働キニ直接ノ關係ヲ有スルモノハ此灰白質ノ細胞ナリ、而シテ是等細胞ノ形狀一ナラズ、腦中ニ存スルモノハ脊髓中ニ存スルモノト自ラ其ノ形狀ヲ異ニス、又脊髓中ト雖モ處ノ異ナルニ從ヒ其ノ形狀ヲ異ニスルナリ、今圖ヲ以テ之ヲ示サソ、

第三圖ハ鷲ノ嘴ヨリ取リタル細胞ナリ、第四圖ハ牛ノ背髓ヨリ取リタルモノナリ

第一圖



一、軸  
二、ランプイルノ窪  
三、核  
四、「スクラム」ノ鞘

リ、第五圖ハ觸

覺神經ノ邊端

ニアルモノナ

リ、第六圖ハ網

膜ニアリテ光リノ感覺

ニ直接ノ關係ヲ有スル

細胞ナリ、第八圖ハ腦ノ

外面ニアル灰白質ノ細

胞ナリ、

細胞ノ活動——右ノ

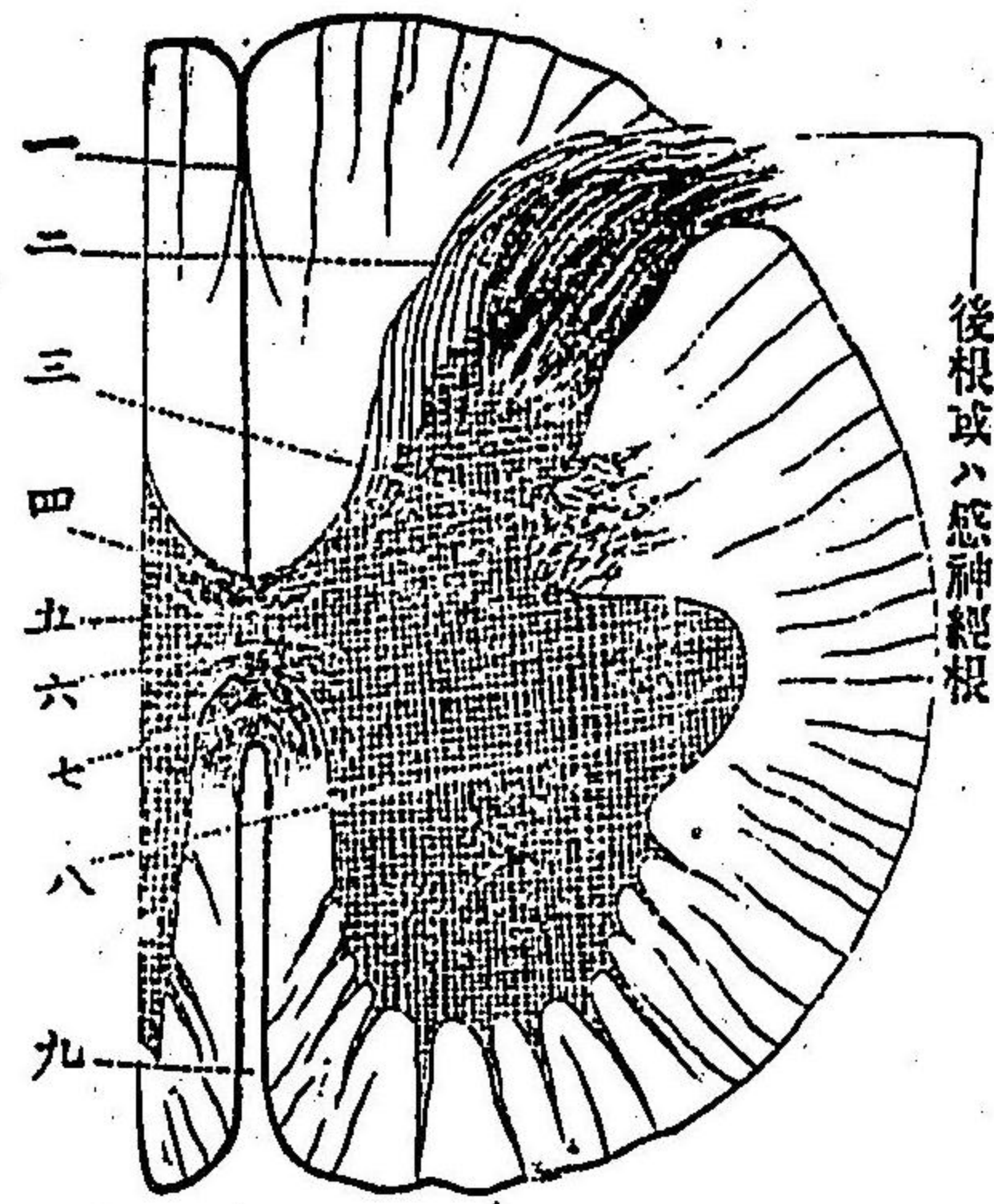
如ク其ノ形狀種々ナリ

ト雖モ總テ刺激ニ感シ

易キ通有性ヲ有スルモ

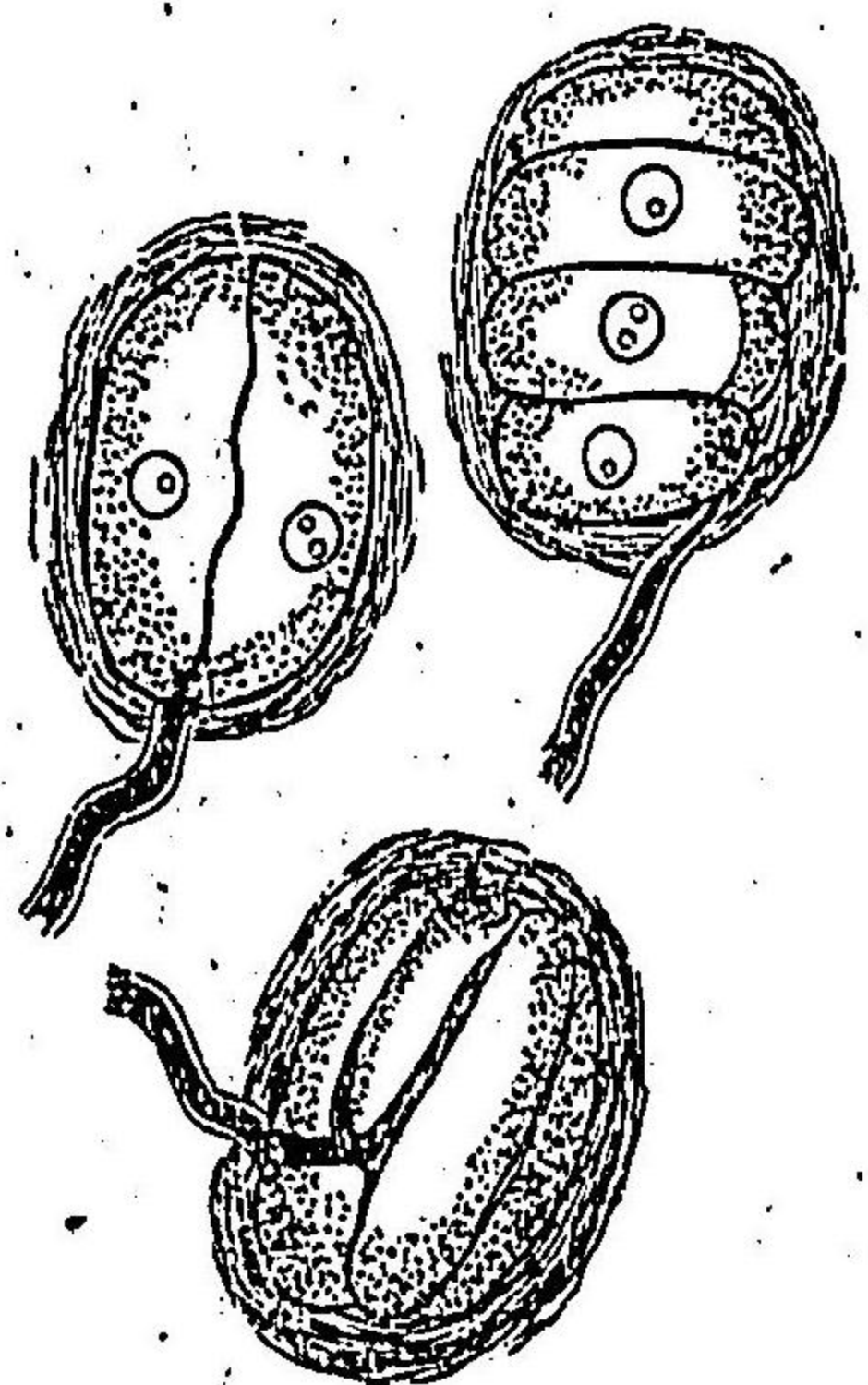
ノナリ、故ニ外物ノ五官

第二圖

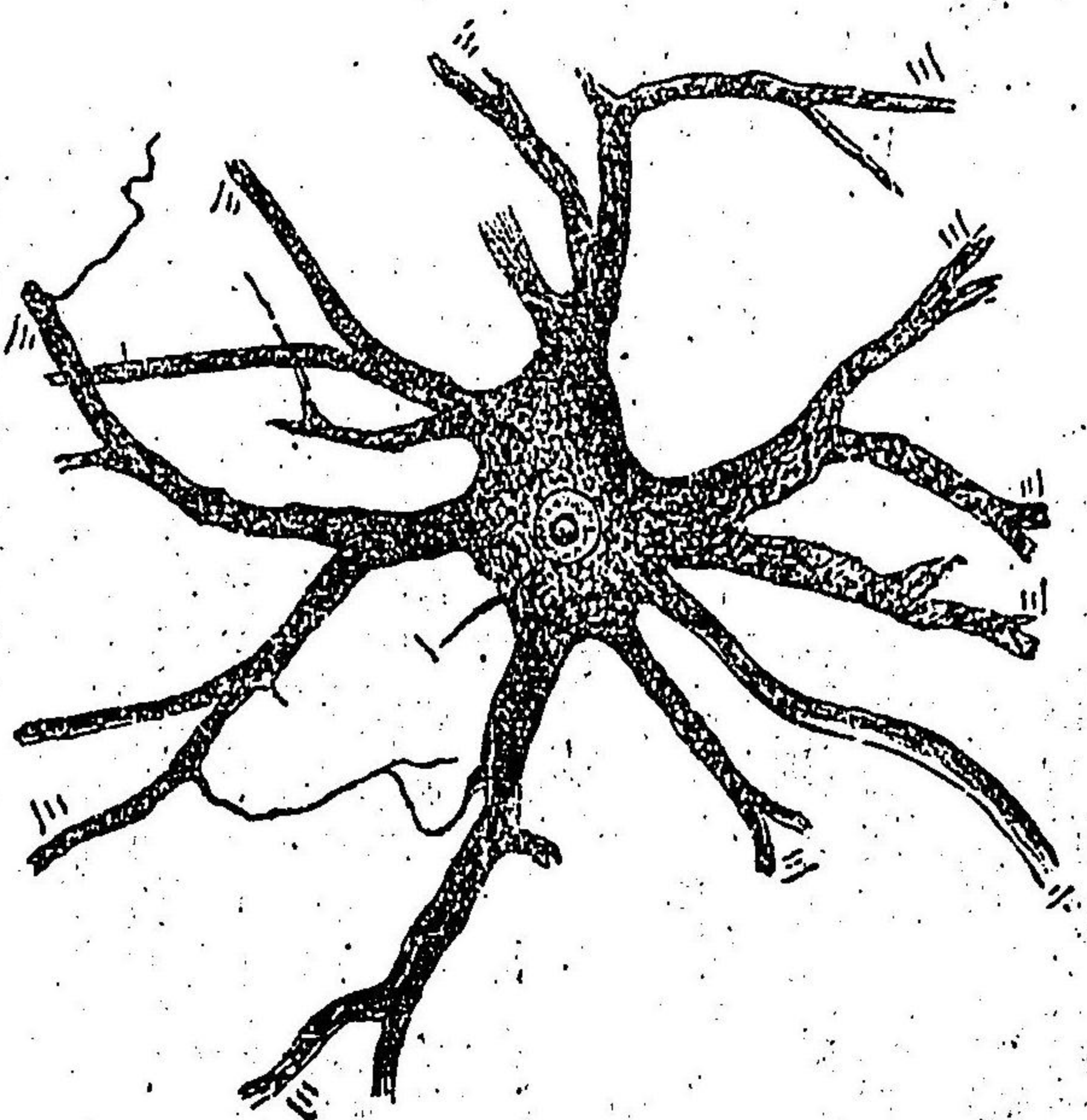


一、後中央線裂  
二、ロランド膠質  
三、網狀質  
四、後縫  
五、中央溝  
六、前縫  
七、同  
八、側角  
九、前中央線裂

第三圖



第四圖

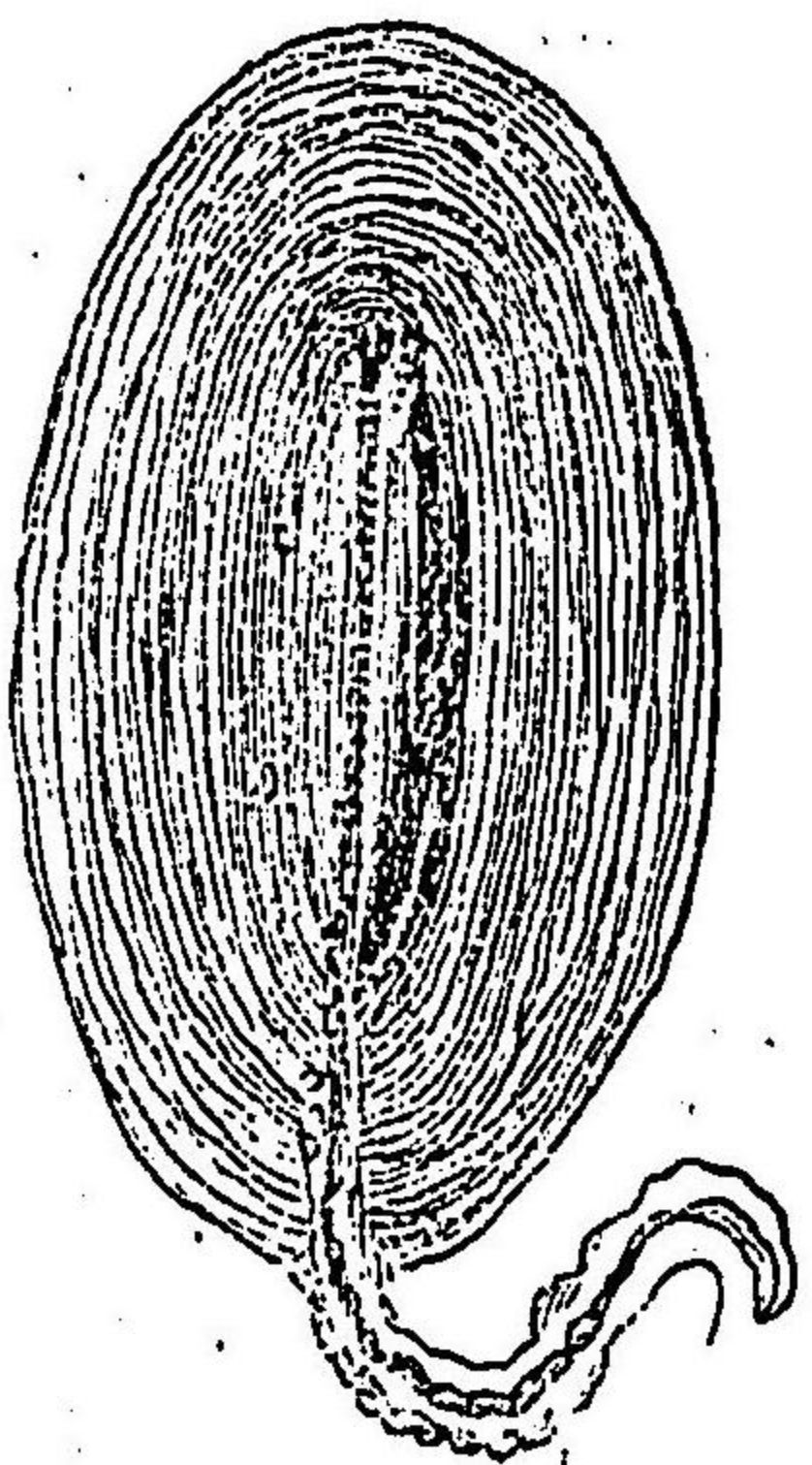


一、核  
二、神經軸  
三、細胞枝

ニ觸ル、ヤ先ヅ五官中ノ細胞ニ刺  
激ヲ與ヘ、次ニ神經ヲ傳フテ腦中ノ  
細胞ニ刺激ヲ與フルナリ、而シテ腦  
ノ細胞一度刺激ヲ受クルトキハ此  
ニ對スルニ様ノ反動アリ、其ノ一ハ  
今受ケタル刺激ヲ次ノ細胞ニ傳ヘ、  
夫ヨリ又次ニ傳ヘ終ニハ動神經ノ

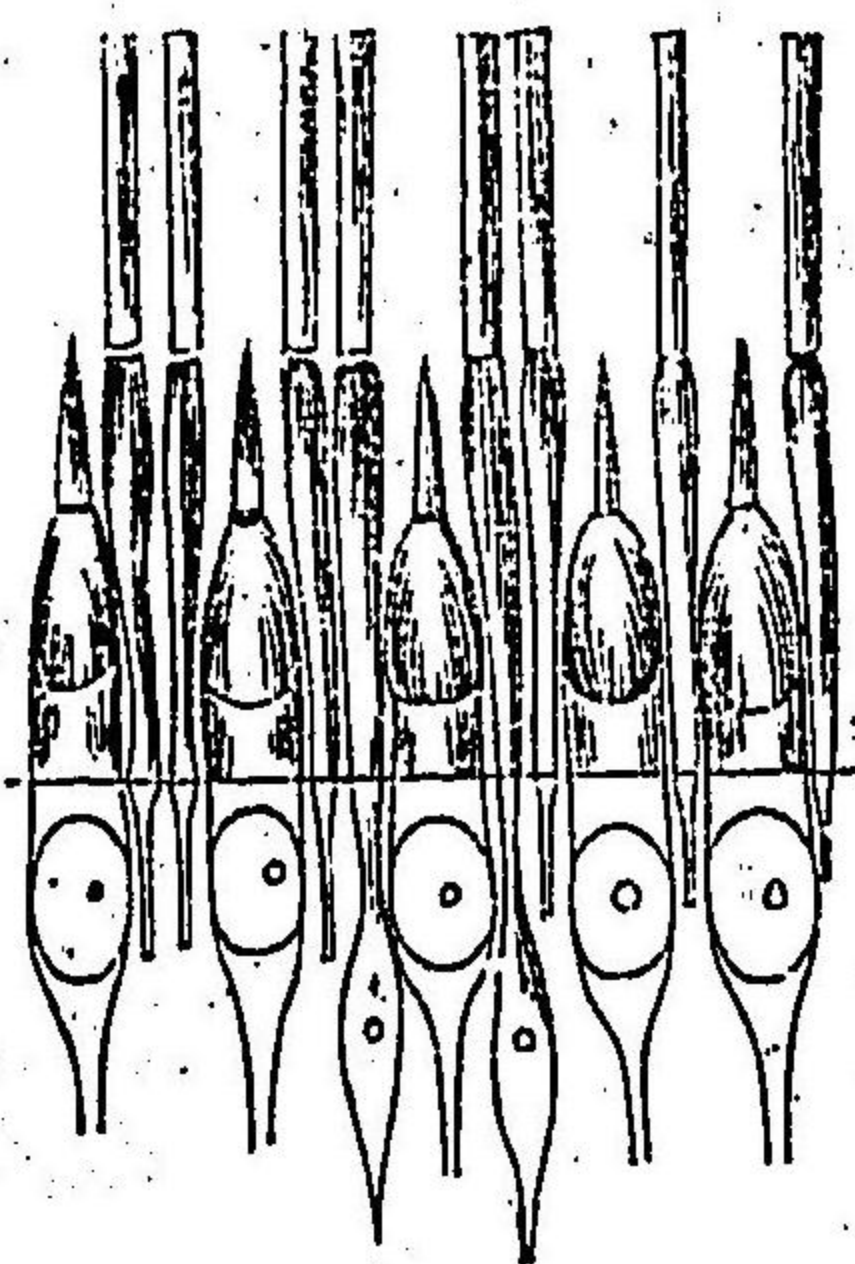
中央ヲ刺激シテ筋骨ノ運動ヲ生スルコト、其ノ二ハ細胞ノ刺激ヲ禁止スルコトニ  
シテ外ヨリ受ケタル刺激ヲ又他ニ傳フルコトナク細胞中ニ於テ其ノ刺激ヲ消滅  
スルコトナリ、熟、腦中ノ有様ヲ想像スルニ五官ハ絶エズ多少ノ刺激ヲ腦中ニ與フ  
ルコトナレバ處々ノ神經ヨリ刺激ヲ受クルコト恰モ多數ノ小流ノ諸方ヨリ絶エ  
ズ湖中ニ注入スルガ如シ、然リ而シテ其ノ刺激ノ小部分ハ直チニ腦ノ細胞ノ反動

第五圖



神經

第六圖



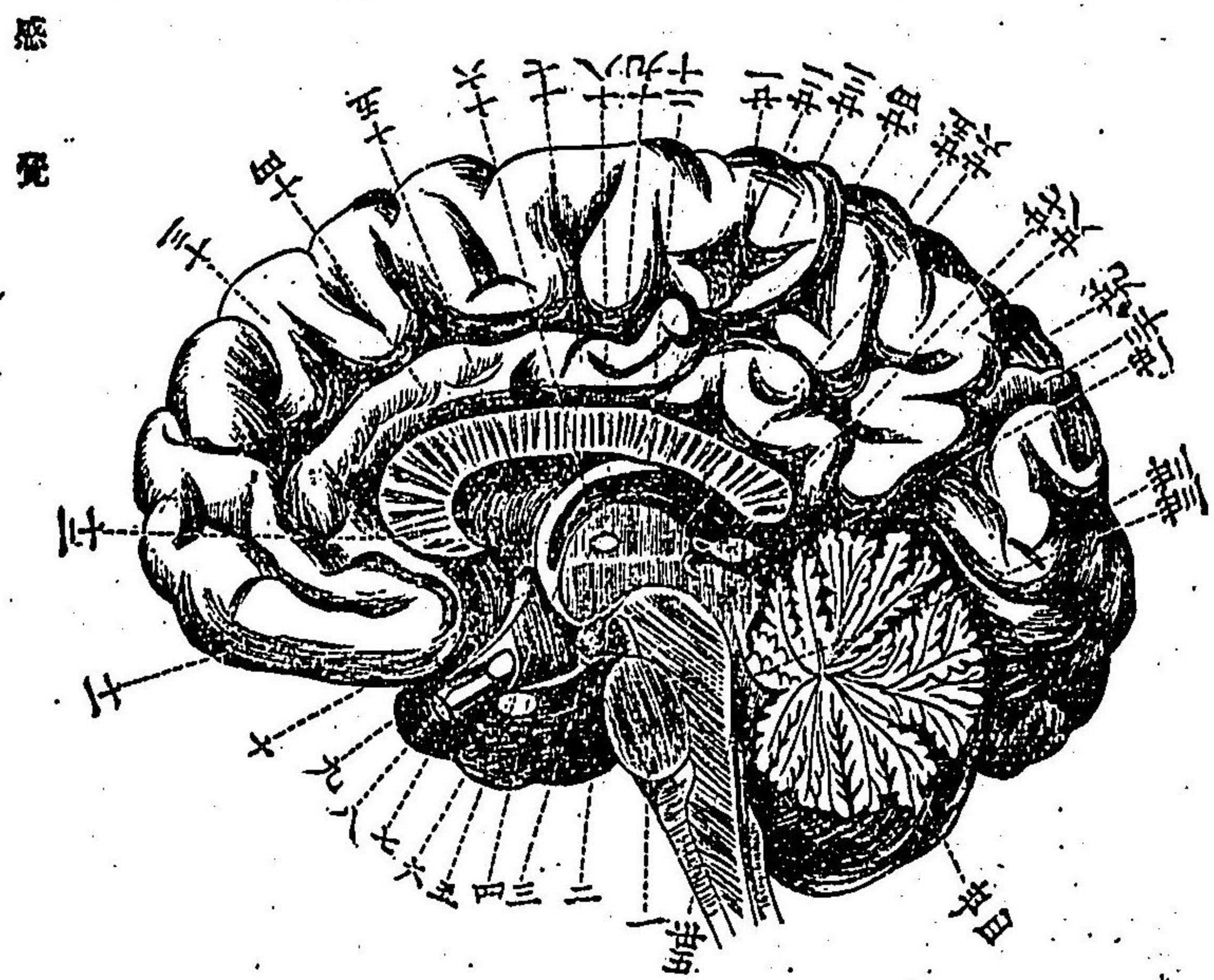
ニヨリテ動神經ノ刺激トナリ、他ノ部分ハ細胞ニ吸收セラレ其ノ處ニ消滅スルモ  
ノナリ、斯ノ如ク五官ヨリ刺激ヲ受ケ又同時ニ其ノ多分ハ皆消滅スルモノナレバ

腦中ハ恰モ絶エサル波瀾ノ動搖スル海面ノ如ク常ニ活動スルモノナリ而シテ腦髓ハ精神活動ノ基本ナレバ其ノ細胞ノ激動スル毎ニ必ズ精神ニ多少ノ感覺ナキ能ハザルナリ然リト雖モ無數ノ小感覺ハ或ハ激シテ瞬間モ確固タルコトナシ故ニ我等ノ精神中一々夫等ノ感覺ヲ認識スルコト能ハズト雖モ是等無數ノ感覺存在シテ精神現象ノ基本ヲナスコトハ確乎トシテ疑フ可カラザル事實ナリ尙ホ詳ニ其ノ理ヲ説明セン、

些細ナル無數ノ感覺——我等ノ身體ハ種々ノ勢力ニ由リテ圍繞セララル、モノナリ即チ音響、光線、熱、空氣、臭氣等ハ皆斷エズ我等ノ五官ニ觸レザルコトナシ又身體ノ外部ニ接近スル衣服アリ内部ニ血液等アリテ此等ハ絶エズ五官ヲ刺激スルハ物理學上ノ事實ナリト云フ可シ而シテ音響ノ如キハ絶エズ聽神經ヲ刺激スルモノナリト雖モ高キ音響ナルカ若クハ格別ノ注意ヲ用フルニ非レバ認識ノ範圍内ニ來ラズシテ腦中ニ消滅スルモノ甚ダ多シ又光線ハ絶エズ我等ノ視神經ヲ刺激スト雖モ其中唯少數ノ物ニ注意シテ之ヲ認識スルノミ又衣服ノ如キハ身體ニ觸レテ絶エズ刺激ヲ與フルト雖モ之ヲ認識スルコト甚ダ少シ時ニ新クナル衣服ヲ着

シ或ハ  
禮服ヲ  
着シタ  
ルトキ  
等ハ殊  
ニ衣服  
ノ感覺  
ナルモ  
ノヲ覺  
ユルナ  
リ此ノ  
衣服ノ  
感覺ハ  
些細ナ

第七圖



- 一、マロウ橋
- 二、...
- 三、粘液腺
- 四、内障眼
- 五、...
- 六、海馬片
- 七、鈎迂回
- 八、視神經
- 九、パイプ絛
- 十、前絛
- 十一、前絛迂回
- 十二、モンロー孔
- 十三、前絛迂回
- 十四、肝臟體
- 十五、突隔
- 十六、中絛
- 十七、橋脚
- 十八、穹隆體
- 十九、肝臟體邊緣裂
- 二十、視神經床
- 廿一、後絛
- 廿二、...
- 廿三、前中央迂回
- 廿四、ローランド溝裂
- 廿五、後中央迂回
- 廿六、...
- 廿七、松葉腺
- 廿八、...
- 廿九、...
- 三十、...
- 卅一、四邊體
- 卅二、...
- 卅三、前圓蓋
- 卅四、小腦
- 卅五、第四室

第八圖



ルガ如クニ見ユルト雖モ教育上大ニ緊要ノ關係ヲ有スルモノナリ若シ身軀ヲ纏  
 フ衣服極メテ醜惡ナルトキハ其ノ精神モ亦自ラ懶惰ニシテ德義ヲ守リ謹嚴正確  
 ナル能ハス之ニ反シテ衣服正シク身體ノ舉動モ亦嚴格ナルトキハ精神自ラ義ニ  
 適フモノナリ佛國ノ一詩人机上ニ對スルトキハ常ニ正服ヲ着シ舉動ヲ嚴格ニシ  
 テ詩ヲ書クコトヲ努メタリト聞ケリ又身體中臟腑ノ感覺アリ養分ハ皆腹部ヨリ  
 來ルモノナレバ腹部ハ猶ホ草木ニ於ケル根本ノ如シ故ニ腹部ヨリ來ル感覺ハ精  
 神活動ノ基本タルナリ老子言ヘルコトアリ曰ク聖人之治虛其心實其腹ト蓋シ腹  
 部ニ不滿アルトキハ自然精神ヲ苦シメ平穩ノ活動ヲ妨グルコト其ノ例少ナカラ

ズ又身體壯健ナルトキハ全體ニ快樂ノ感覺其ノ他種々ノ感覺アリト雖モ一々之  
 ヲ認識スルコトナシ唯感覺非常ニ強壯ナルトキ若クハ身體中病アルトキノミ所  
 々ニ苦痛ヲ覺ユルナリ即チ頭痛ノ如キ腹痛ノ如キ是レナリ是レ決シテ壯健ナル  
 中ニ於テ感覺ナキニ非ズ唯壯健ナルトキニハ快樂ノ感覺アリテ其ノ感ハ苦痛ノト  
 キノ如ク明カナラザルガ故ニ之ヲ認識セザルノミ

### 第二章 感覺ノ結合

知覺ノ時間——前章ニ於テ感覺ハ精神活動ノ基本ニシテ無數ノ感覺ハ恰モ蒼  
 海ノ波濤ノ如ク漸ク起リテ漸ク消ヘ腦中絶エズ不穩ノ状態ナルコトヲ述ベタリ  
 更ニ進ミテ本章ニ於テハ其ノ感覺ノ互ニ結合シテ尙ホ複雜ナル精神活動ヲ生ズ  
 ルノ方法ヲ述ベントス比喩ヲ以テ之ヲ説明セシニ通常ノ乾板ヲ用ヒ寫眞ヲ爲サ  
 ントシテ數秒時間之ヲ光線ニ晒スニ種々様々ノ形象絶エズ新陳代謝シテ其ノ板  
 面ニ映ルトキハ乾板ヲ發表スルニ當リ何ノ像ヲモ寫シ取リ得ザルコトナラン是

レ其ノ影像多クアリト雖モ一トシテ乾板ノ藥品ニ充分化學的變化ヲ生スルノ時間ナカリシガ故チリ之レニ反シテ或ル一物ヲ取リ其ノ影像ヲ映スコト數秒時間ニシテ後チ其ノ乾板ヲ發表スルトキハ明カニ其ノ物體ノ像ヲ板面ニ見ルヲ得ルナリ是レ彼ノ物體ヨリ來ル影像ガ乾板ノ藥品ニ充分ノ化學的變化ヲ生ジタルバナリ光線ガ乾板ノ藥品ニ些少ナル化學的作用ヲ生ジ其レヲ積ミテ終ニ物體ノ像ヲ板面ニ寫スニハ數秒ノ時間ヲ要ス夫レ光線ガ乾板ニ於テナス所ノ作用ハ亦光線ガ眼ノ網膜ニ於テナス所ノ作用ト何ノ異ナルアラザヤ光線眼中ニ入り網膜上ニ外物ノ影像ヲ映スト雖モ始メ網膜ノ細胞(第六圖ヲ見ヨ)ニ些細ノ變化ヲ生ジ精神ハ之ヲ認識スル能ハズ然ルトキ其ノ像去リ新ナル影像ガ網膜ニ來リ又漸ク去リテ次キノ影像此ニ來ル斯ノ如ク暫時ニシテ種々ノ影像交代シテ網膜ニ映ルトキハ到底其ノ一ヲモ認識スル能ハザルナリ然リト雖モ同影像ガ網膜ニ映リ細胞ニ些少ノ變更ヲ生ジ暫ク之ヲ重ヌレバ終ニ認識スルコトヲ得ルニ至ルモノナリサレバ物ヲ見テ之ヲ認識スルハ一瞬時間ノコトニ非ス始メ先ツ細胞ノ變更アリ又隨テ小感覺アリ之ヲ積ミ重テテ認識サルニ至ルモノナリ著者ノ實驗ニ由レ

バ西洋文字中讀ミ易キハ(M)ノ如シ(一)秒ノ千分ノ五位ニシテ認識スルヲ得ベシト雖モ讀ミ難キハ(S)或ハ(Z)ノ如シ(一)秒ノ千分ノ十五位ヲ經ルニ非レバ認識スル能ハザルナリ是レ最小時間ノ極端ニシテ文字ガ網膜ヲ刺激スル時間之ヨリ短カキトキハ精神之ヲ認識スル能ハザルナリ又漢字ヲ以テ試ムルニ一字ヲ一秒時ノ十分ノ一ツ、見ルノ割合ニテ引キ續キテ種々ノ文字ヲ讀マシムルニ漸ク二字位ヲ讀ミ能フモノアリ又認識速カナル人ハ三字若クハ四字位ヲ讀ミ能フト雖モ尙ホ其ノ上讀マントスルトキハ知覺分明ナラスシテ讀ミ能ハザルモノナリ一秒時ニ四字位ナレバ一々區別シテ讀ミ續クルコトヲ得ルナリ是ニヨリテ之ヲ見レバ眼ニヨリテ文字ヲ認識スルニ若干ノ時間ヲ要ス其ノ他ノ物體ヲ認識スルニモ亦若干時ヲ要スル推シテ知ル可キナリ

認識ト觀念——物ヲ認識スルニ必要ナルモノハ認識サル、外物及ビ之ヲ認識スル精神ナリ而シテ前者ニ就キテハ今著者ノ論スル所ニ非ズ後者ニ就キテハ尙ホ精密ニ之ヲ研究セントス物ヲ認識スルニ當リ精神ノ形狀ヲ問フニ既ニ論シタル如ク感覺ノ積重ヲ要ス換言スレバ感覺ノ結合シテ成リタル複雜ナル

觀念ノ存在ヲ要スルナリ故ニ我等ハ先ツ一般ニ觀念ノ性質如何ヲ究メザル可カラズ

心理學ノ目的——夫レ觀念ハ精神現象ノ本體ナリ、心理學ノ目的ハ即チ觀念ノ性質起源及ヒ其ノ活動スル法則ヲ研究スルニ外ナラス故ニ先ツ其ノ三者ヲ區別シ之ヲ説明セントスルナリ

第一、觀念ノ性質——觀念ノ性質ヲ論シ其ノ理ヲ詳ニセントスルハ哲學ノ範圍ニ屬スルモノナリ、心理學ハ唯其ノ全性質ノ一片即チ觀念ノ物質世界ニ關スル性質ヲノミ論スルナリ而シテ歴史ニ立チ戻リ簡單ニ此問題ニ關スル種々ノ論旨ヲ揭ケ後チ著者自ラ取ル所ノ説ヲ述ベントス

唯物論及唯心論——抑モ哲學ニ二派ノ別アルハ世人ノ熟知スル所ナリ、唯物論及ヒ唯心論是レナリ、前者ノ主唱スル所ハ萬有ノ本質ハ皆物質ニ在リト斷言スルニアリ、之ヲ歴史ニ徵スレバざりしヤノてもくりたす紀元前四九〇年内ニ生ルニ始マリ紀元前九九年ニ死スえびきゆーら紀元前二七〇年死スニ及ビる紀元前九九年ニ死スのるくれちやす紀元前九九年ニ死ス等ヲ經テ當時ノ物理學ニ基本ヲ置キタルナリ、之ニ反シテ後者即チ唯心論ノ主唱ス

ル所ハ萬有ノ本質ハ精神ノ觀念ナリト云フニアリ、而シテ紀元前四二九年ニ死スハ實ニ其ノ論ノ祖先ト言フモ誤リナキヲ信ス、ふれどうノ學派ハ基督教ト混サテ歐洲人ノ思想ヲ多年支配シタルハ歴史上ニ於テ明カナリ、又支那ニ於テハ孟子ノ萬有皆備於我矣ノ語ヲ以テ考フルトキハ彼ノ如キハ即チ此派ニ屬スルモノナラン、古代ニ於テ二派ノ分ル、コト斯ノ如シ、近世ニ至リテすびの紀元一六〇〇年六七七八ニヘーグニ死ス世ニ出テ大ニ思想界ニ變動ヲ與ヘタリ、氏ノ説ニヨレバ物質モ精神モ皆本質ニ非ズ、其ノ他ニ本質タル一物アリテ其ノ物が二様ニ現ハレ物質トナリ、又精神トナルモノナリ、此一物トハ即チすべんさーノ所謂不可思議物老子ノ所謂道ナリ、蓋シ老子ノ言ニ有物混成先天地生……字之曰道ト

心物相關論——又一種ノ説アリ、精神トハ物質ニ對シタルモノナリ、又物質トハ精神ニ對シタルモノナリ、恰モ上下相對シ、又左右相對シタルガ如シ、精神ナクシテ獨リ物質存在スルコト能ハズ、又物質ナクシテ獨リ精神存在スル能ハズト、夫レ然リ精神モ物質モ畢竟唯見様ノ異ナルニヨリテ然ルノミ、此説ノ意最モ深シ、著者ハ此説ヲ取ルモノナリ、精神モ見様ニヨリテハ客觀的トナリ、又外物モ見様ニヨリテ



ハ主觀的トナルモノナリ、彼ノ大江ノ千里ノ歌ニ

月みればちぢに物こそ悲しけれ

わが身一つの秋にはあらねど

月ガ何ソ悲ミテ惹キ起ス理アラシヤ、是レ唯月ヲ主觀的ニ見テ心中ニ存スル悲ミヲ月ニ歸シタルコトナラシ、之ニ反シテ主觀的ノ觀念ヲ客觀的ニ見ルコトアリ古今集ニ

山たかみ雲井に見ゆる櫻花

心の行きてをらぬ日そあき

トアリ、又胡蝶物語ニ鹿を逐ふ獵師ハ山を見ず、その心鹿にありて山にあらざればなりトアルナリ、斯ノ如ク歌人ノ觀念ハ全ク櫻花ニ獵師ノ觀念ハ全ク鹿ニアレバ是レ觀念ヲ客觀的ニ見タルモノナリ、是レニヨリテ之ヲ見レハ主觀ト云ヒ又客觀ト云フハ絶對的ノモノニ非ス寧ロ相對的ノモノナルヤ知ルベキナリ、

第二觀念ノ起源——觀念ハ總テ經驗ヨリ來リシモノナリ、然リト雖モ我等ノ觀念ハ悉ク一身ノ生涯中ニ得タル者ニ非ズ、我等ノ祖先ガ數萬年來漸次ニ積ミ重テ

タル者ヲ代々遺傳シテ終ニ今日ニ至リタルナリ、サレバ觀念發達ノ歴史ヲ研究スルハ心理學中別ニ一科ヲナスモノニシテ本書ニ於テハ之ヲ細論スル能ハザルナリ、夫レ小兒始メテ慈母ノ胎内ヲ離ル、ヤ當時其ノ外貌ノ動作ニ於テハ下等動物ト異ナルコトナシト雖モ腦中既ニ祖先ヨリ遺傳サレタル經驗アルガ故ニ小兒漸ク生長シテ事物ヲ學ブニ當リテハ精神ノ開發スルコト速カニシテ一二年ヲ經過セバ下等動物ヨリ遙カニ隔絶スル甚ダシキモノナリ、其ハ有様奧妙ニシテ恰モ神靈ノ體中ニ存スルガ如ク見ユルナリ、故ニふれど一ハ其ノ奧義ヲ説明セントシテ一種ノ想像說ヲナセリ、其ノ說ニヨレバ靈魂ハ人體ニ入ル前ニ天ニ遊ビ其ノ知識殆ンド神ニ等シ、然ルニ人體ニ入ルニ及ビテ肉ノ爲メニ智力ノ活動ヲ妨ゲラル、而シテ經驗ハ其ノ妨ヲ除去シ智力ノ活動ヲ漸々ニ恢復スルナリ、故ニ小兒ハ既ニ天ニ於テ有シタル前世ノ智識ヲ回復スルコトナシ、聊カノ經驗ニヨリテ速カニ精神ノ開發スルモ亦理ナラシト云フ、ふれど一ノ所謂天ニ受ケタル智識ハすべんさ一ノ所謂祖先ノ經驗ト暗ニ符合スルカ如シ、凡ソ精神現象中一トシテ經驗ヨリ來ラザリシハナシ、

觀念ノ聯合——斯ノ如ク經驗ヲ重テ觀念ノ集合スルニ於テハ一定ノ法則ニヨリ秩序ヲ正シテ聯合スルモノナレバ其ノ後甲ノ觀念活動スルトキハ此レト共ニ亦乙ノ觀念モ現ハレ出ヅルナリ例ヘバ

いかゞ山ぬべにさきたるはぎ見れば

君が家ある尾花しおもほゆ(高葉集村笠)

杯ハ此理ヲ含有スルモノニシテ萩ノ花ヲ見レバ直チニ友ガ家ナル花ヲ想ヒ出セシナリ夫レ花ハ萩ニモ尾花ニモ通シテ尾花ノ觀念ト其ノ花ノ在ル場所即チ友ガ家ノ觀念ト聯合シテ離ス可カラザルモノナレバ萩ノ花ヲ見レバ直チニ尾花ヲ想ヒ出ダシ又友ガ家ヲモ想ヒ出ダセシコトナラン是レ觀念同伴ノ法ニシテ尙ホ後章ニ於テ詳カニ論セントス

第三、觀念活動ノ法則——夫レ觀念ノ活動スルヤ天然ノ現象ト等シク偶然ナルモノアリ又法則ニ隨ヒテ活動スルモノアリ而シテ主觀的ノ觀念ノミテ取リテ論スルトキハ同伴法ノ秩序ニ從フテ活動スルモノナリ是レ觀念活動ノ法ナリ知覺ニ至リテハ法則ノ支配スル所ニ非ルナリ夫レ我等ノ身體ヲ圍繞シタル千種萬様

ノ物體ガ絶エズ五官ヲ刺激シテ數フルコト能ハサル多クノ知覺ヲ惹キ起シ其ノ知覺ハ新觀念トナリテ日々我等ノ精神ニ増加スルコトナリ而シテ其ノ知覺ノ現ハルハ偶然外物が五官ニ接觸スルヨリ起リタル感覺ノ積ミ重ナリテ成リタルモノナルガ如シ然レバ主觀的ノ觀念ハ同伴ノ法則ニ從ヒ知覺ハ偶然ニ來ルモノナリ是レ偶然ト法則トノ區別ナリ

外感及ヒ内感——觀念ノ性質起源及ヒ活動ノ法則大畧斯ノ如シ故ニ今ヨリ感覺ノ結合シテ複雑ナル觀念トナルノ方法ヲ左ニ論ゼントス彼ノ小刺激ガ複雑スルコトナクシテ適當ノ秩序ヲ以テ暫時續キテ腦ヲ刺激スルトキハ小激動ハ重ナリテ一ツノ複雑ナル觀念トナリ認識サルニ至ラン之ヲ知覺ト云フ其ノ感覺ノ種類一ニシテ足ラズト雖モ神經ノ周圍ヨリ來ル感覺ヲ總括シテ外官ノ感覺ト云フ而シテ前キノ經驗及ヒ遺傳ニヨリテ受ケ得タル祖先ノ經驗ハ腦ノ組織中ニ存在シテ種々ナル感覺ヲ生ス此等ヲ總括シテ内官ノ感覺ト云フ

視覺ノ性質——抑モ眼ハ外物ノ知覺ヲ得ルニ最モ適當ナル外官ナレバ眼ハ五官ヲ代表スルモノナリト云フモ可ナリ故ニ今知覺ノ性質ヲ定メシメニ眼ノ外

物ヲ認識スルノ方法ヲ分解セシ夫レ眼ノ外物ヲ見ルヤ必ズ其ノ物體ノ「スペース」(空間)ニ存在スルヲ見ルナリ而シテ「スペース」ハ上下左右前後ノ六合ニ擴ハルモノナレバ其ノ内ニ存在スル物體ニモ亦長幅厚ノ三「ダイメンション」(廣ノ意)アリ左レバ眼ガ物ヲ見テ之ヲ認識スルニハ其ノ三「ダイメンション」ヲ認識セザルヲ得ズ然リト雖モ又生理的ニ之ヲ見ルハ外物ノ形體ガ眼ノ網膜ニ映リ之ヲ刺激スルヨリ感覺ヲ惹キ起スモノナレバ網膜上ニアリテ直接ニ神經ヲ刺激スルモノハ實體ニ非ス唯其ノ影像ナルノミ而シテ影像ニハ長ト幅トノミアリテ厚ナシ然レバ斯ノ如キモノガ神經ヲ刺激シテ如何ニシテ長幅厚ヲ有スル實體ヲ能ク認識ヒシムルヲ得ルヤ此疑問ヲ解セン爲メ新説ヲ世ニ出セシハすこどらん<sup>1</sup>ト高僧<sup>2</sup>ぼるくり<sup>3</sup>一七五八<sup>4</sup>死<sup>5</sup>其ノ人ナリ氏ハ千七百九九年ニ視覺論ト稱スル一書ヲ著ハシ眼ヨリ得タル知覺ノ性質ヲ論シタリ氏ノ説ニヨレバ眼ニテ外物ヲ見ルトキ網膜ニハ物ノ長幅ヲ認識スルノ力アリ而シテ其ノ物ノ厚ヲ認識スルハ網膜ノ力ニ非ズ寧ロ推理ニヨリテ之ヲ定ムルナリト<sup>6</sup>今<sup>7</sup>眼ノ中心ヨリ物體ノ中心ニ至ル迄一物體ノ想像<sup>8</sup>ヲ通ホシテ上下ニ一線ヲ引キ之ヲ乙乙線ト名ケ又前ノ兩線ノ直角ニ一線ヲ引キ之ヲ丙ト名ク而シテ下ニ一線ヲ引キ之ヲ乙乙線ト名ケ又前ノ兩線ノ直角ニ一線ヲ引キ之ヲ丙ト名ク而シテ下ニ一線ヲ引キ之ヲ乙乙線ト名ケ又前ノ兩線ノ直角ニ一線ヲ引キ之ヲ丙ト名ク

何レヲ長ト厚ト云フ可ナリ<sup>9</sup>然レバ物體ノ表面ノ長幅ヲ認識スルハ網膜ノ作用ニヨルガ故ニ之レヲ眼ノ知覺ト稱スルヲ得ルト雖モ其ノ厚及ビ其ノ軀ノ遠近ヲ認識スルハ網膜ノ力ニ非ズ種々ノ經驗ヨリ推理シテ定ムルモノナレバ之ヲ知覺ト稱スル能ハズ所謂理會ノ然ラシムル所ナリ氏ノ説固ヨリ完全ナルニ非ズト雖モ當時ニアリテハ大ニ新説ニシテ人ヲ驚カシ且ツ世人ヲシテ尙ホ精密ニ之ガ研究ヲナサシムルノ刺激ヲ與ヘシコトハ疑フ可カラザルコトナリ千八百三十八年ニ至リテ英國ノ科學家<sup>10</sup>はいとすと<sup>11</sup>一八七五<sup>12</sup>死<sup>13</sup>ハ實體鏡ヲ造レリ氏ノ之ヲ工夫シタリシ由來ヲ問フニ眼ノ知覺ニ關シ<sup>14</sup>ぼるくり<sup>15</sup>ト説ヲ容レズ自ラ謂ヘラク物體ノ厚及ビ遠近ヲ認識スルハ理會ニ因ルニ非ズ矢張り網膜ノ作用ナリト雖モ此レ一眼ノ能ク爲シ能フ所ニアラズ兩眼ノ必要爰ニアルナリト氏ノ考ヘタル所ハ我等兩眼ヲ以テ物體ヲ見ルトキハ左右ノ眼ニ映ル所ノ影像全ク相等シキコト能ハズ右ノ眼ニハ右ノ側多ク見え左ノ眼ニハ左ノ側多ク見ユルハ明カナル理ナリ故ニ此兩眼ニ映リタル二個ノ小差アル影像ガ精神中ニ結合スルコトニヨリテ厚及ビ遠近ノ認識ヲ能クナサシムルモノナリト確信シ夫ヨリ氏ハ同一物ヲ少

シク方向ヲ違ヘテ二個ニ寫眞シ之ヲ左右ニ並ベ置キ右ノ畫ハ右ノ眼ノミニ見エ  
 テ左ニ見エズ又左ノ畫ハ左ノミニ見エテ右ニ見ヘザル様ナセリ而シテ又凸鏡ヲ  
 用ヒ光線ノ屈曲ニヨリテ此二個ノ畫ハ一物ノ如ク見ユル様ナセリ爰ニ於テ紙ノ  
 表面ノ平ナル寫眞畫ハ恰モ魔術ノ如ク眼ヲ欺キ物躰ハ高低遠近ヲ違ヘテ實體ノ  
 如クニ現ハレタリ是レ氏ノ大發明ニシテ實體鏡ノ起源ナリト云フ可シ其ノ後視  
 學ノ研究ヲナセシ人少ナカラズ殊ニ獨逸ノへるむほるつ、へりん及ヒゲンどノ如  
 キハ現今世ニアリテ有名ナル學士ニシテ視學ヲ研究シ其レニヨリテ得タル所ノ  
 知識モ亦少カラズ故ニ今ぼるくりノ説ト今日既ニ得タル視學ノ知識ト對照シ  
 此知覺ノ性質ヲ定メントス、

平面ノ知覺——ぼるくりハ眼ヨリ得タル知覺ヲ二別シ長幅ハ網膜ニテ認識シ  
 厚ハ理會ニ因テ認識スルモノトナセリ左レバ先ヅ我等長幅ノ認識如何ヲ精密ニ  
 研究シテ其ノ性質ヲ究メントス夫レ長幅ノ認識ハ物體ノ表面ガ網膜ニ映リ網膜  
 ノ作用ニヨリテ之ヲ認識ストハぼるくりノ説ナリ然リト雖モ網膜ノ果シテ斯  
 ノ如キ力ヲ有スルヤ否ヤハ是レ解説ヲ要スル問題ナリ而シテ其ノ論ノ詳カナル

ヲ欲セバ先ツ網膜ノ性質ヲ精密ニ研究セザル可カラズ網膜ナルモノハ視神經ノ  
 外端ニシテ視神經ノ眼球ニ入ルヤ直チニ眼球ノ裏面ニ擴ガリテ之ヲ覆ヒ其  
 ノ内面ヲ形ヅクルモノナリ其ノ細胞ノ形ハ第六圖ニ示シタル如キ二種ノモノ及  
 ビ其ノ他ノ細胞及ビ纖維ヨリ成ルモノナリト雖モ此ノ二種ノ細胞ノミガ網膜ノ  
 心理的作用ニ直接ノ關係ヲ有スルモノナリ此二種ノ細胞ヲ稱シテ長圓形及ヒ圓  
 錐形ノ細胞ト云フ而シテ長圓形ノ細胞ハ長サ一「インチ」ノ三百五十分ノ一直徑一  
 万四千分ノ一ニシテ圓錐形ナルモノハ長圓形ナルモノヨリハ稍短クシテ直徑ハ  
 最小ナルモノヲ以テ量ルニ殆ソド一「インチ」ノ一万分ノ一ナリト云フ其ノ配布ノ  
 方法ハ此二種ノ細胞網膜ノ全軀ニ配布スト雖モ其ノ配布ノ分量ニ至リテハ等シ  
 カラズ今眼ノ結晶體ノ中心ト眼球ノ中心ト相通ホシテ想像線ヲ引キ之ヲ延長  
 シテ網膜ニ達セシムルトキ其ノ線ノ網膜ニ觸ル、點ヲ稱シテ中央小窩ト云フ此  
 點ハ稍凹ニシテ圓錐形ノ細胞此所ニ密ニ集リ殆ソド此細胞ノミニテ成レリ其ノ  
 點ヨリ四方ニ隔タルニ從ヒ此二種ノ細胞ノ配布漸ク粗ナリト云フ可シ此中央小  
 窩ハ又視覺ノ燒點ト云フモ可ナリ外物ノ影像網膜ニ映ルトキハ此小點ニ映ルモ

ノ、ミ明瞭ニシテ此點ヨリ隔ルニ從ヒ漸ク明瞭ノ度ヲ減スルガ如シ之ヲ以テ之ヲ見レバ網膜ノ心理的作用モ亦重モニ此一點ニ集ルナリ去レバ物體ノ廣キ表面ヲ一時ニ認識セントスルニハ網膜ハ不完全ナル精神ノ器械ナリ云フ可シ然ルニ斯ノ如キ不完全ナル器械ヲ以テ大ナル物體ノ全面ヲ隔ヨリ隔ニ至ル迄明瞭ニ認識スルコトヲ得ルハ不可思議ト云フ可キナリ。ぼるくりノ論スル如ク網膜ハ物ノ長幅ヲ認識スルノ力ヲ有スルモ素ヨリ此小窩ニ映ル一點ノミハ明瞭ニ認識セラレ其ノ他ノ諸點ハ明瞭ナラザルヤ必セリ氏ノ說ハ此難問ヲ説明スル能ハズ近世ノ視學者ハ之ヲ説明スルニ眼球ノ運動ヲ以テス夫レ眼球ニハ六個ノ筋肉アリテ其ノ運動ヲ上下左右ニ自由ナラシム眼ニヨリテ物體ヲ認識スルトキ眼ハ常ニ動キテ止マズ隨ヒテ彼ノ中央小窩モ亦常ニ動キテ物體全面ノ各點ヲシテ交代シテ此燒點ニ來ラシメノヲ努ム是レ此六個ノ筋肉自働ノ作用ナリ爰ニ於テ彼ノ一燒點ハ所々ニ動キテ止マザレバ一點ニシテ無數ノ燒點網膜ノ表面ニ相列スルガ如キ作用ヲ爲シテ以テ網膜構造ノ缺點ヲ補フモノトス而シテ斯ノ如キ運動ヲナサシムルニハ彼ノ六個ノ筋肉絶エズ活動スルモノナレバ亦從テ絶エ

ズ精神中ニ筋肉收縮ノ感覺ヲ惹キ起ササル可カラズ左レバ網膜ノ感覺ト筋肉收縮ノ感覺トハ常ニ相伴フテ離ル可カラザルモノナリ尙ホ精密ニ之ヲ説明セン爲メ今眼前ニ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ナル記號ヲ有シタル長方形アリト假定セン(イ)(ロ)ノ長サハ一尺ニシテ(ロ)(ハ)ノ長サハ五寸ナリトス而シテ其ノ長方形中ノ(イ)點中央小窩ニアルトキ(ロ)ノ點ハ小窩ヨリ多少隔タリ居レリ其ノ時眼ヲ動カサズ網膜ノ働キノ(イ)ニヨラバ(イ)ヨリ(ロ)迄若干ノ隔タリアルヲ知ルト雖モ之ヲ明瞭ニ認識スル能ハズ然リト雖トモ今眼ヲ動カシ小窩ヲシテ(イ)ヨリ(ロ)ニ至ラシムルトキハ始メテ其ノ長サヲ明瞭ニ知ルコトヲ得ルナリ左レバ眼球ヲ動カスニ筋肉ノ收縮ヲ要ス其ノ收縮ノ感覺ハ網膜ノ感覺ト合シテ(イ)(ロ)ノ長サヲ明瞭ニ認識スルヲ得ヒシムルモノナリ誰ニテモ之ヲ實驗セント欲セバ壁面ニ長サ凡ソ一尺ノ線ヲ引キ壁ヨリ凡ソ一尺ヲ隔テ立テ一眼ヲ閉チ彼ノ線ヲ見ルトキハ眼ノ運動ナクシテ其ノ長サヲ明瞭ニ認識スルノ難キヲ明カニ實驗スルコトナラン左レバ物體ノ長幅ヲ認識スルハ管ニ網膜ノ作用ノミニ非ズ筋肉收縮ノ感覺ト合シテ始メテ完全ナル知覺トナルコト明カナリ長幅ノ知覺ニ於テ筋肉ノ感覺ト網膜ノ感覺ト結合スル

コト斯ノ如シ、今一步ヲ進メ物體ノ厚及ヒ遠近ノ知覺ニ論及セシ、  
 物體ノ厚及ヒ遠近ノ知覺——ぼるくりーノ説ニヨレバ物體ノ厚及ヒ遠近ノ認  
 識ハ網膜ノ作用ニ非ズ所謂理會ノ然ラシムル所ナリ、ほいどすどーんノ説ニヨ  
 ルバ彼ノ實體鏡ノ理ニシテ兩眼ニ映リタル異形ノ合スルヨリ來ルモノナリト云  
 ハリ、然ルニ前者ハ唯理會トノミ論シテ其ノ細密ノ性質ヲ論ゼザリシ、後者ハ左ノ二  
 問題ヲ説明スル能ハズ、第一兩眼ニ映リタル影像ハ果シテ結合スルヤ、第二我等一  
 眼ヲ以テ物體ノ厚及ヒ遠近ヲ認識シ能フハ何ソヤ、左ニ一々之ヲ説明セントス、先  
 ツ第二ノ問題ヨリ始メシニ一眼ヲ以テ物體ノ遠近ヲ認識スルニハ眼球構造ノ然  
 ラシムル所ナリ、夫レ眼球ノ構造ハ寫眞器械ノ如シ、球中ニ於テ前面ニ近キ處ニ結  
 晶體アリテ光線ヲ屈曲セシメ網膜上ニ外物ノ影像ヲ寫スノ媒介トナル、然ルニ  
 光線學ノ規則ニヨレバ外物ヨリ此結晶體マデノ距離及ヒ結晶體ヨリ網膜マ  
 デノ距離ハ結晶體表面ノ曲リノ度ト相互ニ其ノ權衡ヲ保タザル可カラズ、而シ  
 テ眼球中ニ數多ノ小筋肉アリテ各自動力ヲ有ス、故ニ外物ノ遠近ニ應ジテ結晶體  
 體表面ノ曲リヲ變シ又結晶體ト網膜トノ間ノ距離ヲモ變シ外物ヲシテ網膜ノ

表面ニ明瞭ナル影像ノ映ルニ適セシム之ヲ眼ノ適合カト云フ、適合カハ眼中ニ存  
 スル小筋肉ノ收縮ニ基スルモノナリ、左レバ外物ノ遠近ニ應ジテ眼ヲ適合セシム  
 ルトキハ其レト相伴フテ又筋肉收縮ノ感ナカル可カラズ、此感覺ハ一眼ニヨリテ  
 物體ノ遠近ヲ判斷スルノ基礎トナルモノナリ、

第一ノ問題ニ就テハ兩眼ノ影像結合スルコトナシ、而シテ兩眼ニヨリテ物體ノ  
 厚及ヒ遠近ヲ判斷スルニハ其ノ他ノ理由アルナリ、夫レ兩眼ハ若干處ヲ異ニシタ  
 ルモノナレバ兩眼ヲ以テ一物ヲ見ントスルトキ兩眼ノ視線(眼ノ中心ヨリ物體マ  
 テ引キタル想像線ヲ云フ)若干ノ銳角ヲナシテ聚ラザルベカラズ、物體遠クレバ其  
 ノ角益、銳物體近クレバ之ニ反ス、然ルトキハ物體ノ遠近ニヨリテ視角ノ度同シカ  
 ラザレバ視線ノ角度ノ差ニヨリテ眼球ノ位置同シカラズ、故ニ眼球ヲシテ運轉セ  
 シムル所ノ筋肉收縮ノ感覺モ亦同シカラズ、此感覺ハ兩眼ヲ以テ物體ノ厚及ヒ遠  
 近ヲ判斷スルニ大ニカアルモノナリ、而シテ此角度ト前ノ適合トハ互ニ離ル可カ  
 ラザルモノナリ、

小兒ノ視覺——斯ク論ヲ來レバ筋肉收縮ノ感覺ハ視覺上大ニカアルコト明カ

ナリ、然リト雖モ上ニ述ベタルハ些カニほいとすと、人ノ缺點ヲ補ヒタルニ過キ  
 ズ、其ノ他物體ノ大小明瞭不明瞭及ヒ色等ハ物體ノ厚及ヒ遠近ヲ判斷スルニ大ニ  
 カアリ、其ノ理ヲ少シク説明セン、例ヘバ眼前ニ一冊ノ書アリト假定セン、其ノ人  
 爾ヘラク此書ハ我身ヨリ凡ソ六尺程隔タルナラント、然ルニ又一人ノ小兒アリ未  
 ダ尺寸ノ何物タルヲ辨セズ此人ト共ニ立テ、此書ヲ見テ爾ヘラク此ノ書ト自身ト  
 ノ間ニ若干距離アリト、小兒ハ之ヲ何尺トモ何ヤトドトモ云フ能ハズ、然レバ此小  
 兒ハ何ヲ以テ其ノ距離ヲ測リ得ルヤ、小兒ハ之ニ答フルコト能ハズ、唯、其ノ距離ノ  
 大ナラザルヲ知ルノミ、尙ホ測リテ質サンニ小兒ハ生レナガラ距離ヲ判斷シ得ル  
 ヤ、否然ラズ、小兒ノ生レシトキハ外物悉ク平面ナル圖書ノ如クニ見ユルナリ、然ラ  
 バ物體ノ厚及ヒ遠近ヲ認識スルハ經驗ヲ積ンテ後始メテ能ク之ヲ爲スコトヲ得  
 ルモノナリ、小兒漸ク自體ノ運動ヲ爲シ得ルニ及ビテ種々様々ニ手足及ヒ身體ヲ  
 動かシ物體ニ觸レ或ハ身體ヲ動かシ物體ニ近ヅキ或ハ之ヨリ遠ザカルト共ニ眼  
 ニ見タル物體ノ大サニ自ラ變化アルヲ經驗スルナリ、斯ノ如キ經驗積ミ重ナリテ  
 心中ニ存在シ後日物體ヲ見ルトキハ恰モ本能ノ如ク又直覺ノ如ク之ヲ見テ忽チ

其ノ厚及ヒ遠近ヲ判斷スルヲ得ルナリ、然レバ小兒ガ距離ヲ判斷スルニハ尺度ヲ  
 以テスルニ非ズ、唯知ラズ識ラズ判斷スルト雖モ其ノ實ハ觸感及ヒ筋肉收縮ノ感  
 物體ノ色及ヒ大小等ヲ標準トシテ其ノ遠近ヲ判斷スルモノナラン、身軀ノ運動ト  
 網膜ノ感覺ト結合シテ物體ノ厚及ヒ遠近ノ知覺ヲ得ルコト斯ノ如シ、ぼるくり  
 ガ所謂理會ノ判斷トハ暗ニ此事ニ當ルコトナラン、左レバ物體ノ長幅厚ヲ認識ス  
 ルニ關シテ筋肉收縮ノ感覺ト網膜ノ感覺トハ結合シテ離ス可カラザルヤ明カナ  
 リ、

視覺ト觸覺トノ關係——上ニ述ベタル如キ結合ハ、管ニ網膜ト筋肉トノ關係ニ  
 ノミ止マルニアラズ、又接觸ノ感覺ト網膜ノ感覺トノ間ニモ存スルナリ、之ヲ例セ  
 シニ一人ノ少年アリ、生レナガラ盲目ナリシモ十二三歳ノトキ始メテ視力ヲ得ル  
 ニ至レリ、其ノ時多物悉ク平坦ナル圖ノ如クニ見ヘタリシガ、數日經驗ヲ積ミ始メ  
 テ物體ヲ實體ノ儘ニ見ルヲ得ルニ至レリ、又一日此少年ガ猫ト犬ト居ルヲ見レド  
 モ前ニ眼ヲ以テ之ヲ見シコトナカリシガ故ニ其ノ何レガ猫ニシテ何レガ犬ナル  
 カヲ判斷シ能ハサリシガ暫クシテ手ヲ伸バシ猫ヲ抱キ之ヲ撫テ綿密ニ其感覺如

何ヲ試ミタリ、斯ノ如クシテ少年ハ眼ノ感覺ト手ノ感覺トヲシテ能ク結合セシメタルナリ、其ノ後猫ヲ放チテ曰ク、猫ヨ今ヨリ後余ハ汝ヲ知ルナラント、(1) 精神生理學又一人ノ少女アリ、生レナガテ盲目ナリシモ成長ノ後チ視力ヲ得タリ、一日缺ヲ見シガ前ニハ觸覺ノミヲ以テ之ヲ認識シタルガ故ニ今眼ヲ以テ之ヲ見ルニ其ノ何物ナルヤヲ知ルニ苦メリ、然ルニ一度指尖ヲ以テ之ニ觸レシガ直チニ其ノ缺ナルコトヲ知レリ、爰ニ於テ彼ノ少女ハ、愚ナリ斯クナセバ直チニ知り得シモノト云フ如キ、顔色ヲ以テ失笑セリ、(2) 生理學一八九

音響ト感情トノ結合——又音響ハ耳ニノミ感覺ヲ與フルモノニシテ精神中ニ音樂ノ感ト稱スル高尙ナル觀念ヲ供給スルモノナリト雖モ外物ノ性質ヲ認識スルニ關シテハ遙カニ眼ノ感覺ニ劣ルモノナリ、耳ノ感覺ニヨリテ外物ノ性質ヲ認識スルハ唯前ニ經驗シタルコトヲ記憶シテ之ヲ知ルノミ、例ヘバ親子或ハ兄弟等ノ如ク常ニ言語ヲ交ヘ或ハ互ニ其ノ容貌ヲ見知ルモノハ自然眼ノ感覺ト互ニ結合ヲナシタルガ故ニ其ノ聲ヲ聞クトキハ直チニ其ノ朋友或ハ兄弟ノ全體ヲ知り得ルモノナリ、其ノ他味、臭、感等種々ニ結合スルモノナリ、既ニ述ベタルハ我等ノ

五官ニ經驗シタル種々ナル感覺ノ互ニ結合シタルモノナリト雖モ我等ノ經驗シタル感覺ノ外ニ祖先ヨリ遺傳サレタル印象、腦中ニ備ハリテ外感ノ發スルトキニト同伴シテ種々ノ内感ヲモ發スルナリ、感覺ノ結合シテ精神活動ノ基本トナルコト斯ノ如シ、

概念及ヒ抽象的觀念——左ノバ外官ヨリ得タル感覺數多クシテ甚ダ繁雜ナリト雖モ大同小異ナル數多ノ觀念ハ腦中ニ於テ互ニ結合シテ一ツノ觀念トナルガ故ニ感覺ノ數ヲ大ニ減シ且ツ繁雜ヲ省クモノナリ、而シテ个様ニ結合シタル觀念ヲ概念ト云フ、

夫レ概念ハ抽象的精神現象ナリ、故ニ先ヅ抽象的ナル語ヲ明カニ了解セザルヲ得ズ、孟子既ニ此意ヲ詳カニセリ、曰ク、生之謂性也、猶白之謂白與、曰然、白羽之白也、猶白雪之白、白雪之白、猶白玉之白、與、曰然、然則犬之性、猶牛之性、牛之性、猶人之性、與、(3) 孟子上句ト、左ノバ白ハ白羽ニモ又白雪ニモ通ズ、又生ハ即チ知覺運動スル所以ノ者ニテ牛ノ性ニモ亦人ノ性ニモ通シテ必要ナルモノナリ、而シテ告子ハ相通スルノ故ヲ以テ白ハ白ニシテ即チ何レノ白モ皆同一ナリ、又生ハ性ニシテ何レノ性モ皆同



一ナリト斷言セリ、然ルニ孟子ハ之ヲ否トシ、人ノ性ハ牛ノ性ト全ク隔絶シタルコトヲ斷言スルガ如シ、蓋シ孟子ハ人間全體ノ實形ヲ論シ、告子ハ人間中ノ一部分即チ動作的性質ヲノミ論シタルガ故ニ斯ノ如ク說ノ分離スルニ至リシト雖モ兩說一理ヲ有ス、而シテ告子ガ所謂生ハ動物の性質ヲ指スモノナレバ人間ト牛馬トニ普通ナルモノナリ、然リト雖モ動物の性質トハ實形ニ非ズ、唯活動物ニ就テ現ハル、一種ノ性質ニシテ實ニ人間及ビ牛馬ニ限ラズ諸動物普通ノモノナリ、此動物の性質ナル觀念ヲ抽象的ノ觀念ト云フ、抽象的觀念ハ知覺即チ實形ニ對スル語ナリ、知覺ハ外物ノ實形ヲ其ノ儘ニ認識シ得タルモノナリ、故ニ其ノ起原外ニアリ、抽象的觀念ハ外物ノ實形ヨリ得タル心像ニ非ズ、外物ノ知覺ヲ數多集メ其等ニ普通ナル一ツノ觀念ヲ精神中ニ於テ撰擇シ其レニヨリテ形造リタル觀念ナリ、故ニ其ノ起原外ニ非ズシテ内ニアリ、斯ノ如ク抽象的ノ觀念ハ精神ニ起リタル一ツノ觀念ニシテ數多ノ實物ニ關係スルモノナリ、例ハバ動物の性質ナル觀念ハ一ツノ觀念ニシテ世界ノ諸動物ヲ含有ス、又人間ナル觀念ハ一ツニシテ諸ノ人間ヲ含有ス、此點ヨリ之ヲ觀ル時ハ抽象的觀念ヲ解シテ概念ト云フ、抽象的觀念ト概念トハ同意

ニシテ唯、其ノ見様ノ異ナルノミ、前者ハ實形ニ對シテ云ヒ、後者ハ其ノ數多ヲ含有スル性質ニ就テ云フモノナリ、

4. 19

### 第三章 意識ノ性質

意識ノ能量——抑モ意識ナルモノハ精神現象ヲ總括シタルノ謂ニシテ別ニ一種ノ觀念アルニ非ズ、寧ロ精神現象ノ要素ト云フベキナリ、甲ハ心意ト云ヒ、乙ハ精神ト云ヒ、丙ハ靈魂ト稱スル所ノ一種ノ現象ハ其ノ根原及ビ性質ノ如何ヲ問ハズ物質現象ニ非ズシテ意識的現象ナリ、而シテ心理學者ハ靈魂ノ有無及ビ永久不滅ナルヤ否ヤ等ノコトハ措キテ論セズ、唯意識中ニ出テタル現象ヲ觀察シ其ノ法則ヲ論究スルヲ以テ目的トス、故ニ心理學者ニシテ意識ノ性質ヲ研究スルハ猶ホ物理學者ニシテ「スペース」ノ性質ヲ研究スルガ如シ、斯ノ如ク意識ハ實ニ精神現象ノ要素ナリト雖モ其ノ容量ハ其ノ中ニ含有ス可キ觀念ノ數ニ比シテ大ナラズ、恰モ小器ニ多量ノ水ヲ入ル、トキ水ノ多分ハ器外ニ溢ル、如ク腦中ノ印象多クハ意

識外ニアルナリ、而シテ是等ハ新陳代謝シテ漸ク意識中ニ現ハレ得ルモノナリ、意識ノ相對的性質——晴天白日仰キテ天ヲ眺ムレバ唯、太陽ノ輝々タルヲ見ル而已、太陽既ニ没スレバ衆星ノ天ニ滿ツルヲ見ル、日中ト雖モ衆星ナキニ非ズ、唯、之ヲ認識シ能ハザル而已、又晝間物騒ガシキガ爲メ遠方ノ市街ニ於テ發スル音聲ハ耳柔ニ觸ル、モ之ヲ認識セズ、夜深ク四隣寂漠タル時ハ是等ノ音聲恰モ群蜂ノ唸ルガ如クニ聞ユ、是等ノ現象ハ世人ノ經驗シテ親シク知ル所ナリト雖モ其ノ説明ナキチ如何ニセシ、是レ物理学ノ研究スヘキ事柄ニ非ス、又生理學ニヨリテ説明チ試ムベキ事ニ非ス、唯、心理學ニヨリテ始メテ其ノ説明ヲ詳ニスルヲ得ルモノナリ、前ニ述ブルガ如ク腦中ニハ種々ナル感覺外官ヨリ起リ又漸ク消滅シ大ニ混雜シ居ルモノナリ、而シテ其ノ中感覺ノ度強キ者ハ意識中ニ於テ明白ニ現ハル、ト雖モ感覺ノ度弱キ者ハ現ハレズシテ消滅シ、又意識中ニ明白ニ現ハレ居ル感覺ト雖モ尙ホ一層強キ感覺起ルトキハ元ノ感覺ハ意識外ニ出テ無意識トナルモノナリ、其レト同理ニテ人ノ情感盛ニ活動スル時ハ之レガ爲メニ多數ノ觀念ハ意識外ニ驅逐セラル、ガ故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ事物ノ判斷ヲスルニ最モ不適當ナル

者ナリ、又一ツノ觀念意識中ニ在リテ精神ノ苦痛ヲ覺ユル時ハ他ノ觀念入り來リテ快樂ヲ與ヘントスルヲ妨グルハ左ノ例ニヨリテ明カナリ、岩間ニ迷入ル水ノ音ハ天女ノ樂を奏づるかど訝られ、樹間ニ囀る鳥の聲ハ美人の歌を學ぶかど疑われ、實ニ面白き景色あれども親子ハ鬱陶として打ち萎れ、鳥の音も花の香も少しも心を慰めず云々(谷間の姫百合、卷一、九頁)又、樂からぬ心の中は繪の如き景色を見るも面白からず(昆太利物語之ニ反シテ腦髓ノ活動弱ク且ツ靜ナル時ハ前ニハ意識中ニ現ハレザルモノモ忽焉トシテ現ハレ出ツル者ナリ、心ヲ靜ニシ思フ平ニシ能ク事物ノ理法ヲ考察スル時ハ公平無私ナル判斷ヲ爲シ得ルコトハ我等ノ日日ニ經驗スル所ナリ、是レ前ニ他ノ感覺ノ爲メニ掩ハレ識ラズシテ消滅セシト思ヒタル腦ノ微弱ナル感覺ハ多ク意識中ニ現出シテ判斷ノ材料トナルニ由ルナリ、又病ノ爲メ或ハ他ノ原因ニヨリテ身軀衰弱セル時通常覺エサル感覺ノ現出スルコトアルハ其ノ例又少シトセズ、又病ノ爲メニ身軀衰弱スルトキハ久シク用ヒズシテ既ニ忘却シタル國語ヲ憶ヒ出スコトアリ、嘗テ或ル伊太利人米國ニ移住シ細育ニ於テ熱病ニ罹リ死セシコトアリキ、此人病ニ罹リシ始メハ英語ヲ話セシガ身軀衰弱スルニ從ヒ

佛語ヲ話シ最後ノ日ニ於テハ伊語ノミヲ話シタリト云ヘリ、爰ニ又最モ奇談ト云フヘキハ獨逸ニ於テ天主教ノ盛ナル一都府アリ、或ル若キ婦人熱病ニ罹リシトキ其ノ無學文盲ナルニモ拘ハラズ熱ニ浮カサレ羅匈希臘及ヒ希伯來語ヲ話シ始メタレバ僧侶ハ之ヲ以テ惡魔ノ所爲ナリト云ヘリ、兎ニ角其ノ語ヲ筆記シテ之ヲ閱スルニ言葉ハ以テ解ス可クモ其ノ談話ノ主意ニ至リテハ一モ解スルヲ得ズ、左ノ凡人皆之ヲ不可思議ニ思ヒ種々詮索テナセシガ終ニ此婦人が以前或ル説教師ノ家ニ在リシコトヲ發見セリ、而シテ此説教師ノ習慣トシテ廊下ヲ運動シナガラ常ニ音聲ヲ揚ゲテ羅匈希臘ノ書ヲ朗讀セシコトアリシヲ知レリ、且ツ夫ノ前ニ筆記シタル言語ヲ以テ説教師ノ常ニ朗讀セシ者ニ比スルニ兩者相似タルコトヲモ發見シタルガ故ニ爰ニ於テカ始メテ是レ惡魔ノ所爲ニ非ズ、知ラズ識ラズ夫ノ説教師ノ語ヲ聞キ其ノ印象ノ腦中ニ存在シ居テ今身體ノ衰弱スルト共ニ彼ノ印象ノ再生シタル者ナルコトヲ了解セリト云フ、其ノ他之レニ類似シタル例少カラズ、夫ノ惡人が最後ノ時ニ至リ身體衰弱スルトキハ自分ノ殺セシ人ノ幽靈ハ眼前ニ顯ハレテ其ノ人ヲ苦ムルコト性々之レアルナリ、又夢ニ病氣ノ徵候ヲ見テ果シテ其

ノ病氣ノ發スルコトアリ、是レ其ノ病氣既ニ軀中ニ發シテ未ダ外ニ現ハレズト雖モ睡眠スルトキハ身軀ノ活動至テ弱キガ故ニ夢トナリテ現ハレ、漸ク病氣熱シテ後外面ニ現ハル、コトナラン、是ヲ以テ之ヲ見レバ觀念ノ意識中ニ現出スルハ相對的ノ者ナリ、即チ種々ノ觀念ヲ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)ニナル文字ニテ現ハシ又(イ)ハ意識中最モ活潑ナル觀念ニシテ(ロ)(ハ)(ニ)ハ之ニ次ク者ナリト假定スレバ(イ)(ロ)ノ觀念活潑ニ活動スルトキハ(ハ)(ニ)ハ自ラ無意識トナルモ(イ)(ロ)ノ勢漸ク衰弱スルニ及ンテ(ハ)ニハ意識中ニ出現シ又(ハ)(ニ)衰弱スレバ(ハ)(ニ)ハ意識中ニ現ハル、著者ハ之ヲ稱シテ意識ノ相對的性質ト云ハシ、然リ而シテ意識ノ性質ニ付キ尙ホ讀者ノ注意ヲ促ス可キ一點アリ、意識ノ結合的性質是レナリ、

意識ノ結合的性質——何ヲカ結合的性質ト云フヤ、夫レ千差万別ナル感覺ノ自ラ合シテ一人ノ精神トナルヤ眼ノ感覺アリ、耳ノ感覺アリ、手ノ感覺アリ、各繁雜ナルモノニシテ全く通有性ナル者ナキガ如シト雖モ意識ノ結合的性質ハ之ヲシテ能ク結合セシメ以テ我カ眼ノ感覺、我カ耳ノ感覺、我カ手ノ感覺ト爲サシムルナリ、而シテ我トハ意識ノ核ト云フモ可ナリ、是レ結合的性質ニ基井スルモノナリ

わけ登る麓の道は多けれど

同じ高嶺の月を見るかな(道二篇 中一話)

トノ歌ヲ以テ之ヲ示サシニわけ登るふもとの道ハ五官ヨリ得タル繁雜ナル知識ヲ示スモノナリ、同じ高嶺の月トハ即チ我ヲ現ハスモノナリ、然リト雖モ爰ニ一ノ問題アリ、蓋ハ我アリテ後チ五官ノ感覺發スルヤ、或ハ五官ノ感覺アリテ後チ我ナルモノ生ズルヤ、之ニ對スル心理學者ノ說一定セズ、一說ニ由レバ我トハ即チ靈魂ニシテ先天的ニ存在スルモノナリ、我ハ五官ノ管理者ニシテ五官ハ我ノ器械ニ過キズト云ヒ、他ノ一說ニ由レバ我ナルモノハ五官ノ感覺ヲ離レテ別ニ存在スルモノニ非ス、恰モ重量ヲ有スル物跡ヲ離レテ別ニ重力ノ中心ノ存在シ能ハザルガ如シト云フ、此說ニ由レバ我トハ千差万別ナル感覺ノ結合シタル中心ヲ示スモノニシテ物跡ニ重力ノ中心アルガ如シ、著者ハ後說ヲ可トスルモノナリ、夫レ太陽系統ニハ重力ノ中心アリテ諸遊星其ノ位置ヲ變スルト共ニ中心モ亦絶エズ其ノ位置ヲ變更スルモノナリ、之レト同シク人間精神中ニ於テ感覺ノ状態ハ常ニ同シカラズ、人間萬事塞翁馬ニテ我ノ状態ハ感覺ト共ニ變更スルモノナリ、之ニ反シテ

晴てよし曇りてもよし富士の山

もとの姿は變らざりけり

杯ヲ以テ我ト比較スル如キハ心理學者ニ於テ容レサル所ナリ、故ニ我トハ先天的ニ存在スルニ非ズ、又別ニ感覺ヲ隔離シテ存在スルニモ非ス、シテ唯、感覺ノ結合スル中心ノ謂ナルノミ、意識ノ性質ノ相對的ト結合的トノ二性質ヨリ成ルコト凡ソ斯ノ如シ、

### 主觀的觀念

#### 第四章 觀念ノ再生

知覺、心像及ヒ抽象的觀念ノ別——以上ノ三章ニ於テハ外物ノ五官ヲ刺激シテ單一ナル感覺ヲ惹キ起シ、又其ノ單一ナル感覺ノ結合シテ複雜ナル觀念ヲ生ズルコトヲ論述セリ、今一步ヲ進メテ其ノ觀念ノ活動スル方法ヲ論ゼントス、抑モ觀念トハ一般ノ精神現象ヲ含有スルモノナリ、然リト雖モ其ノ活動ノ方法ヲ論スルニ當リ假リニ之ヲ分類シテ知覺心像、及ヒ抽象的觀念ノ三トス、而シテ此三者ハ各些少ノ差異ヲ有スルモノナリ、今知覺ト心像ノ差異ヲ比スレバ前者ハ存在スル外物ヲ認識シ、後者ハ外物ノ存在ヨリ得タルモノ、精神中ニ現ハレタル影像ヲ云フ、比喻ヲ以テ之ヲ云ヘバ心像ハ繪畫ニシテ知覺ハ其ノ實形ナリ、又心像ト抽象的觀念ノ差異ヲ比スレバ前者ハ實形ノ影像ニシテ後者ハ其ノ影像ヲ組織スル材料ナリ、例ヘバ心像ハ繪畫ノ如ク、抽象的觀念ハ下繪或ハ繪ノ具ノ如キモノナ

リ、三者ノ區別太凡斯ノ如シ、

後像ノ解——夫レ外物ノ五官ヲ刺激スルヤ精神ノ活動ヲ惹キ起シ感覺ヲ結合セシメ以テ知覺ヲ生ゼシムルモノナリ、而シテ神經ハ外物ノ刺激ヲ受ケテ感覺ヲ生ズルトキハ刺激力ヲ引キ去リシ後ト雖モ暫時其ノ感覺ノ勢力腦中ニ存シ神經ヲ活動セシムルガ故ニ實物ノ無キニ拘ハラズ實物ヲ見居ル如キ感覺ヲ生ズ、眼ノ感覺ニ於テ此理最モ明カナリ、例ヘバ太陽或ハ燭火ノ如キモノヲ視詰メテ後眼ヲ閉ツルトキハ眼中ニ其ノ光ノ存スルヲ見ルナリ、之ヲ後像ト云フに由リ、トハ既ニ此事實ヲ知レリ、氏ハ日没前ニ太陽ヲ見ルコト暫時ニシテ後チ、白壁ヲ見ルトキハ壁面ニ綠色ノ太陽顯ハル、ト云ヘルコトアリ、又白紙ニ黒キ十字ヲ畫キ明カルキ所ニテ十五秒時間程之ヲ見詰メ後直チニ湖暗キ壁ヲ見詰ムルトキハ壁上ニ十字ノ形白色ニ現ハル、ヲ見ル、若シ十字形ニ代フルニ人面ヲ畫クトキハ人面壁上ニ現ハル、ナリ、此ハ前ノ印象ノ結果網膜上ニ殘レルヨリ起ルモノナリ、實ニ此感覺ノ後像ハ記憶ノ始メナリ、知覺ニ於テモ亦之レニ類スル後像アリ、即チ友人ノ顔ヲ記憶シテ殆ント眼前ニ現ハル、如キコトアルハ世人ノ往々經驗スル所ナリ、唯、

太陽ノ後像ノ如ク明カナラザルノミ、然リト雖モ、感覺ノ後像ニ比スレバ久シクシ  
テ數日或ハ數年間腦中ニ存在ス、

心像ノ異類——知覺ノ種類一ナラズ是レ其ノ起因スル五官ノ差ニ由リテ異ナ  
ルナリ、而シテ心像ハ知覺ヨリ來ルモノナルガ故ニ從テ其ノ種類ノ許多ナルコト  
知覺ト異ナルナシ、眼ヨリ來ル心像アリ、耳ヨリ來ル心像アリ、其ノ種類ノ異ナルコ  
ト斯ノ如シ、此等ノ異種ナル心像ヲ大別シテ三ツノ異形トス、記憶、幻影、想像是レナ  
リ、知覺ノ其ノ形ヲ變更セズシテ後日意識中ニ現ハル、トキハ之ヲ記憶ト云フ、一  
ツノ知覺他ノ知覺ト混合シテ現ハレ人ヲシテ屢、事實ニ非ザルモノヲ事實ノ如ク  
思ハシムルコトアリ、斯ク混合シタル心像ヲ稱シテ幻影ト云フ、又先キニ得タル知  
覺ヲ腦中ニ消化シ是等ヲ材料トシテ主観的ニ心像ヲ造ルコトアリ、之ヲ想像ト云  
フ、

記憶ノ三要素——記憶ヲ分解スレバ三ツノ要素アルガ如シ、第一知覺ノ印象ヲ  
蓄フルコト、第二此印象ノ意識中ニ現出スルコト、第三前ニ其ノ知覺ヲ得タルハ何  
時ナルヤヲ定ムルコト是レナリ、凡ソ確平タル記憶ヲ得ルニハ此三者中一ツモ缺

クコト能ハズト雖モ第三ノ要素ハ往々缺亡スルコトアルナリ、第一知覺ノ印象ヲ  
蓄フルコトニ關シテハ心理學者ノ爲メニ一ノ難問アリ、即チ其ノ印象ヲ何處ニ蓄  
フルヤノ問題是レナリ、前章ニ於テ既ニ論議ヲ開キシ如ク把任力ナルモノハ一説  
ニヨレバ靈魂ノ能力ナリト云ヒ、他ノ一説ニヨレバ腦髓ノ物理的性質ナリト云フ、  
著者ハ後説ヲ可トスルモノナリ、然リ而シテ其ノ印象ノ起因スルコト同シカラズ、  
一己人ノ生涯ニ於テ起因スルコトアリ、又祖先ノ經驗ニ起因シテ遺傳シタルモノ  
アリ、斯ノ如キハ自ラ經驗セシユ非レバ記憶ノ三要素中第三ノ要素ヲ供フル能ハ  
ザルヤ明カナリ、第二祖先ヨリ遺傳サレタルカ或ハ一身ノ生涯ニ於テ經驗シタル  
カ其ノ孰レナルニ拘ハラズ既ニ腦ノ組織中ニ蓄ヘタルモノハ意識中ニ現ハル、  
ノ機會ヲ待ツガ故ニ外部ノ刺激アルトキ直チニ之ト同伴シテ現ハル、モノナリ、  
例ヘバ古歌ニ

ふりさけてみかづきみれば、ひとめみし

ひとのまよびき、おもふゆるかな(萬葉集大伴宿禰家持)

トアルハ是レ眉ト三日月ト其形殆ソト同シキガ故ニ月ヲ見レバ眉ノ觀念モ同伴

スルナリ、第三、觀念ノ現ハル、トキ何時何處ニ於テ經驗セシヤテ明カニ知ルハ完全ナル記憶ニ缺ク可カラサルモノナリ、然リト雖モ上ニ述ベタル理由ニヨリテ何時何所ニテ經驗セシヤテ知ラズシテ唯突然抽象的觀念が意識中ニ現出スルコトアリ、爰ニ於テ直覺本能早熟等ノ現象起ルナリ、是等ヲ不完全ナル記憶ト云フ、蓋シ是等ハ第三ノ要素ヲ缺クガ故ナリ、先ツ不完全ナル記憶ヲ論シ後完全ナル記憶ニ論及セン、而シテ不完全ナル記憶ヲ論ゼント欲セバ勢ヒ遺傳ノ大畧ヲ知ラザル可カラズ、

遺傳—— 諸テ遺傳ノ詳論ハ之ヲ生物學者ニ譲リ唯、一二ノ點ニ於テ讀者ノ注意ヲ促サントス、遺傳ノコトニ就キ博士ぶるつくす氏(シヨンス大ニホキ)ノ説ニヨレバ鋭敏ナル親必ズシモ鋭敏ナル子ヲ生ムモノニ非ズ、自ラ穎才ナルニ非ズシテ穎才ヲ生ムコトアリ、又數理ヲ應用シテ兩親ノ鋭敏ノ度ヲ加ヘ之ヲ二分スレバトテ必ズシモ子供ノ鋭敏ノ度ヲ得ルニモ非ズ父母ノ性質互ニ結合スルノ宜シキヲ得ルト否トニ因ル、而シテ亞兒哥爾的ノ飲量ト白痴ノ關係ニ就キテハ恐ル可キ結果アルヲ知レリ、北米合衆國ぼすとんノ大醫はを氏ノ經驗ニヨレバますさつちゆいせつ

つ州ニ於テ三百ノ白痴中百四十五ハ亞兒哥爾ヲ飲用スル者ノ子ナリ、又兩親共ニ酒ヲ好ミシ者ガ七人ノ白痴ヲ生メリト云ヘリ、醫師だをん氏ノ經驗ニヨレバ白痴ナル子供ノ多分ハ飲酒家ノ子ナリト云ヘリ、斯ノ如キ例枚舉ニ遑アラズ、

本能及ビ直覺ノ別—— 諸テ本能ト直覺トハ太ダ相似タルモノナリト雖モ亦少シク、異ナル所アリ、兩者共ニ等シク祖先ノ經驗ニヨリテ起リ腦ノ組織中ニアリテ遺傳シ、後チ突然意識中ニ現ハレテ精神現象ノ多分ヲ組織セシモノナリ、而シテ其ノ現ハレタル觀念ノ活動スル方法一ナラズ、理性的ノ活動ヲ多分ニスルコトアリ、又感情的及ビ意志的ノ活動ヲ多分ニスルコトアリ、前者ヲ直覺ト云ヒ、後者ヲ本能ト云フ、例ヘバ二點ノ間ノ最モ短キ線ハ直線ナリト云ヘバ人々其理如何ヲ問ハズシテ直チニ了解スルナリ、之ヲ直覺ト云フ、西行法師ガ伊勢ノ大廟ニ詣テ、感情ノ發スル餘リ(俗説ニヨル)

何者のあわしますかは知らねども

有りがたきにぞなみだこほるゝ

ト詠シタルハ何トナク精神中宗教的感情ノ發シタルヲ顯スモノナリ、之ヲ本能的

感情ト云フ、又赤子ノ生レテ直チニ乳ヲ吸ヒ、鳥類ノ學バズシテ巢ヲ營ム如キハ稱シテ本能的運動ト云フ、本能ノコトハ之ヲ後章ニ譲リ左ニ直覺ノコトヲ論ゼン、直覺ノ性質——直覺ノ性質及ヒ起因ハ既ニ前ニ述ベシ如シ、是ヲ以テ之ヲ見レバ祖先ノ經驗セシコトガ子孫ノ爲ニハ直覺トナルガ故ニ今日世人ノ直覺ト稱スルモノハ必ズシモ萬古不易ノモノニ非ズ、今日我等ガ直覺ヲ以テ知リ能フ事柄ト雖モ先キニハ多年ノ經驗ヲ積ミテ漸ク知リ得タルコトナラン、同シ理ニ由リテ今日我等經驗シテ得ル所ノ知識ハ子孫ニ至リテ直覺トナルコトナラン、例ヘバ地球ノ圓形ノ如キころんぶすノ時ニアリテハ學者ト雖モ之ヲ了解シ能ハザリシモ今日ニ於テハ七八歳ノ童子ト雖モ一度地球ノ圓形ナルコトヲ聞ケバ殆ント直覺的ニ了解スルニ非ズヤ、又だるがゐんノ進化説ノ如キハ今日尙ホ未ダ充分其ノ理ノ眞ナルヲ容レザル人アリト雖モ十年前ニ比スレバ斯ノ如キ人大ニ其ノ數ヲ減シタリ、此ノ割合ヲ以テ推ストキハ世人擧テ進化説ヲ直覺的ニ了解シ得ルノ時蓋シ遠キニ非ザルベシ、バイノミアル、セテレムノ如キ今日之ヲ學ブ者ハ一度此ヲ解スルヤ明瞭ニシテ殆ント直覺的ナルガ如シト雖モ此ゆゑトんノ之ヲ發見スルニ費

シタル勞力亦少ナシトセズ、直角三角形ノ弦ノ二乗ハ他ノ二線ヲ別ニ二乗シテ加ヘタルモノニ等シトハ我等ハ明瞭ニ了解シ得ルト雖モ古人ハ試驗ヲ積ミテ後發見シタルナリ、數學ノ原理殆ント皆斯ノ如シ、世人往々數學ヲ以テ先天的演繹法ノ學ナリト思フニ拘ラズ、數學ハ物理學又ハ化學ト等シク實驗的歸納法ノ學ナリトハ今日學者ノ容ル、所ナリ、又國民ノ權利及ヒ自由ナル語ハ先天的ニ備ハリタル知識ノ如ク思ヒ本邦人民此語ヲ聞クヤ否ヤ萬古不易ノ眞理ト見做シ一時ニ國中ニ傳聲シタルハ世人ノ能ク知ル所ナリ、然リト雖モ退テ熟考スルニ國民ノ權利或ハ自由ト云フコトハ古代ヨリ存在シタル觀念ニ非ズシテ開化ノ進歩ト共ニ進化シタルモノナルコトハ今日社會學者ノ信ズル所ナリ、實ニ法律、經濟、政治、宗教等ノ眞理ト認ムルモノモ皆過去ノ實驗ニ基キテ數多ノ星霜ヲ經過シ後チ漸ク先天的ノ觀念トナリタルモノナリ、之レニ加フルニ直覺ハ管ニ遺傳ニ由ルニ非ズ、一生涯ニ於テ少年ノ時ニ學習シ得タル知識ハ成長ノ後チ直覺トナルコト少ナカラズ、例ヘバ世人呼テ實際家ト稱スル人ハ事物ニ當リ之ヲ判斷スルコト速カニシテ直覺的ナリ、去レドモ其ノ理ヲ説明スルニハ或ハ踈キコトナキニ非ルナリ、是レ決



シテ其ノ人ノ智力少ナキ非ズ、唯理論家ノ智力ト類テ異ニスルノミ、學者ハ之ニ反シテ判斷スルコト速カナラサレドモ其ノ理ニ至テハ細カニ説明シ能フモノナリ、是等ノ兩性ヲ一人ニ具有スルモノ往々之レアリト雖モ意識ノ能量大ナラザルガ故ニ其ノ中孰レカ一方ニ偏スルノ傾向アルハ勢ノ止ム能ハサル所ナリ、又婦人ノ智力ハ男子ノ智力ニ比スレバ直覺的ナリトノ説アリ、之ヲ證スルニ學校ニ於テ教師ノ生徒ニ就テ實驗セシコトヲ引用シ且ツ世人一般ノ經驗ニ訴フルト雖モ此區別ノ果シテ事實ナルヤ否ヤハ尙ホ後日ノ經驗ヲ待テ明カニセンノミ、此外直覺ニ關シテ哲學上ノ論説及ヒ昔時ヨリ諸種ノ學者ノ意見ヲ異ニセシコトノ歴史等ハ爰ニ零ス。

早熟——爰ニ又直覺ノ一種ニシテ早熟ト稱スル現象アリ、即チ小兒成長スルニ從ヒ自ラ經驗ヲ積ミ重ヌルト共ニ親ヨリ遺傳サレタル印象現出シテ智力ノ發達ヲ助クルモノ是ナリ、然リ而シテ往々此遺傳サレタル印象ノ出現スルコト非常ニ迅速ニ且ツ多クシテ世人ヲ驚カセシコトアルナリ、俗ニ所謂神童是ナリ、本邦ニ於テ神童ノ例少ナカラズト雖モ確乎タル歴史ナキヲ以テ事實ヲ引用スルコト難シ、唯

二三ノ傳説ヲ引キテ之ヲ示サシ、夫ノ僧親鸞ハ一八九三死九歳ノトキ

あすありと思ふ心の入重櫻

夜半のあらしの吹かぬものは

トノ歌ヲ詠メリ、又菅原道實ハ十一歳ノ時

月輝如晴雪 梅花似照星

可憐金錢轉 庭上玉芳馨

トノ詩ヲ作レリト云フ、以上親鸞及ヒ道實ノコトハ言ヒ傳ヘノ儘ヲ記ルスノミ、新井白石ハ三歳ノ時草紙ヲ求メテ臨書シケルニ十中一二ハ眞ノ文字ノ形ヲナセリ、又其ノ頃屏風ニ其ノ名ヲ題セシニ二字ハ其ノ跡ヲナセリ、其ノ後チ師ハナケレドモ常ニ戯レニ筆トリ物書クコトヲノミナセリ、四五歳ノ時其ノ父友人等ト共ニ富田某ナル者ヲシテ毎夜太平記ノ評判ト云フ事ヲ講ゼシメラレシ時ニ白石常ニ其ノ座ニ侍リテ之ヲ聽聞シ夜更ケシ時モ講ノ畢ル迄其ノ座ヲ去ラズ、又講畢リシ後チ其ノ義ヲ請問フ事ナトアリシ、六歳ノ夏七首絶句ノ詩三首マデ教ヘラレシニ之ヲ誦シ又人ニモ講ヲ聞カセタリキ、八歳ノ冬日ニ三千字夜ニ入りテ千字ヲ習ヘリ、

夜ニ入りテ眠ヲ催フストキハ手桶ノ水ヲ頭ヨリカ、リテ再ヒ習字ヲ始メシ、九歳ノ頃ヨリ其ノ父ノ人ニ贈ルベキ手紙ヲ代筆スルコトアリキ、十一歳ノ時ヨリ大概ノ書狀ハ代筆セリト云フ、自著折たく柴の記、次ニ外國ノ例二三ヲ記サシ、英國ノじよん、すちゆわいど、みる一八七〇三死ハ稀有ノ早熟ナリト云フベシ、氏ハ幼ヨリ父ノ最モ嚴重ナル教育ヲ受ケタリシガ其教育ノ結果ト氏ノ早熟ト相符合シタルナランカ、齡僅カニ八歳ノトキ希臘語ニテいそつぶ物語、ぜのふをん、アナバシス、及ビ「サイクロピデヤ、へろどたす、しあん、いそくらち、すぶれど、う等ノ著書ヲ讀ミ、又羅旬語ヲ學ビ始メタリ、之ト同時ニ英語ニテるべろとそん、ひゆいむ、ぎ、ばん、わどそん、ろりん、らんごるん、ぼるねつど、もさいむ、まくり、等ノ著書及ビ年報三十冊ヲ讀ミタリト云フ、氏ハ是等ノ書ヲ了解シ得シヤ、又了解セシモ記憶セシヤ、ノ點ニ至リテハ著者之ヲ知ラズト雖モ其ノ孰レヲ問ハズ實ニ稀有ノ早熟ト云ハザルヲ得ズ、又もざいど一七九一死ハ高名ナル獨逸ノ音樂者ナリ、其ノ父モ亦音樂者ナリシカバ幼時ヨリ音樂ノ中ニ成長シ三歳ノ頃ヨリ其姉ノ側ニ坐シ樂ヲ聞ケバ喜ビノ色ヲ呈シ時トシテ樂器ニ觸ルレバ音樂ノ天才アルコトヲ現ハセリト云フ、又四歳

ノ時常ニ聞ク所ノ一詩ヲ讀シテ之ヲ朗吟シ、其年ニ一詩ヲ作レリ、其齡未ダ八歳ニ滿クズシテわつせんばるぐニ於テ風琴ヲ奏シ衆人ヲ驚カシ、コトアリ、年長ズルニ及ビテ才能益々發達シ、二十四歳ニ至リテ一ノ戯曲ヲ著ハセリ、此ノ曲タル非常ノ傑作ニシテ近世ニ至ル迄大ニ其ノ影響ヲ及ボセシモノナリ、又一種ノ早熟アリ米國一農家ノ子ニせら、かるぼるんナルモノアリ、ふらんしす、へいりーノ記ニヨレバ此子齡僅カニ八歳ナリシ時十以下ノ數ヲ一乘ヨリ十乘ニ至ル迄容易ニ且ツ速カニ諸算スルヲ得タリ、是レ前ニ記憶セシニ非ズ、其時ニ當リ數ヲルナリ、八ノ十六乘ニ至ル迄ヲ諸算スルニ少シモ誤ルコトナカリシガ大數ヲ數フルニハ少シク困難ノ色見エタリ、一〇六九二九ノ平方根ヲ問ヒシニ傍ヲノ人其ノ原數字ヲ書キ終ル前ニ三二七ナリト答ヘ、二六八三三六一二五ノ立方根ヲ問ヒシニ速カニ六四五ト答ヘ、四十年間ニ幾分時アルヤト問シニ二五二二八八〇〇ナリト答ヘタリト云フ、其ノ他早熟ノ例枚舉ニ遑アラズ、左レバ早熟ナルモノハ果シテ成長ノ後非凡ノ人トナルヤ、否ヤ、少年ノトキ早熟ニシテ成長スルト共ニ其ノ性質ヲ失フコト屢アリ、然レトモ非凡ナル人ハ果シテ早熟ナルヤ否ヤヲ尋ヌルニ先年さ、りト、氏ノ

研究シタル所ニヨレバ非凡ナル人ノ過半ハ早熟ナリト云ヘリ、  
 一種ノ記憶——上ニ述ベシハ祖先ノ經驗ガ遺傳シテ再生シタルモノニ過ギズ  
 ト雖モ其ノ他之ニ類似シタルモノアリ、即チ自分ノ生涯中ニ經驗セシコトガ其ノ  
 後チ再生スルニ當リ直覺ト等シク突然意識中ニ現ハル、コトアリ、之ヲ例セシメ  
 「或ル婦人病ニ罹リろんどんヨリ田舎ニ遷リシトキニ二三歳ノ小女アリケルガ母  
 ノ死スルニ二三日前其ノ病室ニ伴ハレ行キタリ、其ノ後チ益々成長スルニ及ビテ此  
 事全ク記憶ニ存セザリシガ如シ、且ツ母ノ顔ヲモ明カニ覺ヘザリシ、一日偶々其ノ  
 家ニ行キ彼ノ病室ニ入レリ、然ルニ甚ダ驚キタル有様ナレバ傍ノ人々其ノ故ヲ問  
 ヒシニ彼ノ婦人答テ曰ク余ハ前ニ此部屋ニ在リテ彼ノ隅ニ居タル病ミシ婦人ノ  
 余ニ凭レテ泣キシコトアリシト(カレハ生理學四三〇頁)又之レニ類スル奇談アリ、英國  
 「べんさるぐりーん」寺院ノ住職はんさるど教師生レテ十八ヶ月ノ時其ノ母友人ト  
 共ニ城郭ヲ見物ニ行キシトキ其ノ小兒モ共ニ連レテ去レドモ此事素ヨリ  
 記憶ニ存セザリシ、成長ノ後一日其ノ城郭ヲ見物ニ行キシガ城門ニ近ツキシトキ  
 僅ニ以前此門ヲ一見セシコトアルヲ覺リ大ニ不可思議ノ念ヲ生シ歸宅ノ後此事

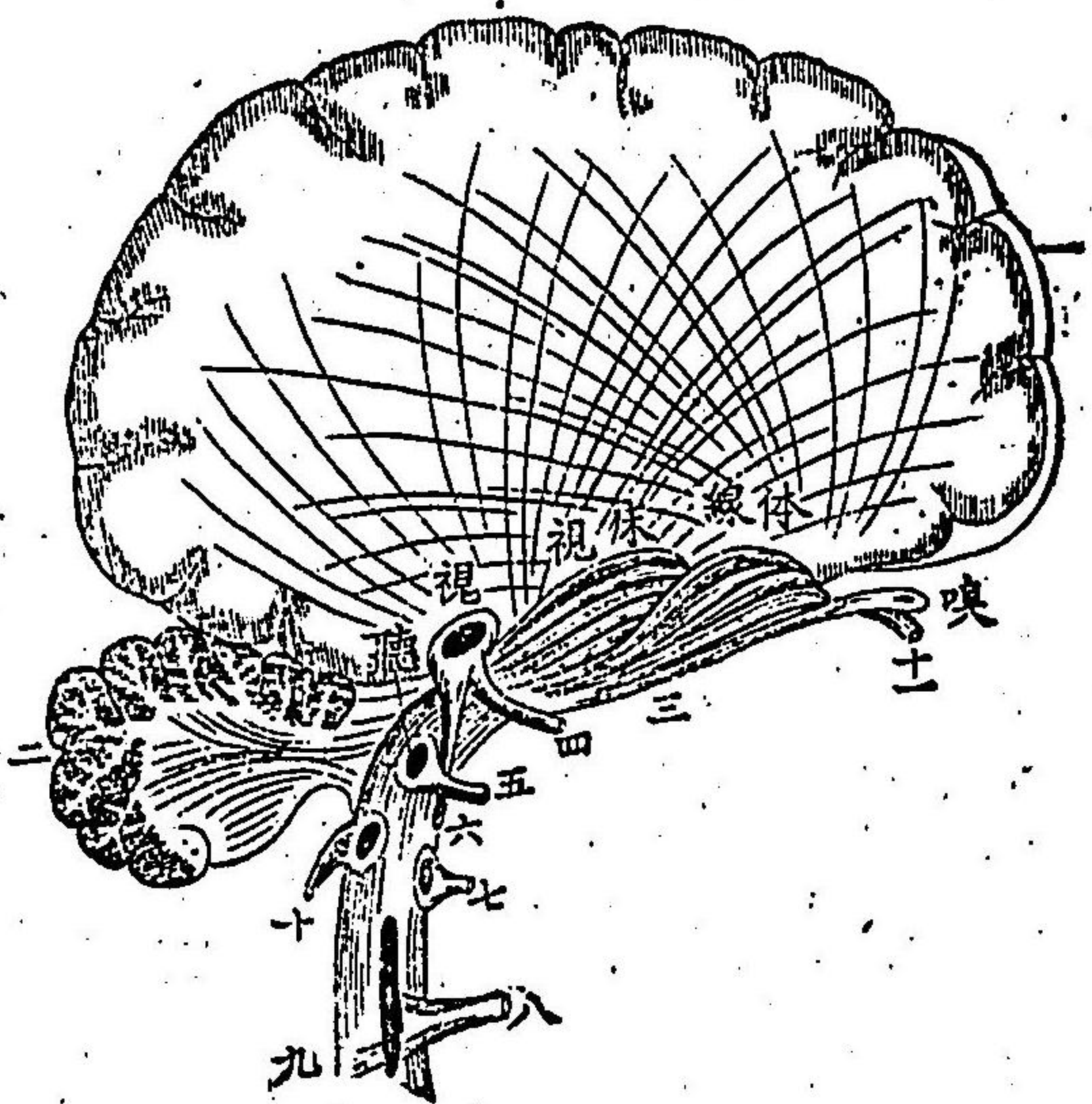
ヲ母ニ語リシニ生レテ十八ヶ月ノトキ其ノ所ニ行キシコトアルヲ發見セリト云  
 フ(同上四三頁)又佛人「うれー氏」曰ク余ハ何故ナルヲ如ラズト雖モ不可思議ニモ  
 屢三人ノ姓名ト其ノ人々ノ住居スル市名ト共ニ心中ニ浮ビシコトアリ、余ハ元ヨ  
 リ其ノ人ノ誰ナルヤヲ知ラザリシ、一日偶々新聞紙ヲ取り廣告欄内ヲ見居タルト  
 キ佛國ノ諸都府ニ於テ礦水ヲ賣買スル者ノ人名表ヲ見タリシニ其ノ内ニ自ラ不  
 可思議トセル彼ノ人名及ビ住所ノアルヲ見タリ、然レトモ是レ決シテ驚クニ足ラ  
 ズ、何トナレバ二ヶ月程以前礦水ノ廣告ニ注意セシコトアリ、而シテ余ハ言語ヲ記  
 憶スルニ長ズルガ故ニ以前ニ見シトキ知ラズ識ラズ眼ニ觸レテ記憶シ居タルナ  
 リト(「テイ」英譯「イ」六頁)此三例ニ由テ之ヲ觀レバ自分ノ生涯ニ經驗セシコトハ  
 直覺ト異ナリテ彼ノ記憶ノ第三ノ要素ヲ缺クニモ拘ラズ再生スル所ノ觀念ハ明  
 瞭ニシテ直覺ノ如ク抽象的ノモノナラズ實形ノ心像ヲ現ハスナリ、以上ハ不完全  
 ナル記憶ノ概論ナリ、左ニ完全ナル記憶ヲ論述セン、

記憶總論——記憶ハ精神界ニ於テ必要ノ位置ヲ占ムルモノナリ、而シテ外物ガ  
 五官ヲ刺激シテ惹キ起シタル感覺ヲ以テ精神現象ノ第一ノ基礎トナストキハ記

憶ハ即チ第二ノ基礎ト云フモ不可ナカルベシ、抑モ記憶ナルモノハ一種ノ力ニ非ズシテ印象ガ腦髓ニ粘着スル性質ナリ、恰モ疵ガ皮膚ノ表面ニ其ノ印象ヲ殘シ又光リタル物跡ノ形ガ目ノ網膜上ニ印象ヲ殘シテ後像ヲ造ルト等シク外物ノ刺激ガ腦髓ノ細胞及ヒ纖維ニ生シタル變更ヲ保存シテ後日再生スルモノナルガ故ニ記憶ノ性質ヲ學バントスルニハ大畧腦髓ノ活動スル理ヲ知ラザル可ラズ先ツ始メニ印象保存ノ理ヲ論シ次ニ印象再生ノ法ヲ論シ後チ再生シタル印象ノ性質ヲ論ゼントス、

腦髓ト印象トノ關係——既ニ論シタル如ク腦髓ハ灰白質ト白質トノ二質ヨリ成リ、灰白質ハ重モニ細胞ヨリ成立スルモノニシテ腦髓ノ外面ニ廣布シ、白質ハ腦髓ノ内部ニアリテ重モニ纖維ヨリ成立ス、其ノ他腦髓ノ内部ニハ種々ノ小機關アリ、第七圖ハ即チ其ノ小機關ノ位置ヲ大體ニ示シタルモノナリ、第九圖ハ其ノ小機關ト外官トノ關係ヲ示シタルモノナリ、之ヲ以テ視神經或ハ聽神經等ノ中央ノ如キハ大畧其位置ヲ知り得ルモノナリ、第十圖ハ腦髓中運動神經ノ中央ヲ示シタル者ニシテ身體ノ運動ト腦髓トノ關係ヲ知ルニ足ル可シ、然リト雖モ腦髓ノ灰白質

第九圖

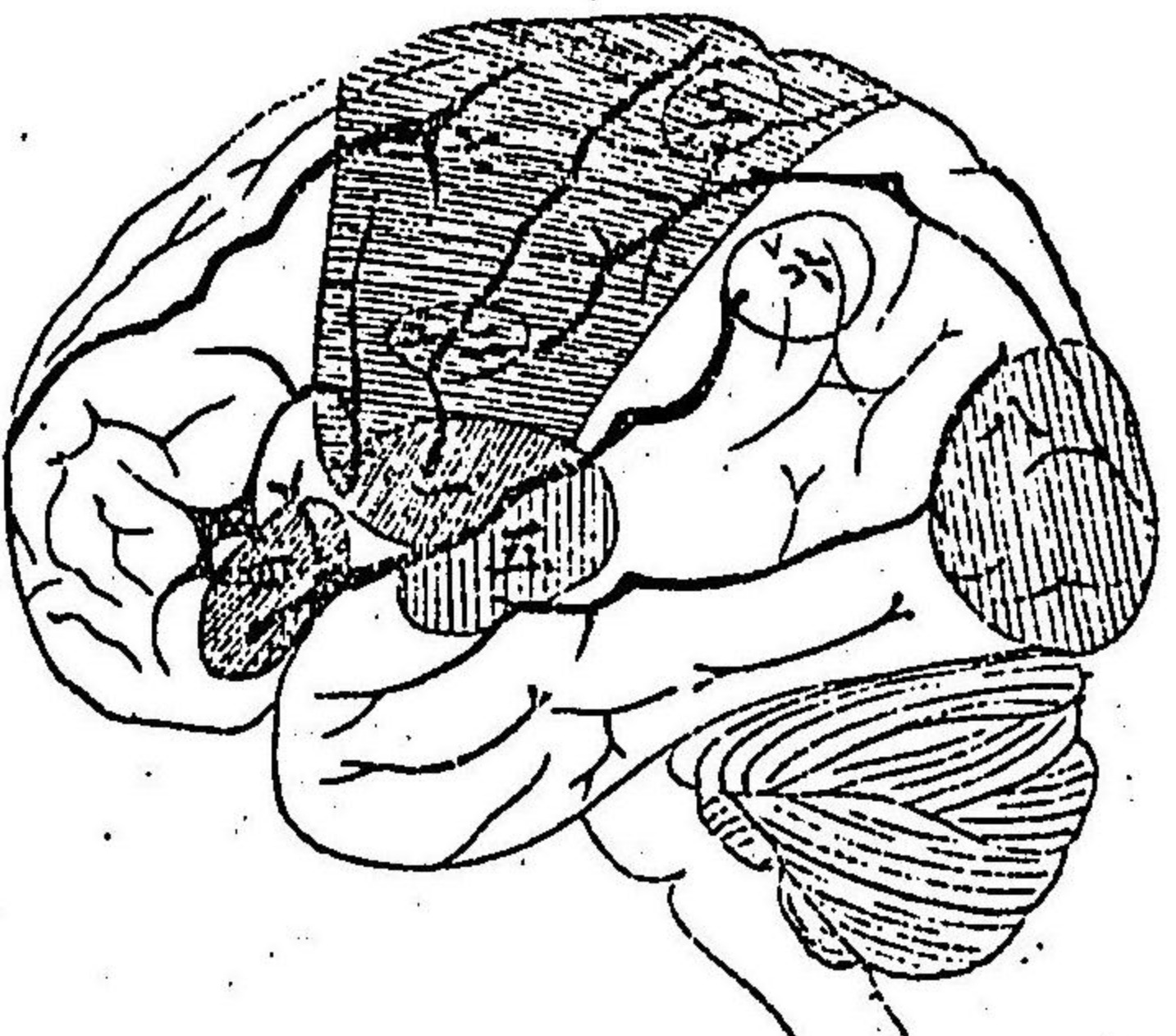


- (一) 大脳 (二) 小脳 (三) 感動神經纖維 (嗅神經節、嗅神經、視、聽神經、聽、視神經床、(視床、線狀體、線體)等ヲ合)
- (四) 視神經 (五) 聽神經 (六) 延髓 (七) 舌ノ下面ノ神經 (八) 脊髓神經 (九) 脊髓 (十) 肺胃神經 (十一) 嗅神經

ノ各部分ハ必ズ特別ノ活動ヲ爲スヤ或ハ腦髓ノ全部共ニ活動ヲ爲スモノナルヤ、心理學者ノ明白ニ答フル能ハザル所ナリ、一方ヨリ觀察スルトキハ腦髓ノ各部分ハ夫々特別ノ活動ヲ有スルガ如

シ、何トナレバ第十圖ニ示シタル各部分ニ電氣ヲ用ヒテ刺激スルトキハ必ズ定マリタル運動ヲ爲セバナリ、然レドモ是レ決シテ五官ガ各々其ノ特性ヲ有スルト同

シキモノニ非ズ眼ヲ失フタル人ハ其ノ爲メニ耳ヲ以テ代用スルヲ能ハズ又聾ハ人ノ腦髓左ノ表面ニ於テ動神經部及發音ノ鼻ヲ以テ耳ニ代

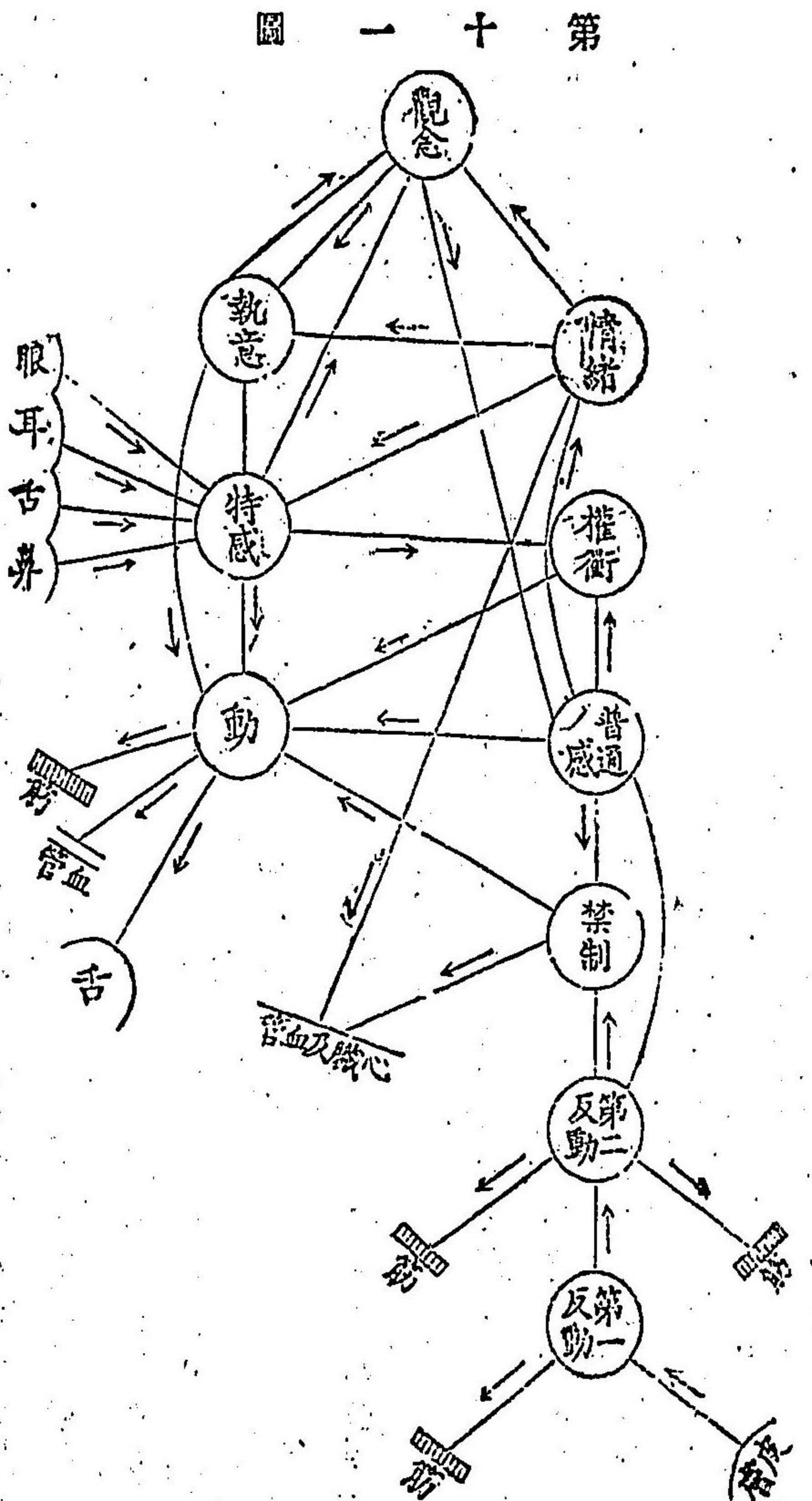


シキハ灰白質ノ各部分ハ五官ノ如ク互ニ複雑ナルモノニ非ズ又各部分ノ區域ハ耳目鼻口ノ如ク其ノ區別分明ナラザルヤ明カナリ是ヲ以テ之ヲ觀レバ腦髓ノ灰白

- (一) 舌ノ下部及ヒ顔ノ神經部
  - (二) 手ノ筋肉神經部
  - (三) 脚ノ筋肉神經部
  - (四) 動神經發音神經部
  - (五) 感神經發音神經部
  - (六) 眼ノ中央
  - (七) 此ノ所ヲ害スレバ手足ヲ麻痺サスルナリ
  - (八) 視神經部
- 神經部ヲ示シタルモノナリ  
用スルコト能ハズト雖モ腦髓ノ灰白質ニ於テハ之レト異ナリ甲ヲ以テ乙ノ爲メニ代用シ乙ヲ以テ丙ノ爲メニ代用スルコト得ルナリ故ニ此點ヨリ觀察スルト

第十圖

質及ヒ内部ノ小機關ハ特別ノ活動ヲナシ又全體ノ活動ヲモ爲スガ如シト雖モ其ノ兩者ノ區域ヲ定ムルコト甚ダ難シ左レバ細密ニ各機關ト精神活動トノ關係ヲ



一々定メントスルハ現今ノ學識ヲ以テ望ム可ラザルコトナリ故ニ著者ハわいど氏ノ作ナル第十一圖ニヨリ精

神活動相關ノ理ヲ示サントス、初メ外物ノ刺激五官ヨリ入り來ルヤ直チニ反射シ  
 筋肉ノ收縮ヲ惹キ起スモノアリ、或ハ禁制ノ點ニ達シテ禁止サル、モノアリ、或ハ  
 直チニ情緒ヲ惹キ起スコトアリ、其ノ有様種々ニシテ複雜ナルモノナリ、斯ノ如ク  
 様々ナル現象起ルトキハ必ズヤ腦髓ノ組織中ニ於テモ亦變更ヲ生ズルナリ、然レ  
 ドモ其ノ變更ノ性質ニ至リテハ之ヲ定ムル能ハズ、唯、知ル其ノ變更些細ナルトキ  
 ハ直チニ平癒シテ其痕跡ヲ失シ其ノ變更大ナルトキハ其ノ痕跡長ク腦中ニ存シ  
 テ記憶ノ基礎ヲ形テ造ルモノナルコトヲ、

印象ノ種類——夫レ疵ハ其ノ大小ニ應ジテ或ハ久シク或ハ暫時皮膚ノ表面ニ  
 アリテ其ノ跡形ヲ殘スモノナリ、之ニ加フルニ若シ外物ガ其ノ疵ニ觸ル、トキハ  
 當初ト同ク痛ミヲ生スルナリ、故ニ切リ疵、火傷、及ヒ瘡ノ痛ミ等ハ夫々特質ノ痛  
 ミヲ有シ之ヲ再生スルモノナリ、之ト同ク腦髓ニ受ケタル印象ハ腦中ニ存シテ  
 其ノ細胞ガ再ヒ外ヨリ刺激サル、トキハ其刺激ノ種類如何ニ拘ハラズ細胞ハ活  
 動シテ前ニ受ケタル印象ヲ再生スルモノナリ、幻影ノ起原爰ニ在ルナリ、後チニ於  
 テ之ヲ細論スベシ、

細胞相關ノ理——次ニ細胞相關ノ理ヲ述ベンニ細胞ハ互ニ神經纖維ニヨリテ  
 繋ガレタルモノナリ、而シテ各細胞ハ他ノ細胞ト連絡スルコト多キモノアリ、或ハ  
 少キモノアリ、比喻ヲ以テ之ヲ説明センニ人ハ社會的動物ナリ、故ニ誰ニテモ多少  
 他人ト交通スルニ非レバ精神ノ社會的慾望ヲ満足セシムル能ハズト雖モ實際ノ  
 廣キ人アリ、又實際ノ廣カラザルモ善良ナル朋友ヲ撰ビテ交際スル人アリ、又實ニ  
 交際ノ少ナキ人アルナリ、然リ而シテ人間ノ社會的性質ハ元ヨリ其ノ人ノ精神發  
 達及ヒ其ノ人ガ社會ニ對シテ爲ス所ノ事業ニ由リテ之ヲ發達セシムルヲ得ルト  
 雖モ尙其ノ上他人トノ交際ニヨリテ之ヲ助クルハ疑フ可カラザル事實ナリ、

各因相助密而精

大業自成大發明

每見智人新智德

憐他孤陋鈍斯生ホーマーヨリ譯ス

交際ナルモノハ彼我互ニ聯絡ヲ通スルモノナレバ皆ニ朋友ノ善良ナルヲ求ムル  
 ノミナラズ種々ノ人物ト交際スルコトニ由リテ互ニ利スルコト亦大ナリト云フ  
 可シ、故ニ一個人ヲ以テ一個ノ觀念ト見做ストキハ觀念ノ互ニ聯絡スルハ恰モ一  
 個人ガ互ニ交際スルニ等シト云フ可ク又觀念互ニ聯絡ガ記憶及ヒ其ノ他ノ精神

活動ニ影響スルハ恰モ社會ノ交際ガ人間ノ生活ニ影響スルト同一理ナリト云フ可キナリ、

因ニ云フ學識ニ普通ト専門ノ二種アリ普通ノ學識ニ能ク通ゼズシテ一科ノ専門ニノミ長ズル人ハ是レ其ノ觀念一方ニノミ長シ腦中ニ存スル觀念ハ其ノ數ノ多少ニ關セス種類至テ少ナク所謂純一ナルモノニシテ觀念ハ屢聯絡スルモ同類中ノ聯絡ニ過キサレナリ恰モ商人ハ商人トノミ交際シ政治家ハ政治家トノミ、教育家ハ教育家トノミ交際スルナレバ互ニ智識ヲ交換スルモ其ノ益スルコト實ニ少ナシト云フ可シ何トナレバ交換ノ利益ハ異種ノ間ニ於テ最モ著シキモノナレバナリ故ニ普通ノ教育ヲ以テ人心ヲ練習スルニハ一般ノ學理ニ通ゼザル可カラズ而シテ一科ヲ専門トスルト同時ニ異種ノ學ヲ研究シ腦髓ヲシテ千種萬別ナル學識ノ住所ト爲シ腦ノ纖維ヲシテ異種ナル觀念ノ互ニ聯絡スル媒介トナサシム可シ是レ大發明チナスノ秘密ト云フ可シしきすべわ、馬琴にゆゑとんだるがみん等ノ如キハ皆一科ノミヲ學ビタル人ニ非ズ種々ノ學ヲ學ビ一方ニハ未ダ人ノ知ラザル事實ヲ多ク發見シ又他ノ一方ニハ形而上ナ

ル哲理ト形而下ナル事實ノ關係ニ就テ未ダ世人ノ知ラザル聯絡ヲ發見シタルナリ例ヘバだるうみんノ進化論ノ如キハ形而上ヨリ云ヘバ既ニ數百年ノ昔日ニるくれちやす及ビ印度ノ哲學者ノ如キ其ノ理ヲ考ヘタル者ナキニ非ズト雖モ是レ唯形而上ニ止マリタルナリ又形而下ヨリ云ヘバきびやノ如キハ許多ノ事實ヲ蒐集シタリト雖モ其ノ事實中ニ高尚ナル哲理ノ存スルヲ知ラザリシ爰ニ於テだるうみんハ生物學上緊要ナル事實ヲ多ク發見シ又他ノ一方ニハ形而上ノ哲理ト形而下ナル事實トノ間ニ存スル大關係ヲ發見シタルナリ殊ニ後者ハ氏ノ名ヲシテ高く秀デシメタル所以ナリ、

此觀念ノ聯絡ヲ能クナサシムルモノハ腦中ニ在ル神經纖維ナリトス纖維ハ猶ホ道路ノ如シ道路堅牢ナレバ交通モ亦自ラ繁ク社會ノ益榮ユル如ク腦中ノ纖維壯健ニシテ活動スルトキハ精神ハ益熾ナリ而シテ此纖維ヲシテ活潑ナラシムルモノハ習練ニ外ナラズ習練ヲ以テ觀念互ノ聯絡ヲ生ゼシメ且ツ其ノ聯絡ヲ確平タラシムルコトハ後チ習慣ノ章ニ於テ細論スレバ爰ニ畧ス外物ノ印象ヲ腦中ニ入レ之ヲ保存スルノ理大畧斯ノ如シ、

観念聯合一般——左ノバ今ヨリ一步ヲ進メ観念聯絡ノ性質ヲ論ゼン、観念ノ聯絡ハ同伴法ノ基礎ト云フ可シ、即チ甲乙丙…ノ観念互ニ聯絡シテ若シ其ノ中甲ノ観念外ヨリ刺激ヲ受ケ活動スルトキハ乙丙ノ観念ハ甲ノ爲メニ刺激セラレ、甲乙丙同時ニ活動スルモノナリ、斯ノ如ク聯絡シタル甲乙丙…ノ観念中ニ如何ナル法則アリテ活動スルヤ、心理學者ノ説一定セズト雖モ諸説又互ニ矛盾スルコトナシ、唯少シク見様ノ異ナルノミ、著者ハ其ノ中ヲ取リテ観念ノ聯絡ニ二種ノ法アルヲ見ルナリ、第一、時間ノ聯絡法、第二、種類ノ聯絡法是レナリ、抑モ時間ノ聯絡法トハ如何之ヲ小分シテ二トス、

時間ノ聯絡法——(イ)同時ニ腦中ニ入り來リタル印象ハ互ニ聯絡シテ腦中ニ存シ其ノ一ツガ刺激サルハトキハ他ノモノモ亦同伴シテ再生スルモノナリ、(ロ)観念ガ前後接近シテ入り來ルトキハ互ニ聯絡スルコト尙ホ同時ニ入りタルモノニ等シ、第一先ツ同時ニ腦中入りタルモノヲ例センニ彼ノ梅ヲ見レバ先ツ視覚ヨリ其ノ刺激ヲ味覚ニ及ボシ以テ酸キ感覺ヲ惹キ起シ、其レヨリ唾液腺ヲ刺激シテ唾液ヲ口ニ出スコトアリ、蓋シ是等ハ常ニ同時ニ經驗スルモノナレバナリ、又海上ニ於

テ難ニ逢ヒタル人或ハ船暈ノ爲メニ困ミタル人ハ海上ノ浪ヲ見レバ直チニ頭痛ヲ病ムコトアルヲ以テ知ル可シ、是レ海面ノ知覺ト頭痛トハ互ニ聯絡スルニ由リテ同伴シテ再生スルガ故ナリ、

田子の浦ゆうち出て見れば真白にぞ

富士の高嶺に雪は降り<sup>々々</sup> (山人)

ノ如キ富士ノ山ト田子ノ浦ト雪ノ三者ハ同伴法ニヨリテ是非相伴ハザルヲ得サルナリ、又彼ノ

雲耶山耶吳耶越 水天髣髴青一髮

萬里泊舟天草洋 烟橫蓬窓日漸沒

瞥見大魚波間跳 太白當船明似月

ノ如キハ麗詞ヲ以テ景色ヲ畫キタルモノト云フベシ、是レ景色ヲ見テ同時ニ認識シ得ベキ四方ノ有様ヲ此詩ニヨリテ同伴シ一時ニ想像ニ現ハシ得タルナリ、故ニ記事文或ハ景色ニ關シタル詩歌等ハ總テ此同伴法ノ應用ト云フモ不可ナカル可シ、又繪畫ニ於テ此理最モ明カナリ、夫レ繪畫ハ幻影ノ一種ニシテ平面ナルモノヲ



以テ實體ナル如キ感覺ヲ惹キ起サシムルモノナリ、之ヲ以テ外ヨリ入り來リテ網膜ヲ刺激スルモノハ些少ノ要點ニシテ、其ノ足ラザル所ハ同伴ニヨリテ精神中ニ惹キ起サレタル觀念之ヲ補ヒ以テ完全ナル實體ノ如キ思ヲ生ゼシムルナリ、(詳論ハ之ヲ幻影ノ章ニ讓ル)故ニ知ル可シ、觀念ハ同伴法ニ任シテ各自ノ精神中ニ現ハレシムルモノナルヲ、同時ニ腦中ニ入りタル觀念ノ同伴スルコト大凡ソ斯ノ如シ、  
 第二、然リ而シテ前後接近シテ現ハル、モノ、觀念ハ又互ニ同伴スルモノナリ、故ニ曉ト云ヘバ必ず晝ノ觀念同伴シ秋ト云ヘバ必ず冬ノ觀念同伴ス、又花ノ咲クヲ見レバ春ノ觀念ヲ同伴スルナリ、

あきはぎはさきぬべからしわがやどの

あさぢがはなのちりぬるみれば(萬葉集、穗積皇太子)

洛陽城東桃李花

飛來飛去落誰家

洛陽女兒惜顏色

行逢落花長歎息

今年花落顏色改

明年花開復誰在

已見松柏摧爲薪

更聞桑田變成海

古人無復洛城東

今人還對落花風

年々歳々花相似

歳々年々人不同

あけぬればくるゝものとはしりながら

なほうらめしきあさばらけかな(原道信一首、藤原)

かすがぬにしぐれふるみゆあすよりは

もみぢかささんたかまどのやま(萬葉集、藤原朝臣八束)

等ハ時ノ前後ニヨリテ觀念ノ互ニ同伴スルモノナリ、

種類ノ聯絡法——以上ニ於テ時間ノ聯絡法ヲ略述シタルバ、今ヨリ種類ノ聯絡

法ヲ論セントス、第一、時間ノ前後ヲ問ハズ場所ノ遠近ヲ論ゼズ腦中ニ入りタル多

數ノ印象中同種類ノ觀念ヲ互ニ同伴スルモノナリ、例ヘバ

咲きにけりわが山さどのうの花は

かきぬにきえし雪と見るまで(三十六歌仙)

たてもなくぬきもさだめず乙女らが

あるもみぢばに霜なふりそね(萬葉集、大津皇太子)

門松や冥途の旅の一里塚

目出度もあり目出度もなし(和尙)

みよしぬのあをねがみねのこけむしろ

たれかをりけんたてぬきなし(萬葉集、歌)

是等ハ皆能ク同伴法ヲ示スモノナリ、卯ノ花ト雪トハ兩者共ニ白シ、故ニ同伴ス、又紅葉ハ錦ニ似タリ、故ニ錦ヲ織ルコトニ比シ、クンドモ錦ヲ畧シテ「乙女らが織る紅葉」ト云ヘルナラン、又門松ハ大ナル時計ノ如ク一年ノ初旅ナルヲ示スナリ、蓋シ時計ノ經過スルハ旅人ノ道ヲ經過スルニ似タルモノナレバ門松ヲ以テ一里塚ニ比シタルナラン、又「こけむしろ」ハ相似タリ、故ニ同伴ス、之レ皆同伴法ヲ現表シタルモノニ非ズシテ何ソヤ、

第二、兩極ノ同伴——此同伴法ニ種々ノ差別アリ、第一ハ兩極端カ互ニ同伴スルコト、即チ黑白長短、上下、大小ノ如シ、是レ兩極端同一物ナレバナリ、老子言ヘルコトアリ、曰ク、道可道非常道、名可名非常名、此兩者同出而異名、天下皆知美之爲美、斯惡已、皆知善之爲善、斯不善已、云々ト、又變化ハ不變化ニ對シテ存ス、故ニ

くれて行く春と残りもなきものを

をしむ心のつきせざるらん(千載和歌集)

ハ春ノ變リ行クモ之ヲ惜ム所ノ人心ノ變ラザルヲ云フナリ、之ニ反シテ

人心わらずなれども住吉の

松の影色は變らざりけり(千載和歌集)

又人ト花トヲ比較シテ云ヘルコトアリ、曰ク

今年花似去年好 去年人到今年老

始知人老不如花 可惜落花君莫掃(唐詩選、岑參)

斯ノ如ク兩極端ノ互ニ同伴スルハ老子ノ云ヘル如ク兩端必ズ符合スル所アルヲ以テナリ、

第三、論理的同伴法——第一、二三ノ事實ヲ見テ其レヨリ一般ノ理ヲ同伴スルコト之レナリ、例ハバ

世の中を常なきものと今ぞ知る

ならの都のうつろふ見れば(萬葉集、歌)

是レ奈良ノみやこの移り行く事實ヲ見テ世の中ハ常なきものテウ一般ノ理ヲ知  
リタルナリ實ニ歸納法ノ單一ナル者ナリ第二之ニ反シテ先キニ一般ノ理ヲ考ヘ  
其ヨリ事實ヲ同伴スルコトアルナリ

世の中も常にもわらねばやどにある

櫻の花の散れる頃かも(萬葉集、久米女郎)

世ノ無常ヲ感テ以テ櫻花ノ飛散スルヲ思ヒタルナリ是レ實ニ演繹法ノ端緒ト云  
フ可シ第三、一ツノ事實ヲ見テ一般ノ理ヲ想ヒ其レヨリ直チニ又其ノ理ヲ推シテ  
他ノ事實ヲ思フコトアリ其ノ時ハ恰モ一ツノ事實ヨリ直チニ他ノ事實ヲ同伴ス  
ルガ如シト云ふあるとみるハ實際上ニ於テハ此類ノ推理法ヲ以テ演繹法及  
ヒ歸納法ヨリモ尙ホ大切ナリト云ヘリ此ヲ例センニ

かさしぎのわたせる橋にをく霜の

白きをみれば夜ぞふけにける(中納言家持)

かすみたつのべのかたにゆきしかば

うぐひすきつはるになるらし(萬葉集、丹比真人乙磨)

前者ハ橋上ノ降霜ヲ見テ深夜ナルコトヲ知り後者ハ鶯ノ啼ルヲ聞テ春ノ時候ヲ  
知リタルナリ種類ノ同伴法大凡斯ノ如シ

複雑ナル聯絡法——前述セル所ハ唯原理ヲ示シタルニ過キズ是等ノ同伴ハ復  
互ニ合シテ複雑ナル同伴ヲ生ズルコトアルナリ例ヘバ

消かへり思ひもかなし立ちのぼる

夜半の煙のすゑの白雲(扶桑拾遺、後小松天皇登遐)

ぬばたまのよるさりくればまきむくの

かわとたかしもあらしかもとき(萬葉集、柿本朝臣)

秋こぬと目にはさやかに見えぬども

風の音にぞ驚かれぬ(藤原敏行朝臣)

霜雲も未だ過ぎぬば思はぬに

春日の里に梅の花みつ(萬葉集、大伴宿禰)

夕されば小倉の山に鳴く鹿の

こよひは鳴ずいねにけらし(萬葉集、舒明天皇)

是等ハ皆複雑ナル觀念ノ同伴ヲ挑ム者ナリ、細密ニ之ヲ説明スルノ要ナシ、讀者自ラ説明ヲ試ミラレシコトヲ望ム、同伴ノ法大凡斯ノ如シ、

再生シタル心像——左レバ今ヨリ再生シタル心像ニ就テ論セントス、前ニ言ヘル如ク再生シタル心像ノ形質ハ元ノ知覺ノ形質ニ類似シタルモノナリ、唯知覺ノ如ク明瞭ニ現ハレザルノミ、故ニ眼前ニ景色ヲ見ルコト、其ノ後之ヲ記憶スルコトヲ比スレバ其ノ精神活動ノ形質ニ於テ差違アルコトナシト雖モ唯、後者ハ前者ノ如ク明瞭ナラザルナリ、故ニ再生シタル觀念ニモ亦元ノ知覺ノ如ク其ノ種類甚ダ多シトス、而シテ其ノ同伴ノ法ニ至リテハ知覺ノ心像ガ視覺ノ心像ト同伴スルコトアリ、或ハ味覺ガ視覺ノ心像ト同伴スルコトアリ、夫レ斯ノ如シト雖モ、心像ナル語ハ素ヨリ視覺ノ再生ヲ現ハス語ニシテ音樂ノ心像又ハ臭味ノ心像等ノ如キハ視覺ノ比喻ヲ以テ稱シタルモノナリ、是等諸種ノ心像ハ互ニ聯絡シテ種々ナル現象ヲ生ズ、其ノ中讀者ノ注意ヲ乞ハントスル所ノ一點アリ、即チ記號ニヨリテ觀念ヲ交通スルコト是レナリ、記號ト知識——抑モ我等觀念ヲ交通スルニ二種ノ方法アリ、即チ他人ノ舉動ヲ

見テ其ノ精神ノ有様ヲ知ルコトアリ、是レ視覺ト他ノ觀念ノ聯合ニ基スルモノナリ、或ハ記號ヲ以テ間接ニ之ヲ知ルコトアリ、記號ニ二種アリ、言語及ビ文章是レナリ、詩人ガ筆ト紙トヲ以テ景色ヲ眼前ニ見ルガ如ク書シ、或ハ演說家カ言語ヲ以テ間接ニ其ノ思想ヲ現ハスコトアリ、言語ハ音響ト觀念ノ聯合ニ歸シテ文字ハ視覺ト觀念ノ聯合ニ歸スルモノナリ、而シテ記號ノ類其ノ數夥シト雖モ最も要用ニシテ且ツ多數ナルモノハ言語ノ右ニ出ルモノ有ラズ、言語ハ最も發達シタル記號ナリ、左レバ今言語ノ發達ヲ以テ記號ノ性質ヲ説明セントス、夫レ言語ノ起原タル一ニシテ足ラズ、模擬ヨリ來ルモノアリ、或ハ偶然ナルモノアリ、例ヘバ鳥ヲ見テ幼兒ニ教フルニ「カ」ナル音ヲ以テスルハ之レ其ノ鳴キ聲ヲ模擬シタルモノナリ、之ヲ分解スレバ鳥ト其ノ鳴キ聲トハ常ニ同伴ナルモノナリ、之ヲ以テ小兒ニ教フルニ鳥ヲ指シテ「カ」ト云フトキハ二者ノ觀念ハ小兒ノ精神中ニ於テ互ニ聯絡スルガ故ニ其ノ後此小兒ガ「カ」ナル音響ヲ聞クトキハ同伴法ニヨリテ彼ノ鳥ノ心像腦中ニ現ハル、ナリ、又「マ」ナル音響ハ最も發シ易キモノナリ、左レバ「マ」ヤ英語及ビ獨逸語ニテハ母ノコトヲ「マ」ト言ヒ佛語ニテハ「マ」ト云フ、米國ニテハ小兒ガ猶

之ヲ略シテ「マ」ト云フ、我邦ニテハ小兒ガ母ヲ「カ」ト云フ是レヲ以テ之ヲ觀レバ  
 前述セル所ノ模擬ノ例トハ少シク異ナリ、母ハ小兒ノ最モ愛スルモノナレバ最モ  
 呼ビ易キ名ヲ以テ之ヲ呼ブハ自然ノ勢ナリ、其ノ音響ト其ノ實物トハ少シモ關係  
 ナク唯、最モ親シキモノト最モ發シ易キ音響ガ偶然互ニ聯合シタルモノナリ、而シ  
 テ小兒ノ心中ニハ其ノ「マ」或ハ「カ」ナル語ト同伴シテ母ノ顔ヲ思ヒ出スノミナ  
 ラズ母ヲ愛スルノ情ハ全ク此些少ノ音響ニ同伴スルモノナリ、其ノ他言語ニヨリ  
 テ思想ヲ通スルノ理皆之ニ同シ、左レバ音響或ハ言語ハ間接ニ物ヲ知ルノ中間ニ  
 止ルノミナレバ音響或ハ言語ノ心像ハ實物ノ心像ノ如ク實在スル者ニ非ズトノ  
 感ナキ能ハズ、然リト然モ之レ決シテ然ラズ唯是等ハ心像ノ種類ヲ異ニスルノミ、  
 言語ノ心像ハ猶ホ實物ノ心像ノ如ク實在スルモノナリ、之ヲ貨幣ニ比センニ貨幣  
 ハ物品交換ノ中間ヲナスニ止マルト雖モ亦貨幣ハ其ノ自ラ實價ヲ有スルガ如シ、  
 故ニ耳目鼻口ノ感覺ハ其ノ類ノ異ナルニ拘ハラズ各其ノ心像ハ實在ヲ有スルモ  
 ノナリ、實ニ斯ノ如キ龐雜ナル心像ガ互ニ聯合シテ精神現象ヲ形テ造ルモノナリ、  
 知識ノ交通——而シテ如何ニ龐雜ナルニモ拘ハラズ一人ノ精神中ニアル現象

ハ悉ク之ヲ結合セシム、之ニ反シテ甲ノ人ノ觀念ト乙ノ人ノ觀念トハ互ニ全ク相  
 異ナルモノニシテ徹頭徹尾之ヲ結合サズルコト能ハザルモノナリ、唯、記號ノ助ケ  
 テ以テ甲ノ觀念ヲ乙ニ通スルヲ得ルノミ、而シテ未開時代ニ於テハ互ノ觀念ヲ通  
 スルニ重ニ身振リヲ以テナセリ、又此ト同時ニ音響ヲ以テ觀念ヲ發表スルコトア  
 リ、而シテ世ノ開化スルト共ニ觀念ヲ相通スルノ方法モ亦進歩シ記號ヲ書スルノ  
 法漸々進歩シテ遂ニ今日ノ文學トハナレリ、身振、言語、文字ヲ用ヒテ彼レト是レト  
 ノ觀念ヲ結合セシムルナリ、左レバ今日ニアリテ我等ガ觀念ヲ通ズルノ機關ハ重  
 モニ言語、文書、及ビ身振ノ三種ニ止マルガ如シ、抑モ此三者ハ心像ヲ外形ニ現ハス  
 ノ方法ナリ、故ニ心像ヲ外形ニ現ハスニ就テ我等ノ注意スベキ點ニアリ、第一、心像  
 ヲ外ニ現ハスニハ天然ニ具ハリタル方法ヲ有スルヤ否ヤ、第二、心像ノ種類多シト  
 雖モ何故ニ此三者ガ觀念交通ノ機關トナリタルヤ、二問題即チ是レナリ、  
 第一ノ問題ニ就テハ之ヲ三ツニ分チ言語、文書、及ビ身振リニ就テ論ゼントス、(イ)  
 心像ト其ノ心像ヲ言ヒ現ハス所ノ言語ハ互ニ天然ノ關係ヲ有スルモノアリ、即チ  
 前述セル如ク音響ヲ模擬シテ之ヲ現ハストキノ如シ、然リト雖モ斯ノ如キハ古代

ニ於テ或ハ小兒ニ於テ言語發達ノ始メニ僅カニ存スルモノコシテ多クハ心像ト其ノ心像ヲ言ヒ現ハス所ノ言語トハ天然ノ關係ナク偶然ノ習慣ニ依テ之ヲ現ハスモノナルガ如シ故ニ同一ノ心像ヲ言ヒ現ハス爲メニ國々ニ於テ異ナリタル言語ヲ用フルハ是レ即チ國々ノ習慣ノ異ナルヲ證スルノミ(口)心像ト文書トノ關係ニ至リテモ天然ノ關係ヲ有スルモノアリ或ハ偶然ナルモノアリ漢字ノ如キハ物ノ形ニ像リテ文字ヲ作りタルモノ甚ダ多シト雖モ日本ノ假字或ハ英字ノ如キハ之ト異ナリ文字ノ形ハ殆ンド全ク便宜ニヨリテ定メタルモノナルガ如シ(ハ)心像ト身振ノ關係ニ至リテハ天然ノ關係ヲ有スルモノ甚ダ多キニ似タリ而シテ面部ノ筋肉ヲ二様ニ分チ之ヲ縱横ト假定スルトキハ精神中快樂ノ情アルトキハ縦ノ筋肉ハ收縮シ横ノ筋肉ハ緩ムガ如シ俗ニ前者ヲ笑ヒ顔ト云ヒ後者ヲ憂ヒ顔ト云フ(表出ノ章ヲ見ヨ)斯ノ如キハ萬國普通ニシテ殆ンド天然ニ具ハリタルモノ如シト雖モだるがみん氏ノ説ニヨレバ是レ又進化ノ結果ニシテ天然定リタルモノニアラズト云フ其ノ他身振ヲ以テ觀念ヲ通スルコト多シト雖モ其ノ身振ノ仕方ニ至リテハ悉ク習慣ノ然ラシムルモノト云フベキナリ是ヲ以テ之ヲ觀レバ

心像ト記號(言語、文書、身振)トハ固ヨリ其ノ根原ニ於テ自然ノ關係ナキコアラズト雖モ今日ノ開化國ニ於テハ殆ンド其ノ關係ナク唯習慣ニヨリテ定マリタルモノナルガ如シ第二何故ニ此三者ガ觀念交通ノ機械トナリシヤ曾テ米國博言學士はいどに一氏言語ノコトニ關シテ言ヘルコトアリ曰ク言語ガ觀念交通ノ機械トナリシハ別ニ深キ理ノ存スルニ非ズ所謂生存競争ノ理ニ基キ言語ハ觀念ヲ通スルニ最モ便利ナルモノナルガ故ニ斯ク生存シテ殘ルナリト左レバ其ノ理ヲ此ノ三者ニ應用シテ云ハソ此等ハ觀念ヲ通スルニ便利ナルガ故ニ觀念交通ノ機關トシテ生存シタルモノナリト此理ヲ廣ク推及スルトキハ記號ノ要素タルヤ天然其ノ心像ト關係ノ有無ヲ問ハズ唯交通ニ便利ナルモノハ尙々生存シテ進歩シ不便ナルモノ亡滅スルハ理ノ當然ト云フ可シ例ヘバ金銀ハ賣買スル物品ノ性質ニ關係スルコトナク唯流通ニ便ナルヲ以テ世界普通ノ貨幣トナリタルガ如シ

因ニ云フ貨幣ノ流通ヲ便ナラシムルハ國家ノ繁榮ニ大關係ヲ有スル如ク容易ナル言語ヲ以テ觀念交換ノ自由ヲ計ルハ國家教育ニ於テ缺ク可カラザルコトナリ我國現今ノ如ク漢語アリ國語アリ英語アリ其他種々ナル外國語アリ此時

ニ際シ我國ハ本邦人ニ最モ通シ易キ語ヲ撰ビテ以テ日本將來ノ教育ヲ盛ニスルヲ得ベシ然ラザレバ大ニ失フ所アルヤ明カナリ豈注意セザル可ケンヤ、時ノ前後——抑モ心像トハ先キニ五官ヨリ得タル印象ノ再生シタルモノナレバ心像ノ再生スルヤ其ノ數ノ大小ヲ問ハズ各ガ前ニ知覺トナリテ意識中ニアリシ其ノ時日ヲ現ハスモノナリ故ニ完全ナル記憶ニ於テハ昨日經驗セシコトハ必ス其ノ前日ニ於テ經驗セシモノト混雜スルコトナク又一ケ月前ニ經驗セシコトハ二ケ月前ニ於テ經驗シタルモノト混雜スルコトナシ茲ニ於テ始メテ時ノ觀念ヲ生ズルナリ、惟如何ニシテ昨日ノ經驗ト其ノ前日ノ經驗トハ混雜スルコトナキヤ、古代ニアリテハ之ヲ説明スルニ記憶力ナル一種ノ能力ヲ以テセリ、然レトモ既ニ云ヘル如ク記憶ハ一種ノ力ニ非ズ、腦中ニ殘リタル印象ガ再生スルノ事實ヲ概シテ記憶ト稱スルモノナレバ記憶ハ印象ノ再生的性質ナルノミ、故ニ再生シテ意識中ニ現ハルハニ當テ其ノ前後ノ秩序ヲ混雜シテ現ハルハ、モ亦其ノ心像ノ性質ニアラズシテ何ゾヤ、例ヘバ視覺ヲ以テ物ノ遠近ヲ知ルハ其ノ物ノ網膜上ニ現ハルタル影象ノ大小及ビ明白ナルコトノ度ニヨリテ之ヲ判斷スルモノナリ、然リト雖

モ是レ素ヨリ多クノ經驗ヲ經テナシ得可キモノナレバ先キニ經驗セザルモノノ距離ヲ判斷スルニ於テハ屢之ヲ誤マルコトナキニ非ズ、稍之ト等シク彼ノ再生シタル印象ノ明白ナルコトノ度及ビ其レト同伴シテ現出スル所ノ種々ナル觀念ノ順序等ニヨリテ其ノ印象ヲ先キニ受ケタル時日ヲ定ムルコトヲ得ルト雖モ是レ又必ズシモ誤リナキモノニアラズ、一ケ月前ニ經驗セシコト、二ケ月前ニ經驗セシコト、混雜スルコト屢アリ、唯、明白ナル印象及ビ明白ナルモノト同伴スル印象ハ其ノ時ヲ精密ニ定ムルコトヲ得ルモノナリ、我等日々經驗スルコト多シト雖モ翌日ニ至レバ其ノ日經驗セシ事實中唯、僅少ノミガ完全ナル記憶トシテ存スルモノナリ、而シテ其ノ餘ハ不完全ナル記憶トシテ偶然腦中ニ存シ後チ突然再生スルコトアリ、或ハ一度腦中ニ入リテ空シク消滅スルモノ甚ダ多シトス、記憶ノ衰弱——身軀ノ病氣ノ爲メ或ハ年老イタルニヨリテ記憶ヲ失フコトアリ、彼ノ有名ナルりんなう氏ハ晩年ニ及ビテ己レ自ラノ著書ヲ讀ミナガラ噫美ナル哉此文ヤ余モ亦此ノ如キ文ヲ書キ得ルコトヲ欲スト云ヘリ、にゆいどんモ亦自ラ發明セシ微分法ヲ見ナガラ自ラノ作者タルコトヲ知ラズト云ヒシコトアリ、又

わるといふことと氏モ之ト同シク一日氏ノ作ニナリタル詩ヲ讀ミ聞カセシトキ  
 氏之ヲ聞キテ大ニ喜ビ此優美ナル詩ヲ作リシハ誰ナルヤヲ問ヘリト云フ此事ニ  
 關シテ新井白石氏言ヘルコトアリ世の中の新しく珍しき事どもは耳には聞くど  
 も口よりは出すべからず都て始めて聞きし人の名あどは忘るゝ事もあり其事あ  
 りし地の名又は日月などは少しく程をへだてぬれば忘るゝともある事なれど若  
 き人の忘れしは只其時にあたりて忘れしとのみ聞く人も思ふなり年老ひぬる  
 かきたかあらぬ事どもいふは老しにけりどこそ思ふものなれ云々(折上十一頁)茲  
 に又一時脳髓に損害ヲ受クルガ爲ニ記憶ヲ損スルコトアルナリ之ヲ例セシニ或  
 ル婦人自ラ暮ヒ居リシ男子ニ嫁セリ後チ出產セシガ其ノ時ヨリ神經病ニ罹リ永  
 ク惱マサシ全快ノ後チ記憶ノ一部ヲ全ク失ヒタリ婚姻以前ノ事ハ明カニ之ヲ記  
 憶セシト雖モ婚姻後ノ事ニ就キテハ全ク記憶ニ存セサルガ如シ故ニ其ノ夫ト小  
 兒ハ自分ニハ關係ナキ者ト思ヘリ其ノ友人ヨリ婚姻ノコト及ビ出產ノコトヲ話  
 スト雖モ決シテ之ヲ信セズ生涯此記憶ヲ回復スルコトヲ得ザリシト云フ又一例  
 ヲ舉ンニ年齢三十二ニシテ博學多才ナル一紳士大病ニ罹リシガ殆ンド快癒ヒン

トスルニ當リ日々耳目ニ觸ルゝ所ノ諸物ノ名迄モ之ヲ忘レタリ全癒ノ後チ兒童  
 ノ如ク勉強シ始メ物ノ名ヲ習ヒ次ニ書籍ヲ學ビ次ニ羅句語ヲ習ヒシガ其ノ進  
 歩甚ダ速カナリシ然ルニ一日勉強シ居リシトキニ讀書ヲ止メ手ヲ頭上ニ置キシ  
 ガ其ノ有様常ニ異ナルヲ以テ教師其ノ故ヲ問ヘリ紳士曰ク余ハ頭中ニ奇異ナル  
 感覺ヲ有ス今余ガ學ブコトハ先キニ知り居リシコトナルヲ感スト云ヘリ其ノ時  
 ヨリ紳士ハ突然前ノ記憶ヲ回復セリト云フ斯ノ如キ適例枚擧スルニ遑アラズ

### 第五章 幻影

前章ニ於テハ五官ヨリ得タル知覺ガ腦中ニ存シテ意識中ニ再生スルノ理ヲ論  
 シタリ本章ニ於テハ再生シタル心像ト知覺トノ關係ヨリ生ズル一種ノ現象ヲ論  
 セントス今之ヲ稱シテ幻影ト云フ抑モ幻影トハ實在ニ對シタル語ニシテ物體ヲ  
 見ルニ有リノ儘ニ見ルコトナク見誤マリタル觀念ヲ心中ニ有スルコトナリ然リ  
 ト雖モ必ズシモ幻影ハ神經ノ病氣ヨリ發スルモノニアラズ人間ノ精神現象中ニ



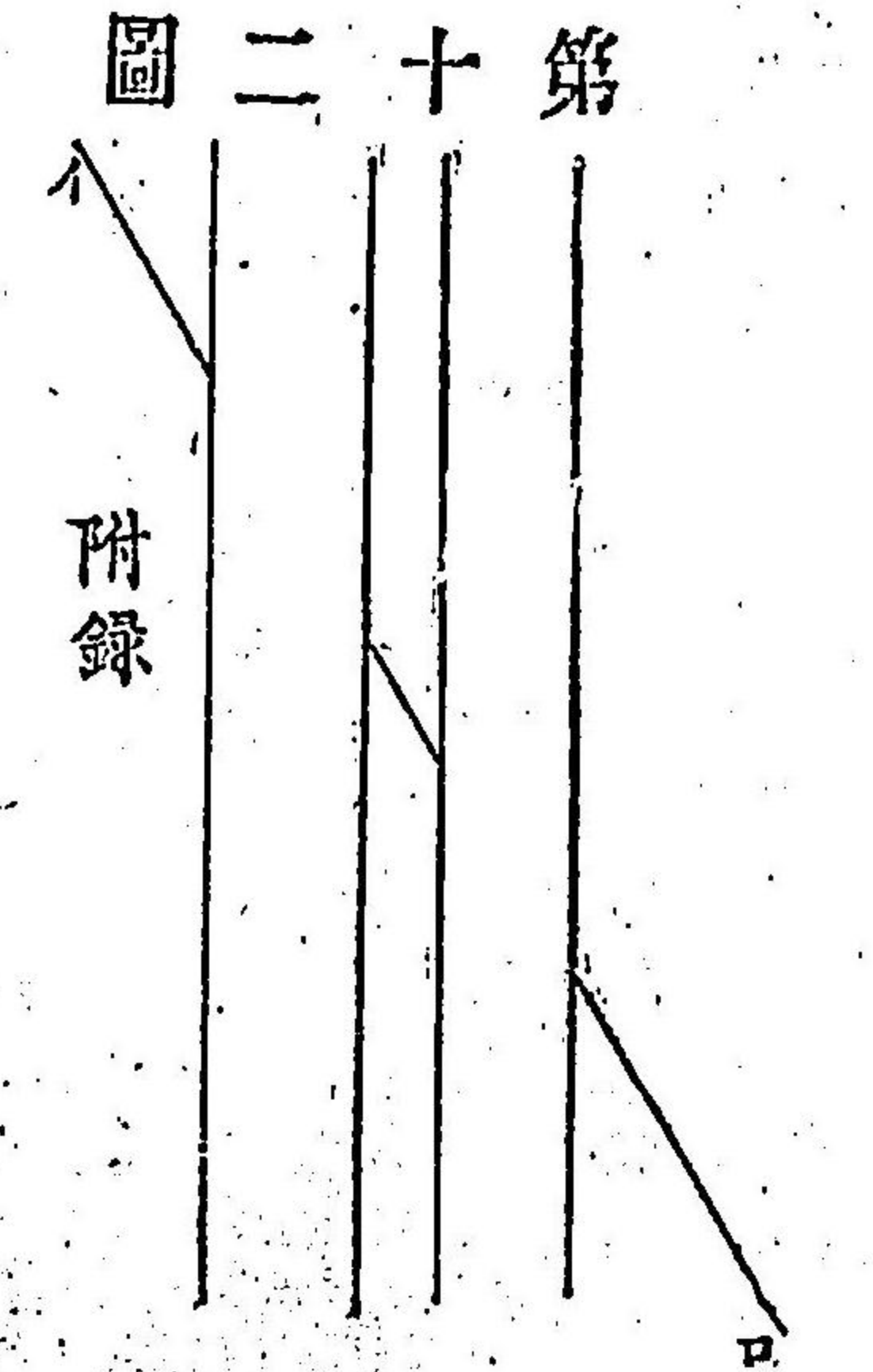
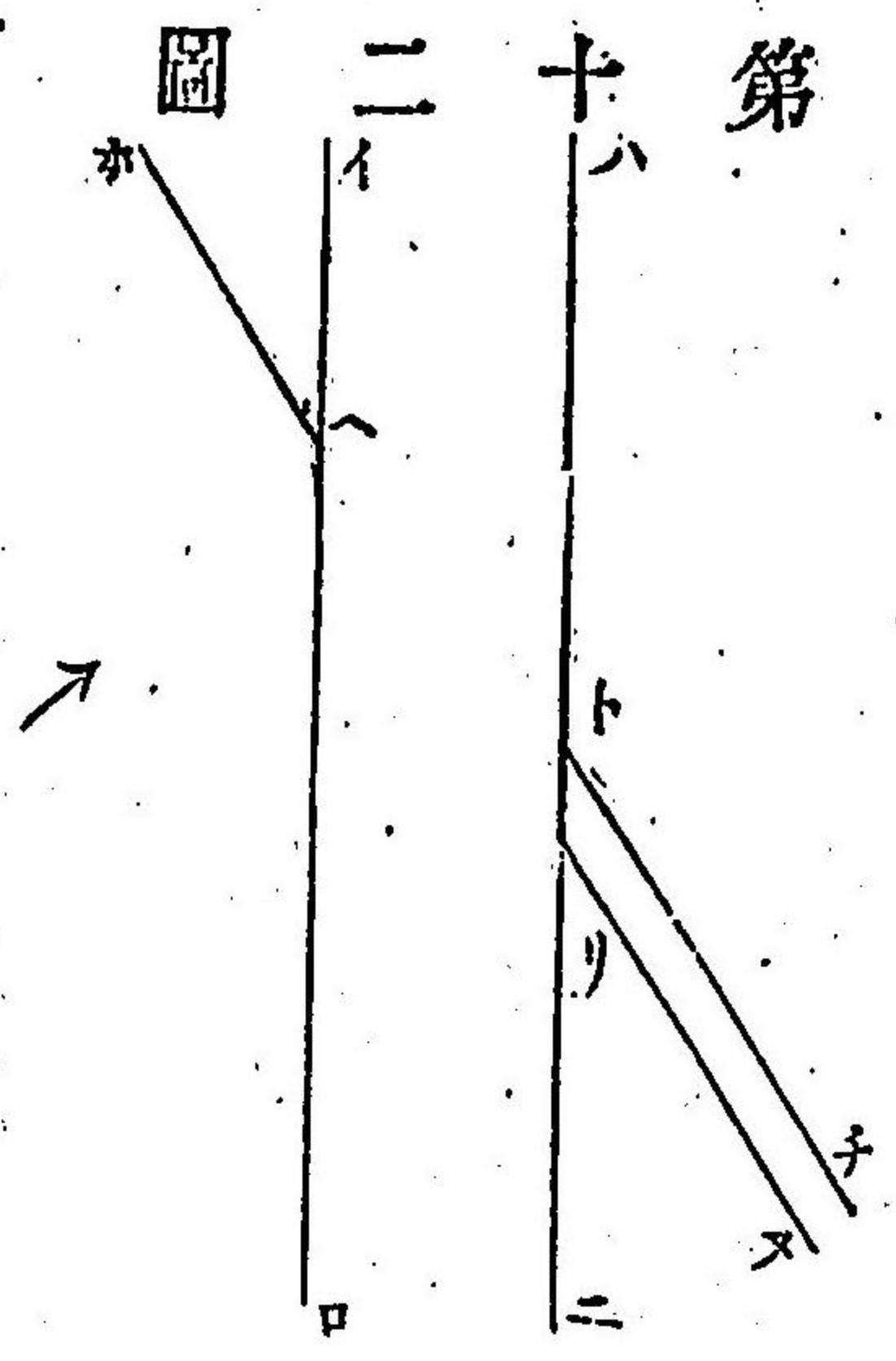
ハ多クノ幻影アリテ日々我等之ヲ利用スルコト又少ナカラザルナリ、  
 知覺ノ二要素——既ニ論ジタル如ク腦中ニハ過去ノ經驗ヨリ得タル數多ノ印  
 象ヲ有シテ時々之ヲ再生スルモノナリ、而シテ我等五官ヲ以テ外物ノ存在ヲ認識  
 スルトキニハ之ニ二種ノ要素アルヲ知ル、即チ五官ヲ刺激シタル外物及ビ其ノ刺  
 激ニヨリテ意識中ニ再生シタル心像是ナリ、例ヘハ景色ノ繪畫ヲ見テ其ノ意味ヲ  
 理會スルニハ既ニ以前ニ於テ經驗シタル景色ノ心像ガ意識中ニ存在スルモノト  
 今外ヨリ入り來タル繪畫ノ刺激ト相合スルニ於テ始メテ繪畫ノ繪畫タルヲ了解  
 スルモノナリ、故ニ未ダ曾テ西洋ノ市中ヲ見ザル所ノ人ガ西洋ノ都府ノ繪畫ヲ見  
 ルト雖モ充分ニ之ヲ了解シ得ザルナリ、之レ繪畫アリテ視覺ヲ惹キ起スニモ拘ハ  
 ラズ内部ニアリテ之ニ符合スベキ心像ナキガ故ナリ、此心像ト外部ノ實態トノ關  
 係ヲ論ズルハ本章ノ目的ナリトス、

幻影ノ類別——幻影ニ種々ノ類アリト雖モ著者ハ之ヲ大別シテ二種トス、第一  
 ハ外物ガ少シノ刺激ヲ與フルトキハ心像活動シテ其ノ外物ト大ニ異ナリタル感  
 覺ヲ生スルモノナリ、第二ハ外物ガ少シク其ノ形ヲ曲テ現ハル、ナリ、第一種ヲ説

明センコ例ヘバ、さゝるたゝすこのとハ其ノ友人ばいろんノ死後其ノ友ノ事ニ  
 關シ深ク考ヘ居リシガ一日氏ハ一室ヨリ他室ヘ行カントスルニ當リ彼ノばいろ  
 んガ眼前ニ立ツテ見タリ、由テ暫時其ノ處ニ止リ其ノ容貌及ビ衣服等ニ至ル迄熟  
 視セリ、氏ハ素ヨリ其ノ幻影ナルコトヲ知リシト雖モ暫時惘然タリ、而シテ之ニ近  
 寄リシニ忽チ消失シテ以前ニばいろんヲ認メシ處ニハ唯、衣服ノミ懸リタルヲ見  
 タリ、故ニ再ビ元ノ處ニ返ヘリ之ヲ見シト雖モばいろんハ決シテ現ハレザリシト  
 云フ、又近松門左衛門著作中ニ云ヘルコトアリ、なふ、こはやすまじや、何かはしら  
 ズ家内又は人大勢、みち／＼てあるひは、やつこの形も有り又は若衆女も有り、人間  
 斗りか猿猪のしゝ、わし、くまたか、爪をどぎたて眼をいからしよりつかるゝことて  
 なし……………人三人ともすまれぬあばら家何ものか有るべきぞ、さつする所みせよ  
 はりたる三文繪をいきものと見ちがへしかこはいと思ふ心からまなごがくらん  
 だこしぬけ共云々(けいせい反魂香)、又一例ヲ舉ゲニ英國ニ於テ若キ一婦人噴水器  
 ノコトヲ考ヘ居リシガ一日道ヲ通ルトキ噴水器アリシヲ見タリ、其ノ表面ニ「渴ス  
 ルモノハ來リテ飲メ」トノ語ヲ記サレシヲモ認メヨリト思ヘリ、其ノ後婦人ハ友人

ニ彼ノ噴水器ノ事ヲ話セシニ斯ノ如キモノハ決シテ無シト云ヘリ、婦人之ヲ聞キ  
 大ニ驚キ怪ミテ前ニ之ヲ見シ處ニ再ビ行キ見レバ豈計ラシヤ、小石ノ散在スル外  
 ハ何モアラザリシトゾ、又我邦ニ於テモ種々奇妙ナル者ヲ見タル人アリ、俗ニ稱シ  
 テ怪物ト云フモノ是レナリ、凡テ以上ノ如キモノハ過度ナル妄想ノ爲メニ意識中  
 ニアル種々ノ心像中一ノ心像ガ他ノ心像ト平均ヲ失ヒ過度ナル活動ヲナスガ故  
 ニ外物アリテ僅カニ刺激ヲ與フルトキハ直チニ其ノ心像發出シテ外物ノ存在ス  
 ルガ如キ感覺ヲ與フルモノナリ、而シテ第二種ハ第一種ト少シク異ナリ、内部ノ心  
 像ノ所爲ニアラズ寧ロ感覺ノ作用ニヨリ起リタル判断ノ誤謬ニヨルモノナリ、我  
 等ガ物ヲ判断スルニハ通例我等ノ經驗シ慣ル、モノヲ以テ標準トスルガ故ニ若  
 シ我等ノ思ハザル原因ノ存スルトキハ必ズ判断ニ誤謬ヲ生ズルナリ、例ヘバ英國  
 人ガ「ずうづるらんど」ニ行クトキハ山ノ距離ヲ判断スルヲ誤ルト云フ、蓋シ英國ニ  
 於テハ遠方ノ山ヲ明白ニ見ルハ甚ダ難シト雖モ「ずうづるらんど」ニ於テハ空氣ノ  
 潔白ナルガ爲メ之ヲ明白ニ見ルコトヲ得ルガ故ニ誤リテ遠方ノ山ヲ近所ノ山ノ  
 如ク思フナルベシ、以下種々ノ例ヲ擧ケテ之ヲ説明セシ、例ヘバ大ナル鏡ノ前ニ立

テ其ノ鏡ノアルコトヲ知ルトキハ遙カニ見ユル物體ハ反射ニヨリテ斯ク見ユル  
 ヲ知ル、然リト雖モ若シ鏡ノ存在スルヲ知ラザルトキハ即チ判断ヲ誤リテ向フニ  
 物體ノ存在スル如ク想像スルコトアルナリ、又光線ノ屈曲ニヨリテ我等ノ判断ヲ  
 誤ルコトアリ、プリズムヲ通過シテ物ヲ見ルトキハ物ノ位置ヲ大ニ誤ルコトアル  
 ナリ、又第十二圖ノ如キハ(ホ)(ヘリ)(ヌ)ハ直線ナレドモ(ホ)(ヘト)(チ)ガ直線ノ如ク見ユル  
 ナリ、之ヲ精密ニ質ストキハ判断ノ誤リヨリ來ルヲ知ル可シ、眼ガ物ヲ見ルニハ同

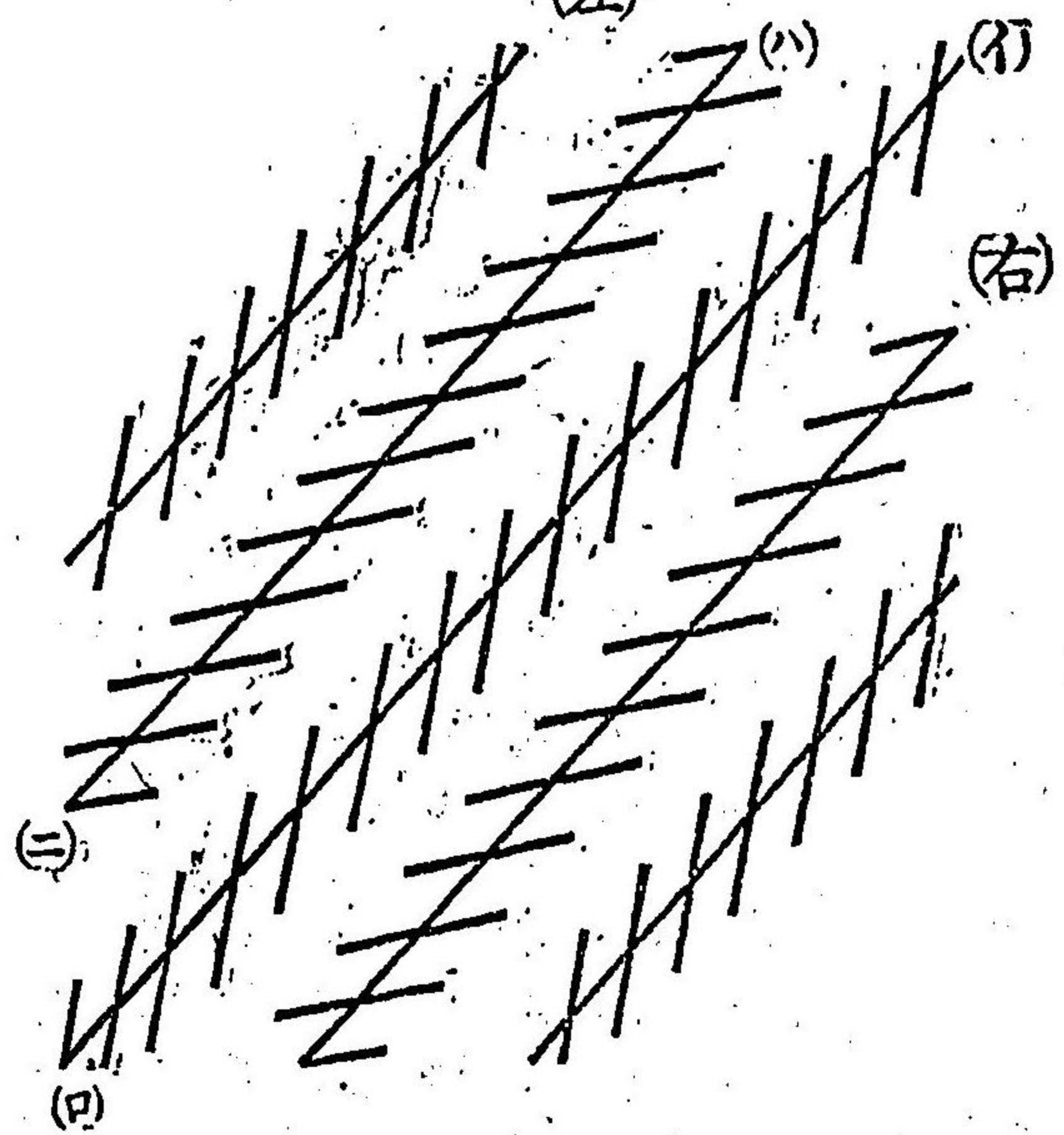


主観的觀念

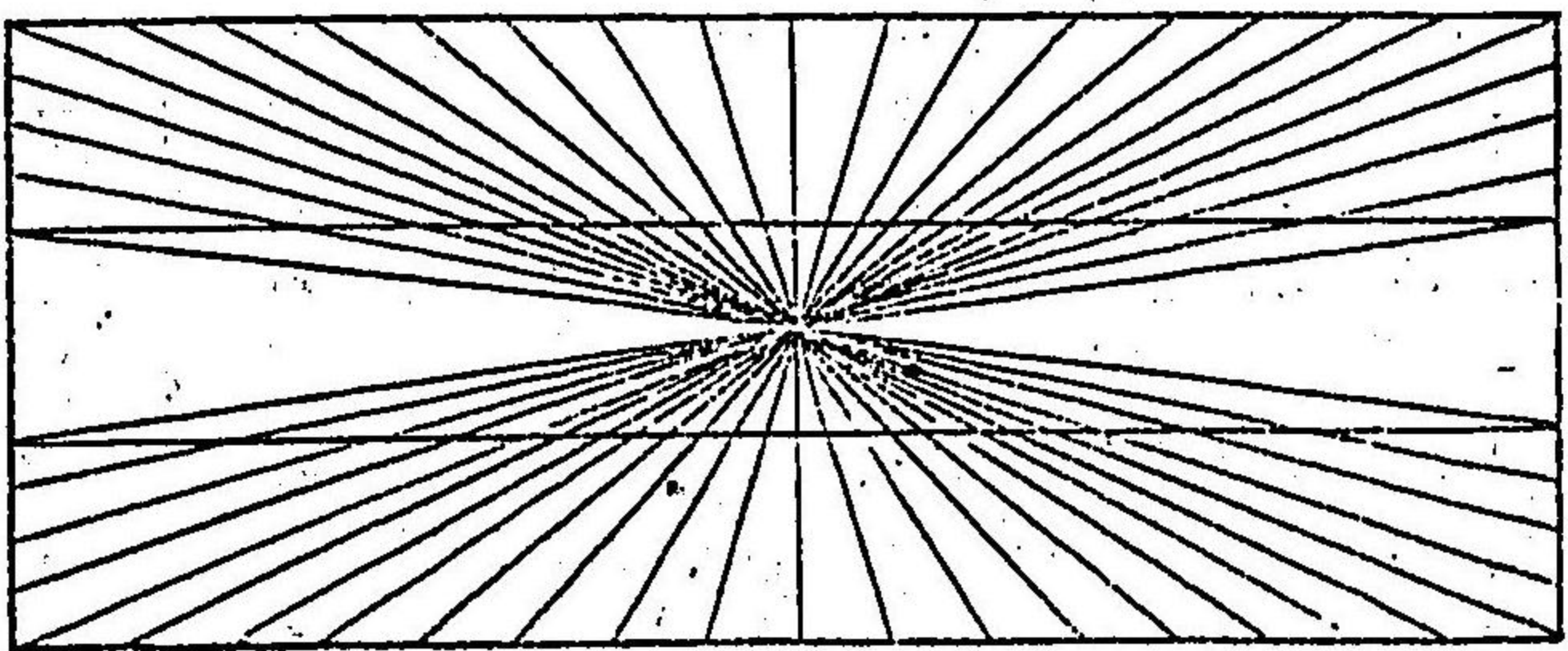
附録

時ニ廣キ面ヲ見ズ絶ヘズ諸方ニ運動シテ始メテ物ヲ認識スルコトハ既ニ論シタルガ如シ故ニ今此圖ヲ認識スルニハ眼ハ絶ヘズ此等ノ線ニ添フテ動クモノナリ、而シテ(ホ)ノ線ト(リ)ノ線ヲ繋グニハ眼ハ(ヘ)ヨリ(リ)迄飛ビ越ササルヲ得ズ、然ルニ(イ)ノ線ハ之ヲ妨ケテ(ヘ)ヨリ(リ)ニ飛バントスルトキニ(ロ)ノ線ニ添フテ少ク眼ヲ引キ下ケントスルガ故ニ之ニ抵抗シ矢ニヨリテ示シタル如キ方向ニ眼ヲ動かカスノ筋力働カザルベカラズ、故ニ眼ハ(ヘ)ヨリ(リ)ニ至ラズシテ(ト)ニ至ルナリ、去レド此運動我等ノ意識外ニ存スルガ故ニ其ノ感覺ニ於テハ(ホ)ノ直線ニ添フテ直チニ飛ビタリト思ヒ(ホ)ノ(チ)ヲ以テ直線ト見做ガ如キ誤リタル感覺ヲ生ズルモノナリ、第十二圖附録モ亦同理ナリ、又第十三圖モ之ト相似タタル理ニシテ斜メナル直線ハ各並行セサル如キ誤リタル感覺ヲ生ゼシムルモノナリ、其ノ故ハ此並行線ヲ認識セントスルニハ眼ハ絶ヘズ線ニ添フテ動クモノナリ、然ルニ今(イ)ノ線ニ添フテ眼ガ(イ)ヨリ(ロ)ノ方ニ動クトキニ其レヲ横切リタル斜線ノ爲メニ眼ハ常ニ知ラズ識ラズ妨ケテ受クルコト恰モ道ヲ横切リテ斜メナル多クノ棒ヲ置キ其ノ上ニ車ヲ挽クガ如シ、常ニ右ノ方ニ引キ去ラントスルノ傾キアルガ故ニ直線

第十圖

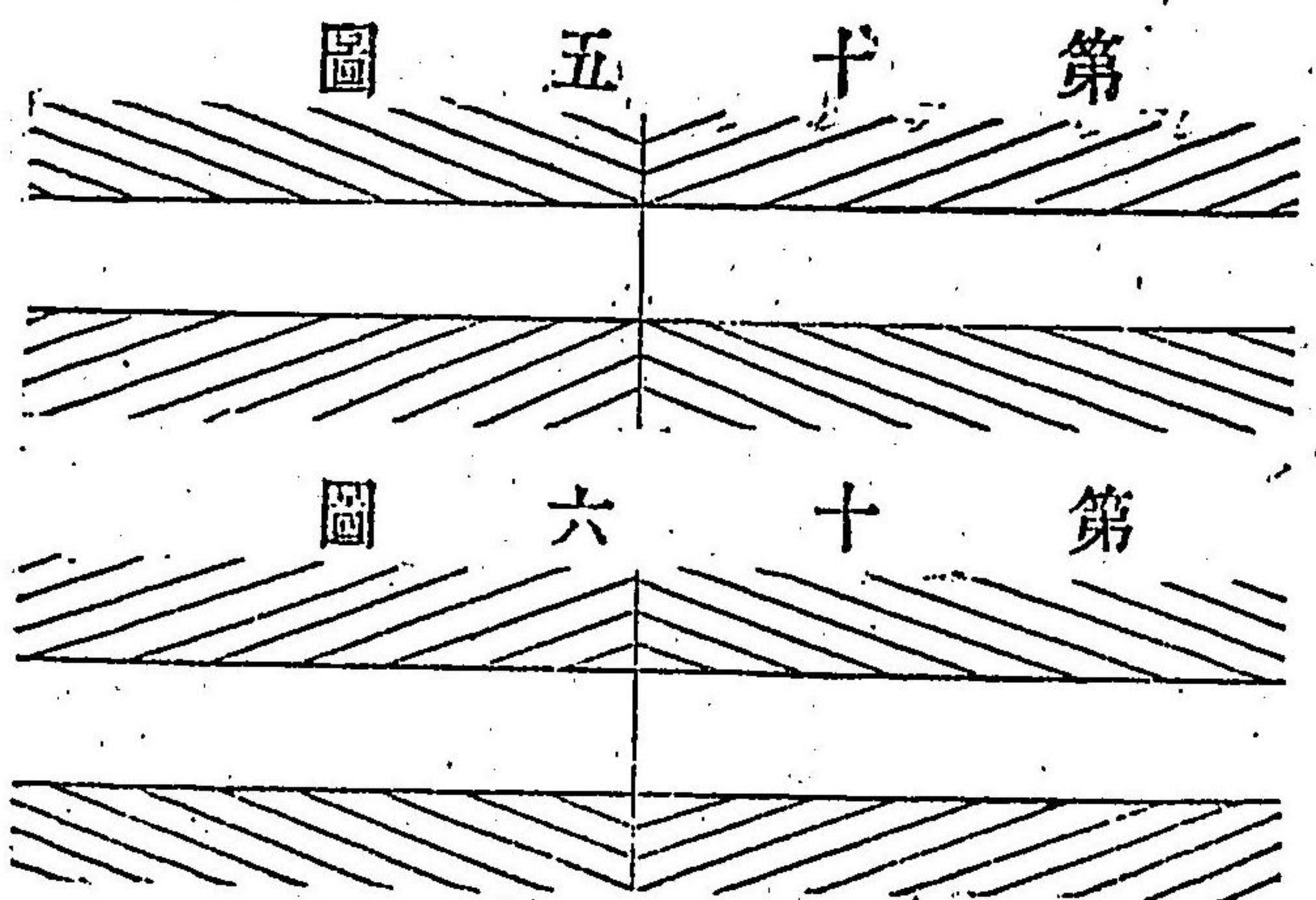


第十圖



ニ動かントスルニハ少シク左ノ方ニ傾クノ力ナカルベカラズ、故ニ眼球ヲ運動サスル筋肉ノ作用ニヨリ少シク眼ヲ左ノ方ニ引キ付クルノ傾アルガ爲メニ(イ)ノ線ハ(ロ)ノ端ガ少シク左ノ

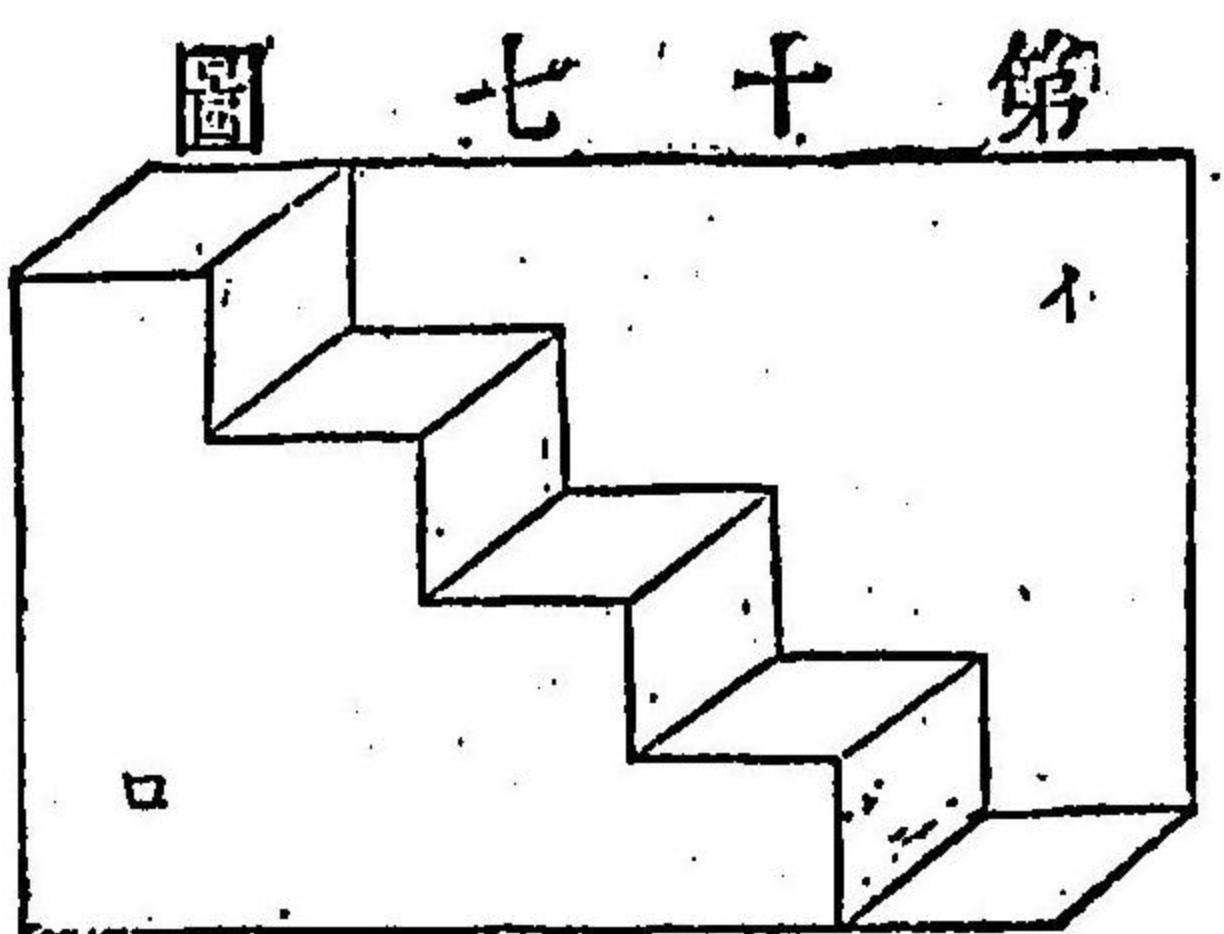
主観的観念



方ニ傾キタルノ感覺ヲ生ズルナリ、是レ感覺結合ノ章ニ於テ既ニ論シタル如ク筋肉ノ感覺ト網膜ノ感覺トノ結合ニヨリテ生シタルモノナリ、而シテ眼ガ(ハ)ニ線ニ添フテ動クトキハ斜線ガ(イ)(ロ)ト其ノ位置ヲ反對ニスルガ故ニ(ハ)ニハ右ノ方ニ傾キタル如キ感覺ヲ生ズ、斯ノ如クシテ全體ノ圖ガ誤リタル感覺ヲ惹キ起スモノナリ、第十四、十五及ヒ十六圖モ同ヲ理ユテ起リタル誤リナリ、別ニ説明ヲ要セズト信ズ、へるむほるのハ試ミニ電氣ヲ以テ一瞬間之間之ヲ照シテ認識シ、眼ノ運動スル時間ヲ除去セシニ是等ノ誤リモ亦消滅シタリト云フ、是ヲ以テ之ヲ觀レバ是等ハ皆眼ノ運動ヨリ來リタル誤リナルコトヲ知ルベキナリ、判斷ノ誤リニヨリテ幻影ヲ生ズルコト大畧此ノ如シ、

複雑ナル幻影——是等二種ノ幻影相合シテ第三種ノ幻影ヲ生ズルコトアルナリ、即チ誤リタル判斷ト主観的の心像ト合シテ外界ニ現ハル、コト是レナリ、例ヘバ

第十七圖ノ如キハ奇ナリト云フ可シ之ヲ久シク見詰メルトキハ(イ)ノ處高クシテ



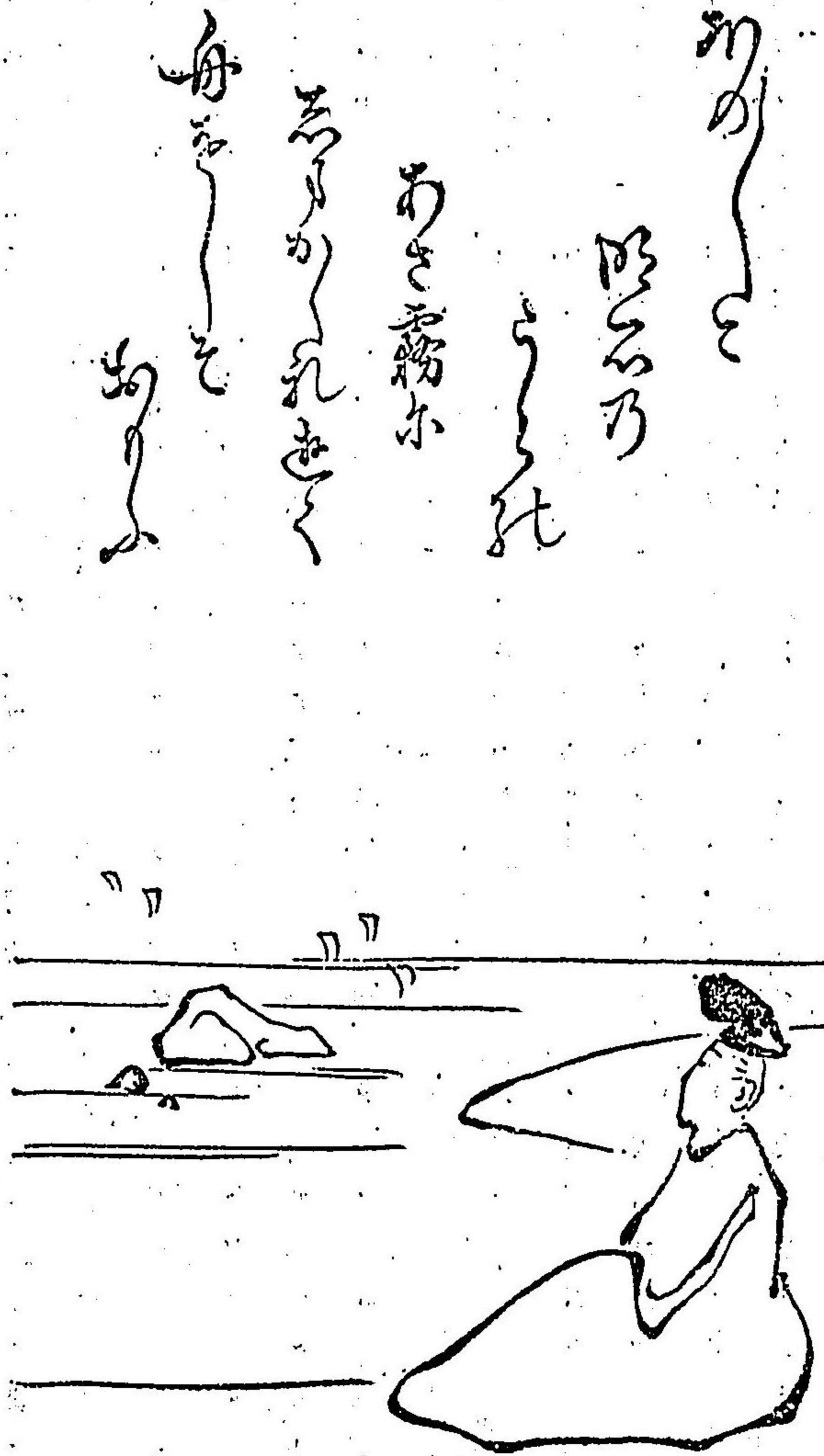
(ロ)ノ處低ク見ユルコトアリ、又之ニ反シテ(ロ)ノ處高クシテ(イ)ノ處低ク見ユルコトアリ、又其ノ人ノ思ヒニヨリテ自由ニ之ヲ變スルコトヲ得ルナリ、又大岡氏ノ裁判ニ奇談アリ、曾テ人殺シノ件起リシガ罪人強情ニシテ白狀セザルヨリ、大岡氏ハ手ヲ廻ハシテ事實ヲ調べタルニ其ノ人ノ仕業ナルコトハ儘カニ分リタリ、唯、當人ノ白狀セザルヨリ一策ヲ設ケテ之ヲ欺キ其ノ目ヲ眩マシ彼ノ殺サレタリト云フ所ノ人ハ其ノ實殺サレタルニアラズ、尙ホ生存スルナリト云ヒテ他ノ人ヲ其ノ前ニ連レ來レリ、

「品川宿の馬士其方ハ去年十七屋の飛脚を乗せ鈴ヶ森に於て切られし所汝は運好くも命助かりしが其時の盗人は爰に居る段右衛門と云ふ者ならん……馬

士はヘイ御意に御座ります……成程此者に相違は御在りません云々罪人ハ固ヨリ心中ニ恐レアルガ故ニ全ク欺カレテ曰ク然らば其時の馬士めて有たか扱々運の強き奴かな頭から梨割にして其上に後日の爲めと思ひ留め迄刺たるに助かるど云ふは汝は餘程高運な者なり云々(大岡政談 四郎政談 又詩人カ想像ニ依テ故意ニ幻影ヲ造ルコトアリ、誰謂水無心、濃艶臨兮波變色、誰謂花不語、輕漾激兮影動唇云々(菅原文時)固ヨリ水ニハ心ナシ、花ハ語ラズ、唯、天然ノ實ニ情アルニ似タル有様ヲ形容シタルモノナレバ一種ノ幻影ト云フモ亦不可ナカルベシ、

繪畫ハ其ノ種類甚ダ多シト雖モ我邦ノ墨繪ト云ヒ文人畫ト云ヘルモノハ東洋ニ固有ノモノナルガ如シ、美術ノ點ヨリ之ヲ評論スルコトハ後章ニ譲リ今少シク幻影ノ一種トシテ説明セントス、抑モ墨繪ハ油繪ニ比スレバ甚ダ粗糲ナリト雖モ些少ノ線ヲ以テ實物ノ形像ヲ畫クコト又妙ナリト云フ可シ、既ニ論シタル如ク腦中ニハ前ニ經驗シテ得タル多クノ心像ヲ有セリ、之ヲ以テ外物ノ刺激アリテ腦中ノ心像ヲ惹キ起ストキハ内部ノ心像ト外部ノ刺激者ト相合シテ實物ノ形像ヲ造ルモノナレバ墨繪ヲ其ノ儘ニ見ルトキハ甚ダ不完全ナンドモ其ノ不足ナル所ハ

第十八圖



主観的觀念

主觀的ノ心像ヲ以テ之ヲ補フモノナリ、故ニ其ノ繪畫ハ寫真或ハ油畫ノ如ク緻密ナルニ非ズ、實ニ過半ハ主觀的ノ補助ナリ、彼ノ西洋人ガ日本ノ墨繪ヲ見テ其ノ快ヲ得ザルハ全ク腦中之ニ應スルノ心像ナキニ依ラズ、音ニ西洋人ノミナラズ、日本人ト雖モ屢、其ノ真意ノ存スル所ヲ了解シ得ザルコトアルナリ、爰ニ一奇談アリ、一日一休和尚ノ證辭ヲ乞ハントテ秘藏セル一畫ヲ持チ來レルモノアリ、其ノ繪畫タルヤ唯、水中ニ一黒點アルノミニシテ何ノ形像ナルヤ誰モ解キ明ス能ハズ、一休直チニ筆ヲ取り、水中ニ一物アリ、其何ナルヲ問フニ書キ手モ知ラズ、持主モ知ラズ、讀スル我ハ尙ホ知ラズト記セリト云フ、是レ極端ナル一例ナリ、是ヲ以テ之ヲ觀レバ油繪トハ大ニ異ナリ、墨繪ノ妙且ツ快ナルノ要素ハ主觀的ニシテ同伴法ニヨリテ惹キ起サレタル心像ニ存スルコト明カナリ、第十八圖ハ北齋ノ一筆畫譜中ヨリ取りタルモノナリ、見ヨ其ノ形不完全ニシテ殆ント解シ難シト雖モ讀者若シ上ニ記セル歌ト其ノ繪ヲ相合シテ考慮セバ必ズヤ一ノ觀念ヲ腦中ニ生ズルコトナラン、此ノ畫ハ果シテ何ヲ畫キタルモノナルヤハ讀者ノ判斷ニ任スベシ、一般ニ墨繪ノ主觀的性質斯ノ如キモノナリ、是レ心像ノ外物ト相合シテ客觀的ニ現

ハレタルモノナレバ一種ノ幻影ト云フモ不可ナキナリ、

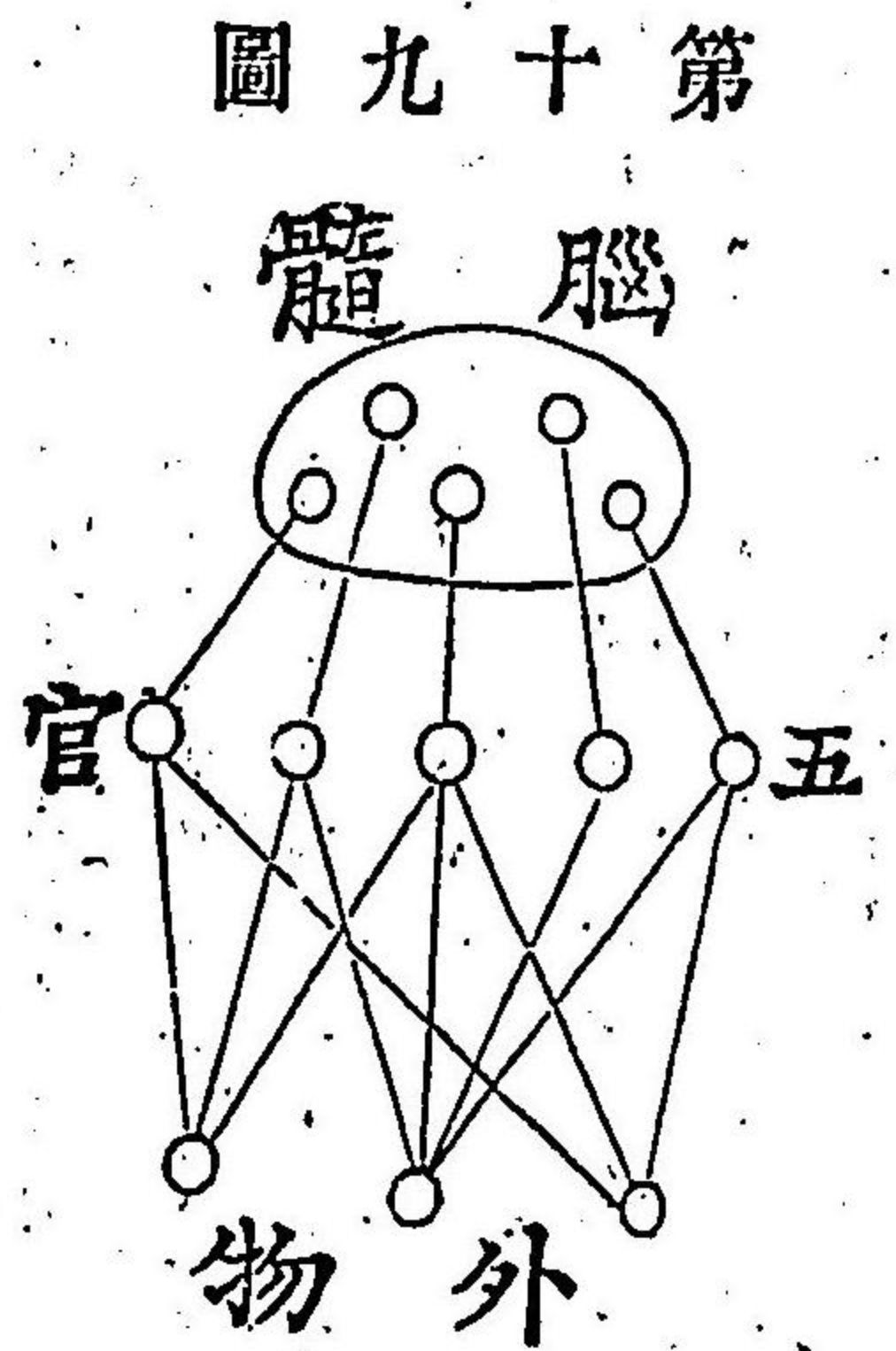
### 第六章 概念

既ニ前章ニ於テ概念ノ大畧ヲ論ゼリ、尙ホ其ノ詳細ヲ論ゼントスルハ此章ノ目的ナリ、

外物五官及ヒ感覺——今爰ニ一物アリ目ヲ以テ之ヲ見レバ黒シ、手ヲ以テ之ニ觸ルレバ堅シ、之ヲ叩ケバ音ヲ生シ、之ニ固有ノ香アリ、又味アリ、今假リニ之ヲ主觀的ニ考フルトキハ黒色、感覺、堅キコトノ感覺、音ノ感覺、香ノ感覺、味ノ感覺、腦中ニ存スルナリ、此等ハ複雜ナルモノナリ、然ルニ一方ヨリ考フルトキハ是等複雜ナル感覺ハ一物ヨリ來ルモノナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ同一物ナリト雖モ種々ナル外官ヲ刺激シ其ノ外官ハ斯ノ如ク複雜ナル感覺ヲ生ゼシムルナリ、今又注意ヲ内ニ轉シテ彼ノ複雜ナル觀念中ノ一、即チ堅キコトノ感覺ニ就テ考フルニ堅キコトハ種々ナル物體ニ普通ノモノナリ、石、金、木等ノ如シ左レバ一物ニシテ複雜ナル感覺ヲ

生ヲ能フコトアリ、又一ツノ觀念ガ多クノ物質ニ通スルコトアリ、換言スレバ同一  
物ガ異種ノ感覺ヲ惹キ起シ、又異種ノ物跡ガ同一ナル感覺ヲ惹キ起スコトアルナ  
リ、

然リ而シテ前ニ論ゼシ如ク内界ト云ヒ外界ト云フハ唯、相關的ノ語ナルニ過キ  
ズト雖モ空間ニ存在スル物跡ヲ外界ト名ケ我等ノ意識中存スル現象ヲ内界ト名  
クル時ハ外界ト内界トハ第十九圖ノ如キ關係ヲ有スルモノナリ、而シテ兩者ノ關  
係ヲ尙ホ詳論センニ時間的性質ヨリ論ズルトキハ外界ハ先キニ存在シテ觀念ハ



後ニ現出シタルコト明カナリト雖モ其ノ心理  
的性質ヲ究メザルベカラズ、例ヘバ外物ガ五官  
ヲ刺激シテ感覺ヲ生シ之ニ因テ我等ノ觀念ヲ  
生シ始メテ觀念ノ活動ヲ現ハスモノナリ、然リ  
ト雖モ斯クシテ觀念ノ活動スル前ニ存在スル  
世界ハ我等ノ精神ニ對シテハ全ク虛無ニ等シ、  
何トナレバ假令世界アリトモ我等之ヲ認識ス

ル能ハザルガ故ニ其ノ世界ハ我等ト全ク關係ナキモノナレバナリ、左レバ我等ガ  
世界ト稱スル世界ハ觀念ノ活動ニヨリテ認識シ得ル世界ニシテ觀念活動ノ後ナ  
ラデハ存在スルモノニアラズ、例ヘバ目ヲ以テ物ヲ見ルトキニ物ノ影像ガ網膜ニ  
映リ眼ハ其ノ影像ヲノミ認識スルモノナレバ目ノ爲メニハ此影像ノ外ニ外物ノ  
存在スルコトニハ殆ンド無關係ナルガ如シ、唯、彼ノ網膜上ノ影像ハ目ニ關シテ實  
在物トナル、斯ノ如ク外物アリテ我等ノ感覺ヲ生シテ精神ノ働キニヨリテ外物  
ノ存在ヲ認識スル者ナレバ精神ニ對シテハ内部ノ感覺及知覺ガ實在トナルナリ、  
砂糖ハ人ノ口ヲ放シテ何處ニ甘キコト存在スルヲ得ルヤ、樂器ハ人ノ耳ヲ放シテ  
何處ニ調音ノ存在スルコトヲ得ルヤ、人ノ目ヲ放シテ何處ニ色ノ存在スルコトヲ  
得ルヤ、是等ハ人ノ感覺アリテ始メテ存在スルモノナレバ或ハ之ヲ精神現象ト云  
ハシ乎、將又物理的現象ト云ハシ乎、孰レニ定メテ可ナルヤニ苦シムモノナリ、或ル  
心理學者ハ感覺ヲ別テ二種トス、其ノ一ハ精神ニ相對シテ存在スルモノニシテ其  
ノ二ハ物體ノ重量、堅質、廣袤等ノ如ク精神ノ存在ニ關セズ獨立ニ物跡ニ屬スルモ  
ノナリ、著者モ亦是ノ說ヲ可トスルモノナリト雖モ前ニ論シタル如ク彼ノ視覺ノ

比喩ノ如ク目ヨリ獨立シテ外物存在スト雖モ視覺ニ關シテハ網膜上ニ映リタル  
 影像ヲ除キテ外ニ實物アルコトナシ、彼ノ物跡ノ重量、堅質、廣袤等ノ物質ニ關スル  
 性質モ亦人ノ精神ノ有無ニ關セズ獨立ニ存在スルモノナリト雖モ人ノ智識ニ關  
 シテ論スルトキハ觀念ヲ離レテ存在スル實物ハ唯、無用物ナルノミ、故ニ此點ヨリ  
 外物ヲ考フルトキハ唯心論者ノ云ヘル如ク外物ハ觀念ノ現出ニシテ物體ノ性質  
 ハ其ノ觀念ニ屬シタルモノニ過キズ、故ニ精神ヲ主觀的觀念ト云ヒ、外物ヲ客觀的  
 觀念ト云フ、例ヘバ砂糖ハ一ノ觀念ナリ之ヲ小分スレバ甘味、白色、重量、廣袤等ノ觀  
 念トナルモノナリ、水ハ冷冽、無色、重量、廣袤等ノ觀念集合シタルモノナリ、外物ハ凡  
 テ斯ノ如ク多クノ觀念ノ結合シテ一ツノ觀念トナリタルモノナレバ又想像ノ上  
 ニ於テ此等ノ物跡ヲシテ其ノ元ナル單一ノ觀念ニ分解スルコトヲモ得ルコトナル  
 ベシ、而シテ種々ナル物質ヲ箇様ニ分解スルトセシカ、斯クシテ得タル單一ナル觀  
 念ハ其ノ類ヲヨリテ之ヲ分類シ得ルモノナリ、例ヘバ砂糖ニモ白キコトノ性質ア  
 リ紙ニモ白キコトノ性質アリ、雪ニモ白キコトノ性質アリ、是等ハ異ナリタル物  
 跡ニ屬スルモノナリト雖モ同一ノ觀念ナルガ故ニ凡テ皆白ト云フ一言ニ含有セ

ラレテ一種ノ觀念トナルナリ、又水ハ流ル、ノ性アリ、水銀ニモ亦流ル、ノ性アリ、  
 亞兒呀爾ニモ亦流ル、ノ性アリ、故ニ是等ハ皆流動性ナル一種ノ觀念トナルナリ、  
 個様ニシテ觀念ヲ分類スルハ恰モ化學家ガ物質ヲ分析シテ之ヲ元素トナシ而シ  
 テ其ノ元素ヲ分類シテ万物ヲ六十餘ノ元素トナスガ如ク心理學者ハ物跡觀念ヲ  
 其ノ單一ナル觀念ニ分解シテ其ノ數多キ觀念ヲ分類スルナリ、箇様ニ分類シテ異  
 類ヲ分チ同類ヲ集ム、而シテ後者ヲ概念ト云フ、

概念ノ外延及ヒ内包——概念ノ性質ハ既ニ述ヘタルガ如キモノニシテ多クノ  
 物跡ニ普通ナル觀念ヲ其ノ物質ヨリ抽テ共ニ集メタルモノナリ、而シテ其ノ概念  
 ニ種々アリ即チ物跡ニ普通ナルモノアリ、又サマデ普通ナラザルモノアリ、例ヘハ  
 物ノ廣柔ナル概念ノ如キハ外界ニ存在スル萬物ニ普通ノモノナリ、然レドモ堅質  
 透明ノ如キ概念ハ或ル少數ノモノニノミ限ルモノナリ、而シテ此等ノ概念ノ中ニ  
 最モ單一ナルモノアリ、或ハ又稍、複雜ナルモノアルナリ、而シテ單一ナル概念ハ其  
 ノ範圍廣クシテ複雜ナルモノハ其ノ複雜ナルコトノ度、増加スルニ從ヒテ範圍ハ  
 狭クナルナリ、例ヘバ廣袤ナル概念ハ單一ニシテ万物ヲ含有ス、故ニ範圍廣シ、然レ



トモ物体ナル觀念ハ前ニ比スレバ稍複雑ニシテ其ノ中ニハ廣袤重量等ノ觀念ヲ含有ス、而シテ其ノ範圍少シク狭キガ如シ、又固形物ナル觀念ハ其ノ中ニ廣袤ト重量ト堅質ノ觀念ヲ含有スルガ如シ故ニ物体ナル觀念ヨリモ尙ホ繁雜ナルト同時ニ其ノ範圍モ亦太ダ狭クナルナリ、斯ノ如クシテ觀念ノ上ニ概念ヲ積ミ重ヌルニ從ヒ概念ハ尙ホ複雑トナリテ其ノ範圍漸々狭クナリ其ノ上猶ホ概念ヲ重ヌル時ハ概念ヲシテ複雑ナラシメ其ノ範圍ヲ狭ムルノ極端ニ達シ即チ一個ノ物体トナル、爰ニ於テ概念ハ最早概念ニ非ズ一物ニ對スル觀念ニ過ギザルノミ、爰ニ注意スベキ二點アリ、即チ概念ノ範圍及ビ概念ノ複雑ナルコトノ度是レナリ、論理學者ハ前者ヲ外延ト名ツケ後者ヲ内包ト名ツク、而シテ外延ノ大小ハ内包ノ大小ト互ニ轉比例ノ關係ヲ有スルモノナリ、抑モ客観的ニ存在スル事業ハ凡テ一個々々ノ物體ニシテ是ニ對スル觀念ハ概念ニ非ス、其ノ物體ヲ有リノ儘ニ認識スルハ知覺ナリ、之ヲ分析シテ種々ノ單一ナル觀念ヲ分類シ主観的ニ得タルモノヲ概念ト云フコトナレバ概念ハ主観的現象ナリ、

概念ノ發達——知覺ト概念トハ孰レガ先ニ存在スルヤ、素ヨリ最初ニ知覺アリ

テ之ヲ分析シテ概念ヲ得ルハ時間的ノ順序ナリト雖モ又一方ヨリ云ハバ概念アリテ他ノ事實ヲ認識シ知覺ヲ得ルノ助ケトナシ事實ヲ認識スルコト多クシテ隨テ又概念其ノ範圍ヲ廣クシ尙ホ他ノ事實ヲ發見スルコトヲ助ケ、例ヘバ我等日々ニ種々様々ナル草木ヲ見ルト雖モ植物學ヲ研究セサルトキハ之ニ格段ノ注意ヲ用フルコトナキガ故ニ見逃スモノ甚タ多シ、然レトモ一度植物學ヲ研究シ種々ナル草木ノ性質ヲ分析シ之ヲ分類シテ草木ニ種々ナル名稱ヲ與フルトキハ種々ナル概念ヲ形造ルナリ、故ニ其ノ後ニ草木ヲ見ルトキハ前ニ目ニ觸レテ之ヲ認識セザリシモノ迄モ今ハ凡テ之ヲ認識シ或ハ此草木ヲ此分類ノ中ニ入レ、彼ノ草木ヲ彼ノ分類中ニ入レ、斯ノ如クシテ種々ナル草木ヲ觀察シ、或ハ前ニ人ノ知ラザリシ草木迄モ發見スルニ至ルコトナラン、斯クテ一ノ新シキ草木ヲ發見シテ之ヲ何々ナル分類中ニ入ル、トキハ其ノ分類ノ範圍ヲソレ丈ク廣メタル譯ナリ、而シテ他ノ草木ヲ發見スルノ手段トナルナリ、動物學ニ於テモ亦同シ、其ノ他凡テ何ノ學問ニ於テモ論スル所ノ事實ヲ知ルコト多クシテ從テ其ノ概念廣クシテ且明瞭ナリ、概念廣クシテ明瞭ナレバ又從ヒテ他ノ事實ヲ尙ホ容易ニ認識スルコトヲ得ルナリ、

リ故ニ概念廣クナレバ事實ヲ認識スルコト易ク認識シタル事實多クレバ概念從ヒテ明カナルナリ故ニ概念ノ發達ハ智識ノ發達ト共ニ相助ケ合フモノナリ例ハ  
 人ト云フ概念ハ小兒ノ心ニ存スルモノト世界ヲ旅行シタル學者ノ心ニ存シタルモノトハ大ニ相違アルモノナリ小兒ノ心ニ存スル人ト云フ概念ハ自己ノ兩親兄弟僕婢朋友等僅カ自己ニ直接ニ關係スルモノミテ材料トシテ造リ得タル概念ナリ故ニ單一ニシテ狹シ然ルニ世界ヲ旅行シタル學者ハ種々様々ナル人間ニ出逢ヒ其ノ性質ヲ研究シテ得タル智識ヲ材料トシテ形造リタルモノナレバ其ノ概念廣クシテ且ツ複雑ナリ尙ホ精密ニ之ヲ論スルトキハ概念ノ範圍尙々擴ガリテハレザルヲ得ズ一方ニ於テハ人間ノ經驗ノ進ムト共ニ概念ノ範圍尙々擴ガリテ世界ヲ旅行シタル學者ノ如キハ人ナル概念ノ中ニ含有スルモノ甚ダ多キナリ是レ概念ノ外延的發達ナリ他ノ一方ニハ人ナル概念尙々其ノ意味ニ於テ繁雜トナリ小兒ノ心ニ於テ思フ所ノ人ニ比スレバ學者ノ考フル所ノ人ナル概念ハ其ノ意味深キコト明カナリ是レ概念ノ内包的發達ナリ

(注意)前ニ外延ト内包ト其ノ大小互ニ轉比例ナリト云ヘリ然レドモ是ハ發達ノ

度同シキトキニ行ハル、事ニシテ此所ニ論スルハ兩者共ニ發達ノ順序ヲ云フモノナレバ前ノ規則ヲ應用スル能ハズ故ニ前ニ論スル所ト矛盾スル如キノ觀アルモ其ノ實決シテ然ラザルナリ

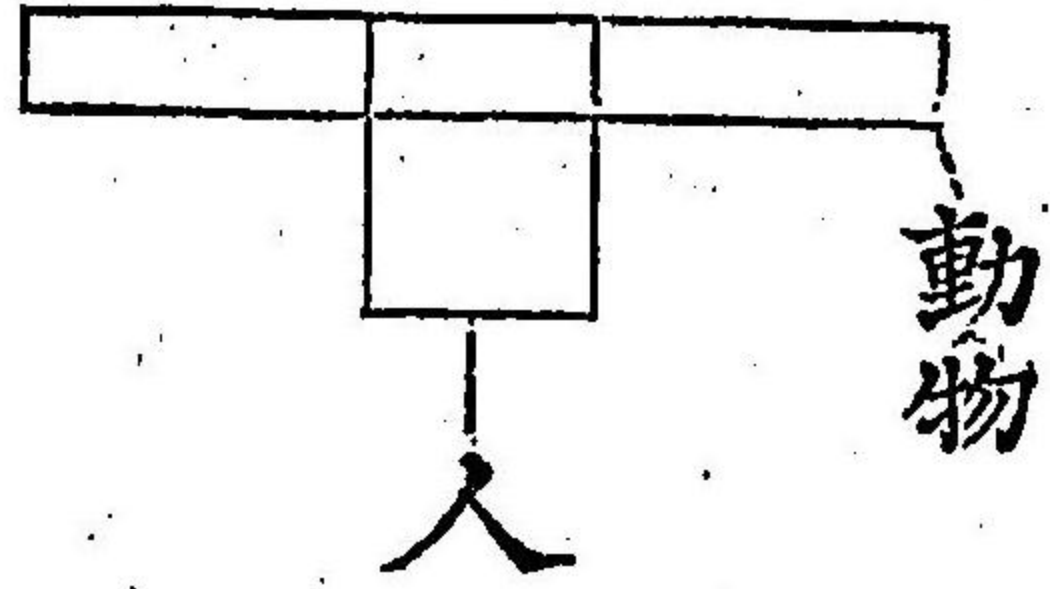
判斷ノ種類——然リ而シテ概念或ハ事實ヲ比較シテ其ノ間ノ關係ヲ定ムルヲ物ノ判斷ト云フ而シテ判斷ヲ言語ニ言ヒ現ハシタルモノ之ヲ命題ト云フ判斷ニ種々アリ合式的約結的離接的是レナリ左ニ一々之ヲ説明セントス抑モ判斷ヲナスニ注意スベキ三點アリ主位賓位連辭是レナリ先キニ述ベタル判斷ニ三ツノ異形アルハ連辭ノ性質ニ依テ起ルモノナルハ漸次説明スル所ニ由テ明カナルモノナリ

合式的命題——合式的命題ニ於テハ此連辭ハ「……………」デアアル社會ハ有機物デアアル或ハ「……………」ナリ人ハ精神的ノ動物ナリ或ハ「……………」ニ非ズ馬ハ犬ニ非ズ等ノ語ナリ而シテ主位ト賓位ノ性質ニ至テ尙説明スベキモノアリ物ヲ判斷スルニハ主位ト賓位ノ關係ヲ定ムルニアリ而シテ主位モ賓位モ各獨立ノ概念ナリ即チ連辭ヲ以テ之ヲ結合セシムルモノナリ之ヲ結合セシムル所以ノモノハ果シテ

何處ニアルヤ、爰ニ於テ哲學者種々ノ派ニ分ル、實驗派ノ説ニヨレバ是レ經驗ノ然ラシムル所ナリト云ヒ、先天派ノ説ニヨレバ心意ノ然ラシムル所ナリト云フ、其ノ孰レカ是孰レカ非ナルヲ爰ニ論スル能ハズ、唯、僅カニ一二ノ例ヲ擧ゲテ判斷ノ働キヲ分解シ其ノ性質ヲ明カニセンコトヲ欲スルノミ、通例論理學者ノ論ズル所ニヨレバ主位ト賓位ノ關係ハ物ノ全體ト部分ノ關係ノ如クニ論シ、輪ヲ以テ兩者ヲ現ハシ兩者互ノ大サヲ比較スルニ過ギサルガ如クニ論ズルモノナリ、(坪井九馬三義一七五頁乃至一七九頁ヲ看ヨ)例ヘバ人ハ動物ナリト云フ合式的命題ヲ取リテ之ヲ分解セシメ論理學者ノ現ハス所ヲ以テスレバ動物ナル概念ヲ大輪ニテ現ハシ人ナル概念ヲ小輪ニテ現ハシ前者ヲ後者ノ範圍中ニ畫キテ以テ主位ト賓位ノ關係ヲ現ハスナリ、之レおいらノ時ニ始マリ後チせぼん等モ之ヲ採用シ我國ノ譯ニモ見當ル所ナリ、然レドモ心理學上ヨリ考フルトキハ是レ適當シタル者ニ非ズ、若シ人ノ觀念ヲシテ薄キコト紙ノ如キモノナラシメバおいらノ發明實ニ大ナリト云フ可シ、然リト雖モ己ニ論シタル如ク人ノ觀念ニハ外延及ヒ内包アリ、或ハ之ヲ稱シテ觀念ノ廣サ及ヒ觀念ノ深サト云フ、此兩者ノ關係ハ轉比例ナルコトモ論シタル所ナ

リ、果シテ然ラハ輪ヲ以テ之ヲ現ハスハ一方ニ於テハ視覺ニ訴ヘテ觀念ノ關係ヲ現ハスニ大ナル便利アルニモ拘ハラズ人々ニ誤想ヲ懷カシムルノ憂ナキ能ハサルナリ、而シテ復前例ヲ採用セシメ人ナル觀念ハ動物ナル觀念ヨリモ其ノ範圍狭シト雖モ其ノ深サハ却テ大ナリ、即チ主位ハ常ニ範圍狭クシテ深シ、而シテ賓位ハ主位ヨリモ範圍廣クシテ淺シ之ヲ主位ト賓位ト不變ノ關係ナリトス、故ニ範圍ヨリ之ヲ論スルトキハ主位ハ賓位ノ中ニ合マル、ト雖モ深サヨリ之ヲ論スルトキハ賓位ハ主位ノ中ニ合マルザルヲ得ズ、即チ人ナル觀念ハ動物ナル觀念ノ中ニ含有サル、ト雖モ其ノ深サニ於テハ動物ナル觀念ハ人ナル觀念ノ中ニ含有サレザルヲ得ズ、兩者ノ數理上ノ關係斯ノ如シ、然レドモ連辭ノナス所必ズ數理ノ關係ヲ言ヒ現ハスニ非ズ、唯、主位タル所ノ觀念ト賓位タル觀念ガ同一物ニ附屬スルコトヲ指示スルモノナリ、故ニ前ノ例ヲ以テスレバ人ナル觀念ト動物ナル觀念トハ人間ナル同一物ニ屬スルガ故ニ、人ハ動物ナリト云フ命題ヲ生ズルモノナリ、故ニ二ツノ輪ヲ以テ之ヲ現ハスコトノ代リニ第二十圖ノ如キ圖ヲ以テ現ハスハ適當ナラント信ズ、爰ニ於テ縦線ハ觀念ノ深サヲ現ハシ横線ハ其ノ範圍ヲ現ハスモノナレ

圖 十 二 第



ハ連辭ノ役ハ其ノ二者ガ同一ナルコトヲ現ハスモノ  
ニシテ第二十圖ヲ以テ見レバ人ナル觀念ト動物ナル  
觀念ト相重ナリ合フコトヲ示スモノナリ、合式的命題  
ノ性質大凡斯ノ如シ

約結的命題——約結的命題ニ於テハ少シク前ト異  
ナリ、先キニハ主位ト賓位ノ關係ヲ連辭ニヨリテ結合  
セシメタルモノナリト雖モ約結的命題ニ於テハ二ツ  
ノ命題アリテ一ノ命題ト他ノ命題トノ關係ヲ示スモ  
ノナリ、故ニ「明日雨が降ルナラバ木ノ芽が出ツルナラ  
ズ」ト云フ命題ニ就テ論スルニ此ニ二ツノ命題存スルナリ、即チ「明日雨が降ル」ト云  
フコト、「木ノ芽が出ル」ト云フコトナリ、而シテ「木ノ芽が出ル」ト云フコトノ有無ハ  
「明日雨が降ル」ト云フコトノ有無ニ關係スルモノナリ、爰ニ於テ連辭トナルモノハ「フ  
ルナラバ」……イゾルナラント云フコトニテ即チ此命題ハ互ニ原因結果ノ關係  
ヲ現ハスモノナリ、

あづさ弓あして春雨けふふりぬ

明日さへふらばわかなつみてむ(古今集、歌)

(斯ノ如キ例ハ已ニ同伴ノ中ニ數多クレバ爰ニ零ス)此命題ノ定ムル所ハ原因結果  
ノ關係ガ外界ニ實在スルトキニシテ其ノ功力ヲ有スルモノニシテ若シ一度誤リ  
テ其ノ實在ノ有無ヲ忘レ唯、主観的ノ臆斷ヲ以テ此命題ヲ用フルトキハ過チニ陷  
ルコト屢是レアルナリ、故ニ斯ノ如キ命題ハ已ニ發見シタル事實ヲ陳述スルノミ  
ニ用ヒテ可ナリト雖モ已ニ知リタル事實ヲ以テ未ダ知ラザル事ニ論及スルガ  
如キ場合ニ用井ルトキハ甚タ危險ノ憂ナキ能ハズ、是レ昔ヨリ哲學者ノナシタル  
誤リニテ今日ニ至ル迄世人ヨリノ非難ヲ免レザル所以ナリ、

離接的命題——離接命題ハ其ノ公式(イ)ガ(ろ)デアアルカ然ラザレバ(ハ)デアルト云  
フ形ニシテ主位ガ二ツノ賓位ニ關係スルモノナリ、而シテ其ノ二ツノ賓位ノ中  
カ然ラザレバ(ハ)ガ必ス主位ニ關係スルコトヲ示セルモノナリ、例ヘバ古歌ニ

かたみこそ今は仇なれはなくば

忘るゝ事のあらしものを

トアリ、此意ハ之ヲ論理學ヨリ論ズルトキハ「かたみ」ハ故人ノコトヲ記憶サセテ快  
 樂ヲ與フルカ然ラザレバ之ヲ記憶スルコトガ却テ悲ミヲ生ズルノ原因トナルナ  
 リ、而シテ此歌ニ於テハ「遺物」ガ悲ミヲ生シタルコトヲ現ハシタルコトナラン、故ニ  
 寧ロ故人ノ事ヲ忘レタランニハ悲ムコトモ亦少ナキコトナリト讃メリ、此命題ハ  
 賓位互ノ關係ニ於テ一種特別ノ關係ヲ現ハスモノナリ、即チ(イ)ナル主位ニ對シテ  
 賓位トナルベキモノハ其ノ數如何ニ多シト雖モ悉ク之ヲ數ヘ盡サズルヲ得ズ、若  
 シ前ノ命題ニ於テ(ろ)ト(は)ノ外ニ尙ホ賓位トナルモノアリトシ、假リニ之ヲ(に)ト定  
 ムルトキハ(い)ハ(ろ)カ(は)カ(に)ナリト云フ可キナリ、若シ然セサルトキハ其ノ命題ハ  
 全ク價格ヲ有セザルモノナリ、然レドモ(い)ナル主位ニ對シテ賓位トナルベキモノ  
 ハ數多キガ故ニ斯ノ如クシテ悉ク數ヘ盡スハ不能的ノコトナリ、故ニ實際上斯ノ  
 如キ命題ハ無用物ノコト多シ

詭辯論——上ニ述ベタル結約的及ヒ離接的命題ヲ合シテ之ヲ臆斷ニテ用フル  
 トキハ詭辯論ノ器械トナリテ功力亦大ナリト云フ可シ、昔時希臘ニ於テ詭辯論ノ  
 隆ナル時代ニ行ハレタル詭辯ハ之ニ基スルモノナリ、二三ノ例ヲ擧グンバ病人

ニ就テ話スニ若シ此病氣ニテ死スベキモノナラバ假令醫者ヲ呼ブモ其ノ運命ヲ  
 免ル、能ハズ、若シ此病氣全快スベキモノナラバ醫者ヲ呼ブニ及バズ、故ニ何レヨ  
 リ論スルモ醫者ヲ呼ブハ無益ナリト云ベリ、又名高キふるたむらすニ就テ奇談ア  
 リ、彼ハ詭辯家ノ王ト呼バレタル人ナリ、爰ニ「い」わすらすナル青年アリテ氏ノ門ニ  
 入レリ、當時ノ風習ニ依レバ門人ハ莫大ノ金ヲ出シテ先生ノ術ヲ學ビ受ケタルモ  
 ノナリ、而シテ「い」ハ門ニ入りシトキニ拂フ可キ金ノ半額ヲ拂ヒ他ノ半額「い」ガ業  
 チ卒ヘ法庭ニ出テ、始メテ訴訟ニ勝チタル時ヲ期シテ拂ハシメト約セリ、然ル  
 ニ「い」ハ殆ソト其ノ業ヲ終ルニ當テ大ニ勉強ヲ怠レリ、蓋シ彼ノ半額ノ金ヲ拂フコ  
 トヲ好マザリシニヨルナラン、而シテ「い」ハ之ヲ不當ナリト思ヒ「い」ヲ被告トシテ訴  
 訟ヲ起シタリ、いハ法庭ニ於テ「い」ニ向フテ曰ク「愚ナル青年汝如何ニシテモ我ニ拂  
 フヲ拒ム能ハザルノ理アリ、若シ法官ノ判斷ニヨリ汝勝チ得バ是レ汝ガ法庭ニ於  
 テ最初ニ勝チ得タルノ時ナレバ我ニ金ヲ拂フハ既ニ約束セシ所ナリ、若シ我勝チ  
 得ルトキハ法律ノ權ヲ以テ汝ニ金ヲ拂ハシムベシト「い」之ニ答ヘテ曰ク「如何ニシ  
 テモ我汝ニ金ヲ拂フノ理ナシ、若シ裁判ニ於テ勝ツトキハ法律ノ保護ニ依テ我之

ヲ拂ハズ、若シ我此裁判ニ於テ勝タザルトキハ彼ノ條約ニ背スルガ故ニ我之ヲ拂ハズト、爰ニ於テ法官ハ其ノ何レニ決スベキヤヲ知ラズシテ無限ノ延期ヲ爲シ終ニ之ヲ決セザリシト云フ、斯ノ如キ詭辯ハ其ノ極端ナリト雖モ世ニ所謂水掛ケ論ハ即チ之ニ異ナルナシ、世人言葉ハ我等ノ觀念ヲ外ニ現ハスノ器械ニ過ギズトスル時ハ誤ルコトナシト雖モ往々言葉ヲ以テ真理ヲ發見シ或ハ事ノ眞偽ヲ決スルノ器械ナルガ如クニ思フハ大ニ誤レリト云フベシ、蓋シ眞理ハ皆實驗ト熟考ニ依ラズンバ發見シ能ハザルモノナレバナリ

### 第七章 想像

前キノ第六章ニ於テハ觀念ノ起因及ヒ其ノ單一ナル性質ヲ論シタリ、本章ニ於テハ其ノ觀念ノ實際ニ活用スル所ノ法則及ヒ其ノ性質ヲ論セントス、抑モ想像ナル語ハ種々ナル意味ニ用ヒラル、コトアリ、極メテ之ヲ廣ク用ユルトキハ凡テ眼前ニ無キ者ニ就キテ考フルコトナリ、又少シ狹キ意味ニ之ヲ用フル

トキハ美術的ノ觀念ヲ有スル人ヲ指シテ想像的ノ人ト呼ブコトアリ、又或ル時ハ實際存在シ能ハザル如キコトヲ考フルコトアリ、例ヘバ「ユートピア」ヲ指シテ想像國ト云ヒ、蓬萊山ヲ想像的ノ山ト云フガ如シ、斯ノ如ク其ノ用フル所ノ場合ニ因テ想像ナル言語ノ意味變更スルガ如キニ似タレドモ是等ハ凡テ想像ノ枝葉ニ就テ起ルコトナリ、其ノ本體ノ性質ヲ知ラザルベカラズ、左ニ之ヲ説明セン、  
 智情意ノ關係——想像ノ性質ヲ明カニセントスルニハ其ノ前ニ一ノ注意スヘキコトアリ、心理學者ハ通例精神ヲ分テ智情意ノ三トナス、然レドモ是レ素ヨリ説明ノ便宜ヲ計リテ分チタルモノニシテ實際ニ於テハ三者相共ニ働クモノナレバ或ハ説明ニ於テモ智情意相對照シテ始メテ明白ナルモノナリ、前ノ第六章ニ論ジタル所ハ重モニ精神ノ智性ニ關スルコトニシテ情意ノ如キハ餘リ關係ナキモノナリシト雖モ此想像ニ至リテハ智情意ノ三ツニ密着ノ關係ヲ有スルモノナリ、而シテ今論セントスル所ハ重モニ智性ノ點ヨリ之ヲ考フルコトナレドモ是レ唯「想像ノ性質」一片ヲ論ズルノミニテ尙ホ後章ヲ殊ニ繪畫及ヒ美麗ノ學理ノ章ヲ對照シテ其ノ全脈ヲ解スルヲ得ルモノナリ、

意識ノ組織法——既ニ前章ニ論ズル所ヲ以テ見レバ精神ノ現象ハ意識中ニ觀念ノ現ハレタルモノナリ、而シテ此觀念ガ意識中ニ新陳代謝スルノ順序ニ至リテハ同伴法ノ定ムルモノナリ、然レドモ同伴法ノ外ニ意識中ニ他ノ法則アリ、即チ彼ノ意識中ニ現ハル、多クノ觀念中ヨリ或ル者ヲ撰出シ其ノ他ヲ捨ツルノ法則アリ、此新法則ハ意識ノ結合性ノ一種ニシテ之ヲ稱シテ意識ノ組織法ト云フ、

左レバ觀念ガ意識中ニ現ハル、ニ就テハ同伴法ノ法則ニ從フテ新陳代謝スルモノアリ、又意識ノ組織法ニ從フテ新陳代謝スルコトアリ、隨ヒテ觀念ノ現ハル、仕方ニ就テ三ツノ區別ヲ生ズ、(第一)前キニ經驗シタル儘ニ觀念ガ再生スルトキハ之ヲ記憶ト云フ、此時ハ意識ハ受ク身ニナリテ觀念ヲ認識スルナリ、(第二)前キニ經驗ニ依リテ得タル觀念ガ互ニ分離シ、或ハ又新ニ結合シテ意識ノ組織法ノ定ムル所ニ從フテ新ナル結合ヲ爲ス、其ノ時理性的ノ順序ニ從フテ現ハル、コトアリ、(第三)又美術的ノ順序ニ從テ現ハル、コトアルナリ、第一ハ既ニ論ザタル所ナレバ、第二ト第三種ノ者ヲ順序ニ從フテ左ニ説明セントス、  
理性的の相像——觀念ガ理性ノ順序ニ從フテ現ハル、トキハ其ノ現ハレタル觀

念ノ性質種々異ナルニ由テ又種々ナル現象ヲ生ズルナリ、即チ其ノ觀念ガ抽象的ノ概念ナルトキハ論理的想像トナリ、又其ノ觀念ガ客觀的ノ事實ナルトキハ科學的想像トナリ、又其ノ觀念ガ數ニ關スルトキハ即チ數理的想像トナリ、器械ニ關シタルトキハ器械的想像トナリ、或ハ又格段ニ人間社會ノ事實ニ關シタル觀念ガ斯ノ如キ順序ニ現ハル、トキハ或ハ經濟的想像トナリ、或ハ理財的想像トナリ、政治的想像トナリ、商工業的想像トナル、斯ノ如ク觀念ノ類ノ異ナルニ依リテ其ノ現ハル、所ノ形象種々様々ナリト雖モ要スルニ上ニ云ハル如キハ凡テ觀念ガ當ニ記憶トナリテ現ハル、ノミナラズシテ經驗ニ依リテ得タル觀念ヲ精神中ニ消化シテ再ヒ理性的ノ順序ニヨリ意識中ニ再生スルモノナリ、而シテ想像ノ此類ニ關シテハ其ノ形チノ如何ナルヲ問ハズ彼等ハ凡テ左ノ普通性質ヲ有ス、即チ既ニ經驗シタル事實ヨリ推シ考ヘテ未來ニ起ラントスルコトヲ前定スルカ或ハ新工夫ヲ以テ既ニ存在スルモノ、缺點ヲ補ハントスルカニアルナリ、物理學者ガ數理ヲ應用シ、或ハ化學者ガ化學ノ理ヲ應用シ、醫者ガ醫學ノ理ヲ應用シテ將來ヲラントスル事實ヲ前定スルハ即チ其ノ一例ナリ、又機械家ガ新機械ヲ發明シ、政治家ガ新政

零ヲ取り理財家ガ貨幣或ハ紙幣ヲ發行シテ現ニ存在スル有様ノ不完全ナルヲ改  
 計ルハ即チ又例ナリ此類ノ想像ニ於テ其ノ目的トスル所ハ主觀的ヨリ寧ロ  
 其セント客觀的ニシテ其ノ前定ガ果シテ事實ニ適フトキ或ハ又新工夫ガ舊來ノ  
 缺點ヲ實際ニ補フコトヲ得ルトキハ其ノ想像ハ價值アルモノニシテ誰レモ求  
 ベキ想像ナリ而シテ其ノ前定又ハ新工夫ガ事實ニ適ハザルトキハ斯ノ如キ想像  
 ハ無用ノモノトス故ニ此類ノ想像ニ於テハ其ノ標準トスル所ハ客觀的ノ事實ニ  
 適フヤ否ヤニアリ

美術的想像——觀念ガ美術的ノ順序ニ現ハル、時ニ於テモ其ノ觀念ノ異ナル  
 ニ由テ種々ノ現象ヲ生ズ此類ノ想像ニ於テ現ハル、觀念ハ重ニ情性ヲ有スルモ  
 ノナリ而シテ耳ノ感覺ニ於テハ音樂トナリ目ノ感覺ニ於テハ美術トナリ鼻口ノ  
 感覺ニ於テハ料理法トナリ筋肉ノ感覺ニ於テハ舞蹈トナリ言語ニ發シテ詩歌ト  
 ナリ凡テ是等ノ觀念ハ其ノ目的トスル所客觀的ノ事實ニ符合スルヤ否ヤヲ問ハ  
 ズ唯主觀的ノ美妙性ヲ満足セシムルニ在リ客觀的ニ考フルトキハ不用ナルガ如  
 キモノ少ナカラスト雖也之ヲ主觀的ニ考フルトキハ人ノ精神ヲ高尚ナラシメ致

育上實ニ無限ノ價格ヲ有スルモノナリ

記憶ト想像ノ別——上ニ述ベタル二種ノ想像ハ通例心理學者ノ想像ト唱フ  
 所ナレドモかんど及ビはみるどんノ如キハ想像ナル語ヲ極メテ廣キ意味ニ用ヒ  
 抽象的ノ觀念ニ對シ實形的ノ觀念中ニ現ハル、凡テ想像ト呼ベリ此點ヨリ  
 考フルトキハ記憶モ亦想像ノ一種ト云ハザルヲ得ズ斯ク考フルトキハ想像ハ過  
 去ト未來ニ涉リ人間ノ存在ヲシテ管ニ現在ノミナラズ過去ト未來ニ之ヲ擴ゲ恰  
 モ宇宙ノ萬物ガ空間ニ存在スル如ク精神界ハ過去、現在、未來ナル時間ノ大海ニ浮  
 ブモノナリ著者ハ先キニ意識ト空間ノ比喻ヲ取リタルコトアリ而シテ意識ハ大  
 時間ノ一部分ニ存シテ時間ニ擴ガルモノナルガ故ニ觀念ト時間ノ關係ヲ再ビ物  
 體ト空間トノ關係ニ譬フルモ亦不可ナキナリ斯ノ如ク精神現象ハ時ノ大海ニ擴  
 ガルモノナリ而シテ著者ハ既ニ經驗シタル事實ガ其ノ儘再生スルモノヲ記憶ト  
 名ヅク其ノ他過去、現在、未來ニ拘ハラズ凡テ觀念ガ理性的ノ順序或ハ美術的ノ順  
 序ニ現ハル、トキ之ヲ想像ト云フ

想像ハ整理器ノ如シ——左レバ想像ト記憶トガ共ニ精神中ニ現ハル、トキハ



即チ過去、現在、未來ヲ完フスルモノナリ、既ニ論シタル如ク人間ノ生涯中或ハ悲ミアリ或ハ喜ビアリテ世ノ有様ノ常ナキハ詩人ノ常ニ云フ所ナリト雖モ十年或ハ二十年或ハ六十年間ノ苦ト樂ヲ平均スルトキハ如何ナル結果ヲ得ルヤヲ知ラズ、恐ラクハ佛法ノ所謂涅槃ニ至ルコトナラン、此記憶ト想像ニ依テ人ハ過去ノ十年或ハ二十年ヲ未來ノ十年或ハ二十年ト結合セシメテ其ノ中ニ起ルベキ苦ト樂ヲ幾分カ平均セシムルヲ得ルナリ、故ニ苦ミアルトキニ過去ノ快樂ヲ思ヒ出シ或ハ未來ノ快樂ヲ樂ミテ心ヲ慰ムルコトアリ、又人ガ快樂ヲ得ルトキハ過去ノ事ヲ思ヒ出シ或ハ未來ノ事ヲ想像シテ其ノ人ガ一時ノ慾ニ耽リ或ハ奢侈ニ流ル、ヲ防クコトアリ、此點ヨリ考フルトキハ人ノ精神ヲ練リ過去ノコトヲ記憶セシメ、又未來ニ起ラントスル事ノ觀念ヲ精神ノ眼前ニ浮バシムルハ德育上大切ナルコトナリ、教育家タル者ハ爰ニ注意セザルベカラズ、

### 第八章 理想

天然ト人意——天然トハ通常宇宙ニ存在スル萬物ヲ指シテ云フモノナリト雖モ或ハ其ノ意味ヲ狭ク限リ精神界ト對照シテ物質世界ヲ指シテ天然ト云フコトアリ、故ニ天然ノ働キト人爲トヲ相對シテ用フルコトアリ、而シテ天然ノ働キニ人爲ヲ交フルトキハ天然ノ清潔ヲ汚スコトアリ、天然ノ美ヲ樂マントスルトキハ人ノ働キヲ交ヘズシテ之ヲ樂ムニ若カズ、

萩の露玉にぬかんと折ればけぬ

よしみむ人は枝ながら見よ(古今集、歌)

然レドモ又一方ヨリ考フルトキハ天然ニ存スルモノ果シテ皆完全ナルモノニ非ス、若シ天然ガ凡テ完全ナルモノナランニハ野蠻多人民ハ天然ニ近キガ故ニ開化シタル人民ヨリハ完全ナラザルヲ得ズ、斯ノ如キハ事實無キコトナリ、故ニ人爲ハ屢天然ノ清潔ヲ汚スコトアリト雖モ又天然ノ美ヲ維持シ天然力ヲ使用シテ其ノ

缺點ヲ補ヒ人間ノ高尚ナル性質ノ望ニ應ゼシメントスルモノナリ、  
 開化——是ヲ以テ之ヲ觀シバ人ハ天然ノ働キヲ見テ己レガ過失ヲ悟リ之ニ倣  
 ハザルヲ得ザル場合アリ、或ハ又精神ノ働キヲ以テ天然ノ缺點ヲ補フ場合アリト  
 雖モ後者ハ其ノ働キノ範圍前者ヨリモ遙カニ大ナルモノナリ、世界開化ノ歴史ハ  
 即チ人ガ天然力ヲ使用シテ天然ノ缺點ヲ補フタルノ歴史ナリ、又世ニ社會力或ハ  
 國家力ナル一種ノ力存在スルトセバ是レ即チ天然力ニ人爲ヲ結合シタル結果ナ  
 ルモノナリ、

變化——抑モ我等物ノ完全或ハ不完全ヲ論ズルニハ標準ナカルベカラズ、此標  
 準ニ照シテ或ハ完全ト云ヒ、或ハ不完全ト云フ、天然ヲ指シテ完全ナリト云フハ果  
 シテ何ノ標準ニ依ル乎、天然ノ中ニ不易ノ標準アル乎、天然ハ皆變化シテ常ナキモ  
 ノナリ、

千早ちばの神のいかきにはふくずも

秋にはあへずうつろひにけり(古今集)

此歌ノ意ハ神ノ齋いニアルかき爲即チ神ノ保護ヲ受ケテ居ルモノト雖モ天然變化ノ

法則ニハ堪ヘ難キコトヲ讀メルモノナリ、又古昔希臘ノ哲學者ふろたごらフハ人  
 ハ凡テノ物ノ標準ナリト斷言セリ、即チ天然ニ一ツモ標準トス可キモノナシトシ  
 意ナリ、氏ハ詭辯家ノ王ニシテ此言ハ詭辯ノ極端ト云フベキナリ、何トナレバ氏ハ  
 各一己人ガ萬物ノ標準タルヲ斷言タルモノナレバ其ノ結果タル自儘主義ニ陥ル  
 ノ外ナカルベケレバナリ、

變化中ノ不變——古昔ヨリ哲學者世ニ出テ、天然ノ理ヲ考ヘ眞理ヲ發明セン  
 トセシハ即チ圓滿不易ノ標準何處ニアルヤヲ定メントシタルニ過キス、佛法ハ涅  
 槃ヲ以テ其標準トシ、老子ハ道德ヲ以テ標準トシばいさごらフハ數理ヲ以テ其ノ  
 標準トナシ、孔子ハ之ヲ國ノ歴史ニ求メテ先祖ノ慣習ヲ崇ベリそくらテ思ヘラク  
 天然モ常ナク、又人ノ心モ變リ易ク何レカ不變ノ者ナルヲ知ラザルガ如シト雖モ  
 少シク注意シテ精神ノ現象ヲ觀察スルトキハ精神中ニ概念ノ存在スルヲ見ル、此  
 概念ハ其ノ中ニ多クノ觀念ヲ含有シテ此一個ノ觀念ハ常ニ新陳代謝スルト雖モ  
 之ヲ總括セル概念ハ變化ヲ受クルコト大ニ少シ、例ヘバ春過キテ夏來リ、夏過キテ  
 秋來リ、時侯變遷シテ常ナラザルガ如シト雖モ春夏秋冬ヲ概シテ之ヲ一年ト見倣

ス時ハ毎年同シ春夏秋冬ヲ繰返シ年々同シ年ニテ變化スルコト少シ又水ハ雨トナ  
 リテ山ニ降り川トナリ流レテ海ニ入り蒸發氣トナリテ空中ニ上リテ雲トナル其  
 ノ有様常ナキガ如クニ見ユレドモ其ノ雲ガ再ビ雨トナリテ降り川トナリテ流ル  
 ハモノナレバ世界中ノ水ヲ概シテ考フルトキハ其ノ水ノ増減アルコトナク開闢  
 以來常ニ同シ水ガ唯同シ道ヲ巡回スルニ過ギザルノミ此ト同理ニテ概念ハ精神  
 中ニアリテ多クノ觀念ヲ總括シタルモノナレバ種々ナル觀念ガ意識中ニ新陳代  
 謝スルトキト雖モ其ノ變化ノ中ニ存シテ變化セザルモノナリ故ニそくらてすハ  
 概念ヲ以テ萬物ノ標準トナスベキヲ論ヲヨリ因ニ云フ概念ナル語ハそくらてすハ  
 ノナルモ

概念ハ其ノ外延ヲ擴張スルニ從ヒテ變化スルコト漸々減少スルナリ例ハ百萬  
 有ノ存在或ハ萬有ノ大原因或ハ善或ハ美等ノ概念ハ萬古不易ノモノニシテ只其  
 ノ中ニ含有サル、多數ノ觀念ハ常ニ變スルモノナリ希臘時代ニアリテ善ト云フ  
 觀念ト羅馬時代ニアリテ善ト云フ觀念ハ此十九世紀ノ善トハ大ニ相違スル所ア  
 ルナリ而シテ又歐羅巴人ノ善ノ觀念ト日本人ノ善ノ觀念トハ種々異ナル所アリ

斯ノ如ク其ノ小細ニ至リテハ種々異ナル所アレドモ大體ノ善ハ爲ス可キコトナ  
 リト云フ確言的觀念ハ萬古不易ナルガ如シ斯ノ如キ觀念ハ素ヨリ漠然タル考ナ  
 リ即チ内包最モ小ナル概念ナリ然レドモ外延最モ廣ク且ツ不易ノ點ヨリ論スル  
 トキハ是レ倫理ノ標準ト云フモ可ナリ是レそくらてすの發見シタル概念ナリ元  
 來氏ノ哲學ハ倫理哲學ナルガ故ニ其ノ發見シタル概念モ亦倫理的ノ概念ナリキ  
 而シテ佛法ノ所謂涅槃ハ萬物活動ノ理ヲ論理的ニ考ヘ此移リ變ル世界ノ中ニ不  
 變ノ概念ヲ求メタルモノニシテ凡テノ變化ヲ打チ越エタル存在ニテ即チ内包最  
 小ニシテ外延最大ナル存在ヲ指シテ涅槃ト云フ生ト死トノ區別ヲ打チ越エタル  
 概念ナリ

ふれど一ノ觀念——然リ而シテ佛法涅槃ハ論理的ニ考ヘタルモノニシテそく  
 らてすノ概念ハ倫理的ニ考ヘタルモノナリ論理ト倫理トハ甚ダ大切ナルモノナ  
 リト雖モ未ダ之ヲ人間精神ノ神髓ト云フニ足ラズ之レニ美麗ノ感覺ヲ合シテ始  
 メテ精神ノ神髓ト云ハル、モノナリ時代變リ人種ノ異ナルニ依リ好ム所ノモノ  
 異ナリト雖モ人間トシテ美麗ノ感ナキモノナシ此美麗ト云フ概念ハ佛法ノ涅槃

ノ如クそくらてすノ概念ノ如ク此等ト並ヘテ絶對的ニ存在スルモノナリ、此三ツヲ合セテ圓滿ナル概念トセシハふれど、其ノ人ナリ、氏ハ哲學者ニシテ且ツ詩人ナリキ、故ニ其ノ哲學ハ深遠ニシテ且ツ壯快ナルモノナリ、氏ハそくらてすノ門弟ニシテ其ノ哲學ヲ祖述セシト雖モ哲學ヲ繪畫ニ譬フルトキハそくらてすノ概念ハ墨繪ノ如シ、ふれど、ハ尙ホ之レニ美術ノ感覺ヲ加ヘテ油繪トナシ之ヲ「觀念」ト呼ベリ、ふれど、ノ所謂觀念ハ今日我等ガ用フル理想ナル語ト符合スルガ如シ、

理想ノ眞意——左レバ理想トハ精神中ノ一現象ニシテ論理的、倫理的及ヒ美妙的ニ完全ト認ムルモノヲ合シタル絶對的觀念ニシテ世ノ變化ノ上ニ立チ、世ノ不完全、不潔及ヒ不正ノ上ニ立チテ萬物ノ標準トナリ萬物進化スルノ目的トナル、完全無缺萬古不易ノ觀念ナリ、此レ人間ノ精神中ニアリテ人ヲシテ高尚ナラシムルニ缺クベカラザル觀念ナリ、此ノ如キ觀念ヲ養成スルハ即チ德育ノ目的トスル所ナリ、理想ノ大意斯ノ如シト雖モ世人々々此語ヲ狹隘ナル意味ニ用フルコトアリ、即チ物ノ比較的完全ナルコトヲ云フ、例ヘバ「理想的」ノ學校、「理想的」ノ國家、「理想的」ノ人、「理想的」ノ家等ノ如シ、然レドモ理想ナル語ヲ其ノ原意ニテ用フルトキハ世界萬物

一トシテ理想的ノモノアルコトナシ、理想ハ唯、教育アル人ノ精神中ニ存スル觀念ニ過ギザルナリ、

第九章 苦樂ノ學理

苦樂ノ感ハ精神中ニアリテ大切ナル現象ナリ、心理學者ハ通例苦樂ノ感ヲ以テ精神ノ三大部(智情意)ノ一部ト爲ス、然リト雖モ此精神現象ハ情ナル語ヲ用フルヨリハ、苦樂ノ感ナル語ヲ用ヒテ能ク適當ニ言ヒ顯ハスヲ得ルナリ、故ニ左ニ先ツ其ノ學理ヲ論ジ、次ニ苦痛ヲ生スル物ト快樂ヲ生セザル物トノ區別ヲ爲サントス、而シテ此章ニ於テハ苦樂ノ學理ヲ説明セントスルナリ、

苦ト樂トノ關係——抑モ苦樂ハ世間ニアリテ種々様々ノ現象ヲ生スルコト恰モ水ニ寒暖アリ宇宙ニ明暗アリ陰陽アリ積極消極アリテ相俟ツテ互ニ其ノ存在ヲ保ツモノナルガ如シ、然レドモ尙ホ之ヲ精密ニ考フルニ水ニハ寒暖アルニ非ス熱ノ多量ナルヲ暖ト云ヒ熱ノ少量ナルヲ寒ト云フ、又明暗モ之ト同ク宇宙ニ明暗ナルモノ存在スルニ非ズ光ノ多量ナルヲ明ト云ヒ光ノ少量ナルヲ暗ト云フ、然

ルニ積極ト消極ハ二ツナガラ存在スルガ如シ、假令バ「氣」如キハ積極的ノ電氣ト消極的ノ電氣トアリテ互ニ反對ノ方向ニ流ル、モノナリトノ說一時行ハレタリ、然ルニ之レ又現今ニ至テハ電氣學者ガ積極的ノ電氣ノミ流ル、モノト見做シテ之ヲ計算スルニ至レリ、左レバ精神中ニハ苦樂ナルニ原素ノ存在スルモノナルヤ或ハ一原素ノミ存在スルモノナルヤ、而シテ其ノ一原素ハ苦痛ナルヤ將タ快樂ナルヤ、或ハ苦痛ニモアラズ又快樂ニモ非ル一種特別ノモノナルヤ、今一々之ヲ研究セントスルナリ、

そくらてすノ說——第一、歴史ニ溯リテ之ヲ考フルニふれど、一ノ說ニ由レバ苦痛ハ實在スルモノニシテ快樂ハ實在スルモノニ非ズ、即チ苦痛ノナキヲ快樂ト云フ、ふれど、一ノ「フヒード」(舊名)ヨリ抄譯シテ其ノ說ヲ明カニセン、そくらてすノ末日ニ於テ其ノ朋友ふひど(門人)くりど(あぜん)ノ財產家ニシテ大ニそくらてすヲ助ケシ人)及ヒ二三ノ人々ハ半屋ニ於テそくらてすヲ見舞ヒタリ、ふひど(一ガ朋友ニ語リタル言ニ左ノ如ク云ヘリ、曰ク我等ガ入リシトキニそくらてすハ鎖ヲ解カレ、而シテ汝ノ知ルさんちのふそくらてすノ妻ハ小兒ヲ抱キナガラ彼レ

ノ側ニ座スルヲ見タリ。ざんちつハ婦人ノ通例トシテ我等ヲ見テ叫ビテ云ヘリ、  
 「噫、そくらてすヨ。汝ト汝ノ朋友相共ニ語ルノ終ナリト。時ニそくらてすハくりと、  
 テ見テ云ヘリ。誰レカ我妻ヲ家ニ送ルモノヤアルト。直チニくりと、僕ガ彼ノ婦  
 人ヲ連レ去レリ。其ノ時そくらてすハ臺ノ上ニ屈ミナガラ手ヲ以テ脚ヲ擦スリテ  
 云ヘリ。快樂ト苦痛ノ關係ハ實ニ奇妙ナルモノナリ。人ノ之ヲ反對ノモノナリト思  
 フハ蓋シ苦痛ト快樂ハ決シテ同時ニ來ルモノニ非レバナリ。然リト雖モ人其ノ一  
 テ得レバ必ズ又他ノ一物ヲモ得ザル能ハス。夫等ハ二ツナリト雖モ一ツノ軸ヨリ  
 出テタルガ如シ。若シ「いそぶ」ガ此事ヲ考ヘタリ、シナラバ必ズ物語リヲ作リタルナ  
 ラン。即チ神ガ甲乙ノ喧嘩ヲ宥メントシテ能ハズ。故ニ甲乙二人ノ頭ヲ合シタリ。故  
 ニ樂常ニ相伴フナリト。余ハ經驗ニヨリテ之ヲ知ル。鎖ノ爲メニ苦痛ヲ受ケタリト  
 雖モ今其レニ反シテ大ニ快樂ヲ感スルナリト  
 「フェレンバス」(書名)ニ於テ又左ノ如ク論ゼリ、  
 そくらてす曰ク動物ノ體ニ於テ調和ヲ缺クトキハ其ノ組織ニ於テ損害ヲ生シ  
 其レニ依テ苦痛ヲ來スコトナラン。

ふろた！かす曰ク汝ノ言葉眞實ナルガ如シ

そ曰ク然ルニ其ノ調和ヲ回復スルトキハ快樂ガ又來レリト云ハズヤ

そ曰ク食物ノ欠乏ガ動物ノ體ニ損害ヲ生シ飢ユルコトノ苦痛ヲ生ズルニ非ズ  
 ヤ

ふ曰ク然リ

そ曰ク食物ガ其ノ損害ヲ補フトキハ快樂ヲ生ズ

ふ曰ク然リ

其ノ他ノ論ヲ以テ考フルニふれど、ハ常ニ苦痛ヲ先キニシテ立論シ其ノ苦痛  
 ヲ除去スルトキニ快樂ノ來ルヲ云フ。換言スレバ快樂ハ即チ苦痛ノ反面的ノ意ナ  
 リ

ありすと、いどるノ説——然ルニありすと、いどるハ之ニ反シテ快樂ナルモノハ  
 常ニ苦痛ヲ逃レタルモノ、ミナラズ又實在スルモノナルコトヲ主張セリ。其ノ大  
 意ヲ擧クレバ快樂ハ勢力ニ同伴スルモノナリ。身体精神共ニ壯健ニシテ其ノ活動  
 調和シ凡テ完全ナル生活ヲ保チ一ツモ之ヲ妨クルモノナキ時ハ之ヲ快樂ト云フ。

一言ニ之ヲ云ヘバ完全ナル活動即チ快樂ナリ、  
 馬琴ノ説——又曲亭馬琴ノ説ニ由レバ苦ト樂ハ兩者共ニ實在ノモノニ非ズ即チ「どかく油斷のならぬが浮世樂み盡きて哀み來り哀み去て歡び來たる歡ばしきを歡べば哀きときにやるせがなし只歡ばず哀まらず靜に天理に従ふもの神仙とも老佛とも馬鹿とも利根ともいはるゝならん」胡蝶物語是レ亦佛教、ストイク派及ヒエヒキエトラスノ説ナリ。

はみるどんノ説——近世ニ至リテはみるどんハ苦樂ノ感ヲ論シテ其ノ要素ヲ左ノ數ヶ條ニ分テリ。

第一、人ノ此世ニ生活スルハ身軀ト精神ヲ共ニ活動セシムルニアリ、(注、現時ノ物理學ニ由レバ物質ノ本軀ハ運動ニアリ、生物ノ本軀ハ生活ニアリ、故ニ人間生存ノ本軀モ亦人ノ心身活動ニアルヤ明カナリ)第二、人ノ活動力ハ有限ナルモノナリ、(注、此有限ナルヨリシテ苦樂ヲ生スルナリ)第三、人ハ苦樂ノ受ケ手ナリ、(注、人存在スレバ必ズ活動ス、而シテ其ノ活動スルノ方法ニヨリテ苦痛ヲ生スルニアリ、或ハ快樂ヲ生スルコトアルナリ)第四、生活力ニ種々アリ、而シテ各其ノ特性ヲ有ス、故ニ夫等

ヲ概括シタル一般ノ法則ヲ定メザル可カラズ、(注、耳、目、鼻、口各其ノ特別ノ活動ヲ有ス、故ニ耳ノ苦樂ハ目ノ苦樂トハ自ラ異ナラザルヲ得ズ、然レトモ總テテ概括シタル法則アリヤ)第五、答、活動力完全ナルコトノ度ニ從テ快樂多ク其ノ不完全ナルコトノ度ニ從テ苦痛多シ、(注、之レハ活動力ノ完全ト不完全ト快樂苦痛ノ關係ヲ抽象的ニ示シタルナリ、前後對照シテ考フ可シ)第六、活動力ノ完全ナルコトヲ定ムルニ二種ノ標準アリ主觀的及ヒ客觀的標準之レナリ、第七、主觀的標準トハ活動ノ精神ニ充滿シ過不及ナキコトヲ云ヒ而シテ其ノ活動ガ妨ケラル、カ或ハ外物ノ爲メニ強ヒラレテ活動スルトキハ之ヲ不完全ナル活動トハ云フナリ、第八、客觀的標準ハ主觀的ニ完全ナル活動ヲ生セシムルヲ云フ、第九、故ニ苦樂ノ定義ヲ與フレバ快樂ハ調和ノ結果ニシテ苦痛ハ不調和ノ結果ナリ、

すべんさノ説——次ニすべんさノ説ハはみるどんノ説ト大同小異ニシテ快樂ハ有機軀ノ活動及ヒ其ノ發達ニ伴ヒ苦痛ハ其ノ活動及ヒ發達ノ損害ニ伴フモノナリ

結論——右ニ云ヘルハ苦樂ノ學理ニ就テ哲學者ノ考フルモノ、大意ニシテ之

ヲ概シテ云ヘバそくらてすチ除ケバ皆樂天主義ナリ、蓋シ其ノ説快樂ト天然法ヲ同一ナリトスレバナリ、其ノ他ノ細論ハ哲學ノ範圍ニ涉ルモノナレバ爰ニ論セス、今少シク著者ノ意ヲ左ニ述ベントス夫レ人ノ精神活動ハ繁雜ナルモノニシテ之ヲ一概ニ論スルハ甚ダ難キコトナリ、抑モ快樂ニ種々アリ苦痛ニモ亦様々アリ、例ヘバ安心立命ヲ以テ快樂トスルカ、或ハ戰爭ニ出テ、敵ヲ亡ボスコトヲ以テ快樂トスルカ、又閑靜ナル田舎ニ不足ナキ財産ヲ有シ花鳥風月ヲ友トスルヲ快樂ト云フカ、或ハ又政事社會ニ奔走シ國家ノ大權ヲ握リ日夜心身ヲ勞スルヲ以テ快樂トスルカ、是等ノ快樂相矛盾セザルヲ得ズ、安心立命或ハ閑靜ナル田舎ニ花鳥風月ヲ樂ムハ心身ノ爲メニ健全ナルコトナリ、然ルニ戰フテ敵ヲ討チ或ハ國家ノ政權ヲ握ル等ノ如キハ快樂其ノ中ニアリト雖モ心身ヲ損害スルコト亦大ナリト云フベシ、其ノ他人々ニ依リテ苦樂ノ感大ニ異ナルナリ、又甲ノ苦痛ト思フコト乙ノ快樂トナリ、甲ノ快樂ト思フコト乙ノ苦痛トナルコトアリ、はみるとん、とべんさーノ如キハ空中ニ樓閣ヲ畫キ之ヲ快樂トシテ論スルモノナルガ如シ、蓋シ彼等ノ所謂快樂トハ何ノ種類ノ快樂ヲ指シテ云フモノナルヤ、快樂ノ中ニ其ノ種類ヲ分チはみ

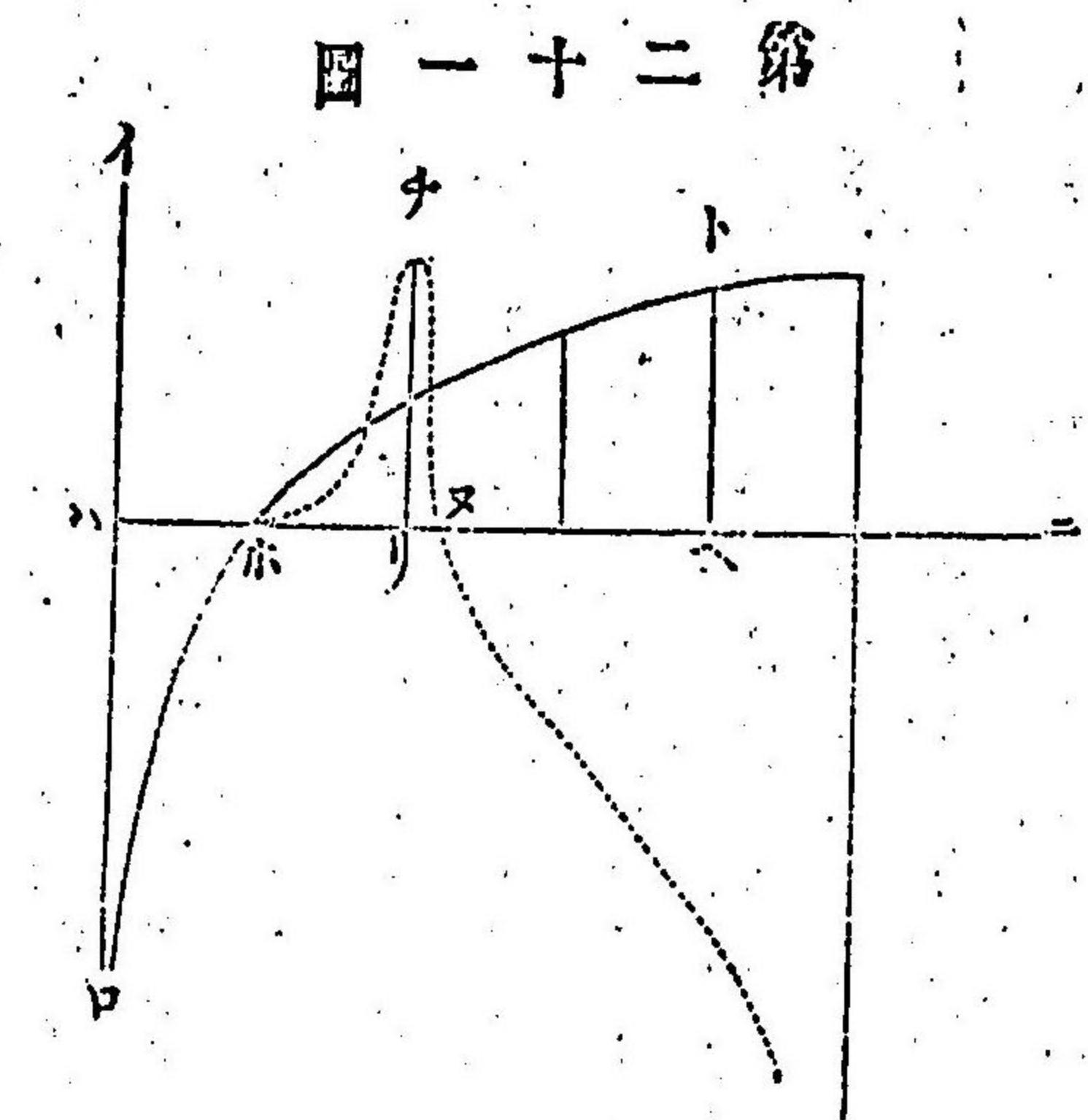
るとん、とべんさーノ所謂快樂ト然ラザル快樂トノ區別ヲ爲サザルヲ得ズ斯ノ如キ漠然タル論ノ如キハ著者ノ解シ能ハザル所ナリ、

著者ハ快樂ト苦痛ハ精神ト身軀トノ調不調ニ由ルモノナリト信ズ、夫レ人ニハ種々ノ情慾様々ノ習慣アルモノナレバ其ノ各快樂ニ任セテ之ヲ満足セシムルコト能ハズ、若シ之ヲ満足セシメントスルトキハ身軀ヲ害スルコト屢之レアルナリ、論者アリ或ハ云ハソ、夫等ノ如キハ其ノ格段ナル情慾或ハ習慣ニ取リテハ之ヲ満足セシムルコト即チ其ノ情慾或ハ習慣ノ調和ヲ爲スコトナラズヤト、夫レ或ハ然ラソ、然リト雖モ其ノ説到底臆斷ノ範圍ヲ脱スル能ハザルナリ、故ニ著者ノ考フル所ニ依レバ快樂ト苦痛ハ決シテ心身活動ノ調不調ヲ知ルノ標準トナル能ハズ、心身活動ノ調不調ヲ定ムルニハ他ニ其ノ標準タルモノナカル可カラズ、是レ如何ナル標準ナルヤ、廣キ經驗ニ基キタル智識即チ是レナリ、此標準ニ照ラシテ快樂ヲ限リ又苦痛ト雖モ甘ソシテ之ヲ受クベキナリ、苦樂ノ哲理ヲ考フルハ甚ダ壯快ニシテ且ツ大切ナルコトナリト雖モ臆斷ヲ以テ之ヲ定ムルハ古人ニアリテハ或ハ爲スベキモ今日ノ心理學者ニ於テ許サザル所ナリ、故ニ著者ノ後章ニ論セントスル



所ハ重モ苦樂ヲ生スル物脈ト其レニ由テ精神中ニ生シタル苦樂トノ關係ニ止  
マリ心身活動ノ調不調ノ如キニ至テハ後ノ識者ヲ待タントスルノミ

苦樂ト感覺ノ關係——終リニ感覺ノ大小ト苦樂トノ關係ニ就テ一言ゼサルヲ  
得ズ、感覺ノ大小ハ夫レヲ惹キ起ス外物ノ刺激ノ大小ニ關スルモノナリト雖モ感



第十二圖

覺ノ度ハ刺激ノ大小ト正比例ニ増減スルモ  
ノコ非ズ、今第二十一圖ヲ以テ之ヲ示サソ  
(イ)ノ方向ニ引キタル線ヲ以テ感覺ノ大小  
ヲ表ハシ、(ロ)ノ方向ニ引キタル線ヲ以テ刺  
激ノ大小ヲ表ハストキハ圖ニ示シタル曲線  
ハ刺激ノ増加スルニ從テ感覺ノ増加スル割  
合ヲ示スモノナリ、(ハ)ニナル線ノ上ハ積極的  
ノ感覺ニシテ其ノ線ノ下ハ消極的ノ感覺即  
チ無意識ナル腦ノ働キニテ今將サニ意識中  
ニ現ハレ出テントスル前ノ有様ヲ示スモノ

ナリ、(ホ)ノ所ニ於テ始メテ腦ノ活動ガ意識中ニ現ハレ以テ感覺トナルモノナリ、而  
シテ(ホ)ヨリ(ニ)ノ方ニ刺激ノ度ヲ増加スルトキ、例ヘバ(ヘ)ノ所ニ於テ感覺ノ度ハ(ハ)  
(ト)ナル線ヲ以テ示サル、ナリ、斯ノ如クシテ刺激ノ増加スルニ從ヒテ感覺ノ度ハ  
曲線ノ示ス如ク漸々ニ増加スルモノナリ、感覺ト刺激ノ關係夫レ斯ノ如クシテ  
苦樂ノ感ハ點線ヲ以テ示シタルモノニシテ、縱ニ感覺ガ現ハル、トキハ聊カノ快  
樂ヲ表ハシ、其レヨリ漸々昇リテ終ニ(チ)ノ所ニ於テ最上點ニ達シ、刺激ノ度(リ)ヨリ  
増ストキハ彼ノ快樂ハ速カニ消失シ終ニ(ヌ)ノ所ニ於テ苦樂平均ノ點ニ達スルナ  
リ、刺激尙ホ其レヨリ増加スルトキハ彼ノ點線ハ(ハ)ノナル線ノ下ニ行ク之レ快樂  
ノ消極ナルガ故ニ無意識ニ非ズ、此點線ハ苦痛ヲ示スモノナリ、斯ノ如ク此圖ニ於  
テハ外物ノ刺激ト其レヨリ生セラレ、感覺ト其ノ感覺ノ苦樂トヲ比較シタルモ  
ノナリ

夫レ感覺ト苦樂ノ關係大略右ノ如シト雖トモ感覺ニハ程度アリテ竟ニ機關ノ  
異ナルニ從ヒテ類ヲ異ニスルノミナラス、味感中ニモ甘苦酸鹹等ノ差アルナリ、而  
シテ甘キ感覺ハ一般ニ快樂ヲ與ヘ、苦ガキ感覺ハ一般ニ不快ヲ與フルハ人ノ知ル

所ナリト雖モ尙ホ深ク之ヲ推究スルトキハ是レ唯俗説ニ過キザルナリ俗ニ水ハ流動脈ニシテ鉄ハ固形脈ナリト云フ然リト雖モ熱ノ増減ニ依テ水モ鉄モ流動脈トナリ或ハ固形脈トナルモノナリ唯兩者通常ハ其ノ熱度ヲ異ニスルノミ甘苦モ之レト同シク兩者共ニ快樂ヲ與フルコトアリ或ハ不快ヲ與フルコトアルナリ唯其度ノ増減ニヨルノミ即チ砂糖ト機那鹽トハ共ニ快樂ヲ與フルモノナリト雖モ前ノ圖ニ照ラシテ考フルトキハ彼ノ(ト)ナル點ノ位置前後スルノミニシテ機那鹽モ快樂ヲ與フルコトアリ砂糖モ亦不快樂ヲ與フルコトアルナリ斯ノ如ク耳目鼻口ニ種々ノ感覺アリテ各其ノ適度ヲ得レバ凡テ快樂ヲ生シ其ノ度ヲ失ヘバ不快樂ヲ生スルモノナルヲ知ルベシ一々其ノ適度ヲ試驗的ニ定メントスルハ生理學者及ヒ精神物理學者ノ義務ナリト雖モ現今ノ智識ニシテ之ヲ斷言スル能ハザルナリ

### 第十章 音樂

調音ノ原因——音樂ハ或ル點ヨリ云ヘバ美術ノ一種トモ云フベキモノニシテ人ニ快樂ヲ與フルモノナリ古昔ニ溯リテ考フレバ下等動物ニ於テモ調音ヲ好ムノ感アルハ人々ノ知ル所ナリ調音ノ感ガ快樂ヲ與フルト同時ニ不調音ハ不快樂ヲ與フルモノナリ我等ハ何チ調音ト云ヒ何チ不調音ト云フヤ其ノ性質ヲ研究セザル可カラズ抑モ音樂ヲ生スルニハ發音器ナカル可カラズ咽喉ガ發音器トナルコトアリ或ハ又他ニ音樂器アルコトアリ而シテ其ノ音響空氣ニ波動ヲ與ヘ其ノ波動ヲ受ケテ活動スル機械ハ即チ耳ナリ然ルニ今一ツノ問題アリ即チ音樂ノ調音ヲ生ズル直接ノ原因ハ發音器ニアルカ將テ耳ノ構造ニアルカヘるむほるのノ説ニ從ヘバ是レ耳ノ構造ニ大ニ關係アリ

夫レ音樂ノ快樂ヲ生セシムル所以ハ音響ノ調和及ヒ其ノ節ノ存スルニ由ルモノナレバ音樂ハ惟ニ音響ノ集合シタルモノニ非ルヤ明カナリ而シテ其ノ調和及

ビ節ヲ生セシムル所以ハ耳ノ構造ト發音器ノ構造トニ關係ヲ有スルモノナリ其ノ理ヲ知ラントスルニハ先ツ音響ノ理ヲ論シ次ニ耳ノ構造ヲ知ラザル可カラズ

調音ノ理——音響トハ空氣ノ動搖ニシテ始メ物体震動シ夫レヨリ空氣ヲ動搖セシメ其ノ空氣ノ動搖ハ調音又ノ如キモノニ當ルトキハ之ヲ又震動セシムルナリ然リト雖モ其ノ調音又ノ震動ノ速力ハ之ヲシテ震動セシムル空氣ノ震動ノ速力ト相等シキカ或ハ其ノ倍數ナルカ或ハ其ノ約數ナルカ此數者ノナラサル可カラズ若シ空氣ノ震動ノ速力ト調音又ノ速力トガ五ト七トノ如キ互ニ割リ切レザル數ノ關係ヲ有スルトキハ假令空氣ノ震動ガ調音又ニ當ルト雖モ之ヲシテ震動セシムルト能ハザルナリ今試ミニ爰ニ多クノ調音又アリテ小ヨリ始マリ漸々大ナルモノヲ順序ニ整列スルト假定セヨ而シテ第二十二圖ノ如ク(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)(リ)(ヌ)(ル)(ヲ)(ワ)(カ)(ヱ)ヲ以テ之ヲ表ハシ其ノ間ノ互ノ關係ハ圖ノ如キ數ニ依テ表ハサルナリ今他ノ發音器ヨリ(イ)ナル音響ヲ發セシメ此調音又ノ列ニ當ラシムルトキハ其ノ調音又ノ中(イ)ハ之レガ爲メニ震動シ(チ)ハ其ノ二倍ナルガ故ニ又震動シ(ヲ)ハ其ノ三倍ナルガ故ニ是レモ亦震動シ(ヨ)ハ其ノ四倍ナルガ故ニ又震動ス而シテ(イ)ナル音響ヲ

圖二十二第

(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	(チ)	(リ)	(ヌ)	(ル)	(ヲ)	(ワ)	(カ)	(ヱ)
1	9	5	4	3	5	15	2	9	5	8	3	10	15	4
	8	4	3	2	3	8		4	2	3		3	4	
24	27	30	32	36	40	45	48	54	60	64	72	80	90	96
ナリ	モノ	示ス	合チ	ノ制	速力	スル	震動	又ノ	調音	是ハ				

苦樂ノ感

元音ト稱ス其ノ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)(リ)(ヌ)(ル)(ヲ)(ワ)(カ)(ヱ)トハ部音ト稱シテ次第ニ其ノ勢力弱クナルモノナリ左レバ五倍六倍ノ調音又ニ至リテ震動ナキニ非スト雖モ又微々タルノミ而シテ彼ノ(イ)ト同時ニ又(ホ)ナル音響モ發セシムルトキハ前ト等シク(ホ)ナル調音又ヲ震動セシメ(チ)ハ其ノ二倍ナル故共ニ震動シ又(ツ)ハ其ノ三倍ナル故是レモ亦震動ス今(イ)ヨリ刺激サレタルモノヲ數フレバ(イ)(チ)(ヨ)ナリ又(ホ)ヨリ刺激サレタルモノハ(ホ)(ツ)ナリ之ヲ比較スレバ(チ)ハ(イ)ノ三倍ニシテ(ホ)ノ二倍ナリ故ニ此部音ハ兩方ニ普通ナルコトヲ發見ス此理ヲ以テ推ストキハ如何ナル音ト雖モ二音共ニ發スルトキハ其ノ速力ノ最小公倍數ノ所ニハ普通ナル部音アルノ理ナレドモ其ノ部音が元音ヨリ遙カニ隔ルヲアリ例ヘバ(イ)ト(ト)ノ如キハ二者ノ最小公倍數三百六十トナル是レ(イ)ノ十五倍ノ部音ニシテ(ト)ノ八倍ノ部

音ナリ、故ニ微々タルモノニシテ實際上(イ)ト(ト)ノ相合スル所ナキニ等シ、然ルニ彼  
 ノ(ヲ)ナル部音ハ元音ニ接近スルガ故ニ是等ト共ニ響キテ(イ)ホヲ助クルナリ、此(イ)  
 (ホ)ヲ同時ニ發スルトキ之ヲ調音ト名ツケ、二者引キ續キテ發スルトキハ之ヲ節ト  
 名ツク、之ニ反シテ(イ)ト(ト)ノ如キハ不調音ト稱セラル、モノナリ、  
 是ヲ以テ之ヲ觀レバ發音器ヨリ來ル音響ハ彼ノ調音又ノ列ニ當リ調音不調音  
 ナ生スルモノナリ、此調音又ノ列ハ即チ耳中ノ神經ヲ表ハスモノナリ、耳ノ構造甚  
 ダ錯雜ナルモノナリト雖モ大小ノ調音又ヲ順序ニ並ベタルモノニ異ナラズ、而シ  
 テ耳ニアリテハ調音又ノ代リニ大小神經ノ列彼ノ蝸牛殻ノ中ニ存在スルモノナ  
 リ、故ニ此神經ガ彼ノ調音又ト同シク外物ノ刺激ヲ受ケテ震動シ而シテ調音不調  
 音ノ差異ヲ生スルモノナリ、左レバ調音ガ快樂ヲ生ズル所以ハ元來異種ナル音響  
 ナシテ共ニ結合セシメ一音ト成スヨリ生ズルナリ、

右ニ論シタルハ異種ナル音響ガ同時ニ發スルトキ耳中ニ入リテ神經ニ刺激ヲ  
 與ヘ夫レヨリ高キ部音が互ニ結合スルヨリ快樂ヲ與フルナリ、然リト雖モ先キニ  
 云ヘル如ク音響ハ必ズシモ元音ヨリ高キモノニ限ラル、ニ非ズ、故ニ今ヨリ論ゼ

ントスル所ハ元音ヨリ低キ部音ノ結合スルコトナリ、例ヘバ前ノ第二十二圖ニ歸  
 リテ先キニ論シタルモノ、反對ノ關係ヲ示サシニ(ヲ)ナル音響ヲ生スルトキハ其  
 ノ音響彼ノ調音又ニ當リ其ノ調音又ハ(ヲ)ナル符ノ音響ヲ再生ス、是レ即チ元音ナ  
 リ其レト同時ニ(ホ)ナル調音又ハ(ヲ)ノ二分ノ一ノ調音又ナルガ故ニ之レト同時ニ  
 震動シテ部音トナル、又(イ)ナル調音又ハ其ノ三分ノ一ナルガ故ニ又部音トナリテ  
 震動ス、爰ニ於テ(ヲ)ナル一ノ元音ノ爲メニ(ホ)ト(イ)ガ同時ニ震動スルナリ、斯ノ如ク  
 シテ一ノ元音が二種ノ部音ヲ生シ其ノ部音が元音ト調和ヲ爲シ元音ヲシテ尙ホ  
 壯快ナラシムルモノナリ、斯ノ如キハ一音ヨリ異種ノ符音ヲ生シ其レガ爲メニ快  
 樂ヲ生ゼシムルノ適例ナリ、是ニ由テ之ヲ觀レバ音樂ノ精神ニ快樂ヲ與フル所以  
 ハ異種ノ符合ガ結合ヲ爲シ又一ノ符音が異種ノ符合ヲ生ゼシムルニアルモノナ  
 リ、而シテ此二十二圖ノ如キハ音樂ノ符ノ唯一部分ヲ表ハシタルモノナルガ故ニ  
 例ヘバ(イ)ナル符音ヲ中心ト假定スルトキハ二十二圖ハ(イ)ヨリ高キ符音ヲ表ハシ  
 タルモノナリト雖モ今想像ヲ以テ(イ)ヨリ低キ符音ノ列ヲ考フルコトヲ得ルナリ、  
 而シテ(イ)ヨリ低キ符音ノ列ガ十五段下ヨリ始ムルト假定シ其ノ始メノ符音ノ(イ)

ヲ以テ表ハストキハ(ハ)ト漸々數ヘ終(ヨ)ノ所ハ彼ノ(イ)ニ當ルナリ、而シテ其ノ  
 互ノ割合第二十二圖ト少シモ異ナルコトナシ、左ノバ(イ)ナル元音ヲ生スルトキハ  
 上ノ部音ニ於テハ(チ)ヲ生シ下ノ部音ニ於テハ(イ)ノ二分ノ一ナルガ故ニ部  
 音トナリ、(ニ)ハ三分ノ一ナルガ故ニ又震動ス、斯ノ如ク(イ)ノ元音ニ就キテ上下ニ部  
 音アリ、又之レト同時ニ(ホ)ナル元音ヲ生スルトキ上ニハ(チ)及ビ(タ)ナル部音ヲ生ズ  
 (チ)及ビ(チ)ハ各(ホ)ノ二分ノ一及ビ三分ノ一ナルガ故ニ下ノ部音トナル、斯ノ如クナ  
 ルトキハ上ノ(チ)ハ(イ)及ビ(ホ)ニ通スル部音ナリ、又(チ)ハ(イ)ノ二分ノ一(ホ)ノ三分ノ一  
 ニシテ各通ス故ニ(チ)ハ上ノ結合(チ)ハ下ノ結合ナリ、其ノ他ノ結合推シテ知ルベシ、  
 斯ノ如クニシテ調音ガ精神ニ快樂ヲ生スルモノナリ、  
 異種ノ中ニ結合點アリ、一種ノ中ニ又種々ノ異類ヲ含ムコトアリテ人心ニ快樂  
 ヲ與フルハ獨リ音楽ニ止マルモノニ非スト、雖モ音楽ニ於テハ斯ノ如ク著シク其  
 ノ理ノ存ズルコトヲ發見セシハへるむほるの樂譽ニシテ音楽ノ快樂ヲ與フル  
 所ノ明カナル原因ト云フベシ、

### 第十一章 繪畫

繪畫モ亦精神ニ快樂ヲ與フルノ原因トナルベシ、抑モ繪畫ハ視覺ヨリ來ルモノ  
 ニシテ一種ノ幻影ナリトハ既ニ論シタル所ナリ、其ノ幻影ノ精神ニ快樂ヲ與フル  
 所以ニ至リテハ今ヨリ論ゼントスル所ナリ、  
 嗜好ノ差異——夫レ人ノ精神ニ快樂ヲ與ヘシムルモノニ種々アリ、蓋シ各自ノ  
 性質、習慣、嗜好等ニ依リテ快樂トスル所ノモノ異ナレバナリ、是レ獨リ繪畫ノ快樂  
 ニ止マラズト雖モ繪畫ニ於テ各自嗜好ノ差異甚ダ明カナルモノナリ、錦繪ヲ好ム  
 モノアリ、山水畫文人畫ヲ好ムモノアリ、漢畫ヲ好ムモノアリ、又油繪ヲ好ムモノア  
 リ、蓋シ各自嗜好ニ差異アルハ精神ノ構造各自ニ於テ異ナルニ非ズ、甲ノ快樂トス  
 ル所ハ乙モ亦快樂トセザルニ非ズ、唯、各自ノ殊ニ快樂トスル所異ナルナリ、故ニ錦  
 繪ヲ見テ快樂ヲ覺ユル人ガ文人畫ヲ見テ亦快樂ヲ感セザルニ非スト、雖モ甲ハ文  
 人畫ヨリモ錦繪ヲ見テ尙ホ多クノ快樂ヲ覺ヘ乙ハ錦繪ヨリモ尙ホ文人畫ヲ好ム

繪畫ノ觀念同伴——繪畫ノ精神ニ快樂ヲ與フル所以ハ其レヲ知覺スルノ快不快及ヒ其ノ繪畫ノ爲メニ同伴法ニ由テ精神中ニ惹キ起サレタル觀念ノ種類如何ニ由ルモノナリ小兒ガ錦繪ヲ見テ快樂ヲ感スルハ獨リ同伴法ノ作用アルニ非ズ、彩色ノ麗ハシキヲ見テ重モニ其ノ知覺ヨリ快樂ヲ得ルモノナリ是等ハ最モ單一ナル快樂ナリ而シテ其ノ知覺ノ外ニ僅カノ觀念ガ同伴スルコト明カナリ例ヘバ八九ヶ月ノ小兒ガ狗犬ノ繪ヲ見タルトキハ肖像ノ繪ヲ見タルトキトハ感覺異ナルガ如シ肖像中ニ於テ未ダ見ザル人ノ顔ト一度見テ覺ヘタル人ノ顔トハ小兒ニ與フルノ感覺ニ於テ大ナル差アリ是レ小兒ノ精神中ニ惹キ起サレタル觀念同伴ノ作用ニ非ズシテ何ゾヤ

大人ガ繪畫ヨリ得ル所ノ快樂ニ三種ノ區別アリ第一、摸擬ノ巧拙、第二、繪畫ノ選擇第三、畫工ノ意匠是レナリ左ニ々々其ノ説明ヲ試ミントス、

第一、摸擬ノ巧拙——人ハ摸擬スル動物ナリ而シテ畫工ガ摸擬スルニ二様ノ區別アリ前キノ畫工ガ既ニ畫キタル繪ヲ摸擬スルコトアリ又天然ヲ摸擬スルコト

アリ我國從來ノ畫ノ如キハ重モ古キ繪ヲ摸擬スルニ止マリタルモノナリ彼ノ有名ナル狩野派ノ如キモ此類ニシテ天然ヲ摸擬スル如キコト少ナク前キノ畫ヲ見テ之ニ摸擬スルニ止マリテ愛ニ一ノ奇談アリ或ル畫工偶然夜半ニ目ヲ覺マシ見ルニ月己ニ西ニ傾キテ障子ヲ照ラシ庭前ノ竹影ハ其ノ障子ニ移リ居レリ彼レ之ヲ見テ大ニ感シタリ而シテ筆ヲ取り其ノ障子ニ映リタルモノヲ手本トシテ竹ヲ畫キタリ而シテ此畫工ハ大ニ譽ヲ得タリト云フ蓋シ此畫工ハ他ノ畫ヲ摸擬シタルニ非ズ天然物ノ障子ニ映リタルモノヲ手本トシタルガ故ナリ斯ノ如キ智慧ハ西洋又當時ノ日本ニ於テハ八九歳ノ童子ト雖モ有スル所ナリ然ルニ斯ノ如キ名譽ヲ得タルハ以テ當時ノ畫工社會ノ風俗ヲ推察スルニ足レリ然リト雖モ何レノ國ニ於テモ斯ノ如キ風俗ノ行ハレザルハナシ唯我國其ノ極端ニ至リタルノミ、天然ヲ摸擬スルハ繪畫中最モ一般行ハルモノナルガ如シ天然ヲ其ノ儘摸擬スルコトアリ又少シク想像ヲ交ヘテ天然ノ景色ヲ畫クコトアリト雖モ其ノ何レヲ問ハズ天然ヲ摸擬スルコトガ理想ノ美術ナルヤ否ヤヲ定メザル可カラズ若シ天然物が悉ク完全無缺ナルモノニシテ美術的ノ思想ヲ以テ造ラレタルモノナラ

天然ヲ摸擬シテ最モ高尙ナル美術ヲ得ルコトアルベシ然リト雖モ既ニ理想ノ章ニ於テ論シタル如ク天然ニ理想ナシ理想ハ唯人ノ精神中ニ存在スルノミ故ニ理想ノ美術ハ天然ヲ摸擬シテ得ル能ハズ我國富士山ノ景色ノ如キ米國なやがらノ瀧又ハあるふす山ノ如キモノヲ巧ミニ書クトキハ天然ノ摸擬ニシテ或ハ高尙ナル繪畫ヲ生スルコトナラザル然リト雖モ天然ヲ摸擬シテ理想ニ達スルハ到底能ハザルナリ

摸擬ノ巧拙ヲ以テ畫工ノ技量ヲ判斷スルハ審査員ガ畫ヲ評スルニ當リ大切ナル要素ナリト雖モ又一方ヨリ考フルトキハ純粹ニ天然ヲ摸擬スルコトハ器械的ニ爲スベキコトニシテ人ノ手が如何ニ巧ミニ摸擬スルモ何ソ寫眞師ト競争スルコトヲ得ンヤ寫眞ノ術進歩スルトキハ天然ヲ其ノ儘寫スコトヲ得ルモノナリ又近頃速カニ運動スル物ニテ肉眼ニ見能ハザル如キモノヲモ寫眞スルノ術發明サレタリ米國ニテ電氣學ニ有名ナルエヂモンハ空中ヲ飛ブ彈丸ヲモ寫眞スルコトヲ發明セリト云フ左レハ摸擬ノ術ハ後來器械的ノ術ニ譲リ畫工ノ技量ヲ表ハスハ尙ホ他ノ所ニアルガ如シ

第二繪畫ノ選擇——前ニ云ヘル如ク天然ニハ偶美麗ナルモノアリト雖モ又然ラザルモノアリ美麗ナルモノガ人ノ視覺ニ快樂ヲ與フルノ理由ハ後篇ニ譲リ爰ニハ畫工ガ天然中ノ美麗ナル所ヲ畫クカ或ハ然ラザルノ點ニ就テ一言セントスルノミ例ヘバ貧乏徳利ヲ畫カンヨリ古代ノ酒器ヲ畫クニ若カズ婀娜ナル藝妓ヲ畫カンヨリ優美ナル貴婦人ヲ畫クニ若カズ洋服着ノ勇士ヲ畫カンヨリ甲冑ヲ服セシムルニ若カズ夏樹鬱蒼ヲ畫カンヨリ秋山落葉ニ若カズ左レド貧乏徳利強チ不可ナルニ非ズ洋服着ノ勇士モ亦可ナリ夏樹鬱蒼ノ景モ亦畫クベシ甲モ可ナリ乙モ不可ナシト雖モ題目ノ可否ニ由テ繪ノ良否ノ幾分ヲ支配セラルコト疑フ可カラズ文學者ガ其ノ文ノ旨意ヲ撰ビ演說家ガ演題ヲ定ムルト等シク甚ダ大切ナルモノニシテ其ノ選擇ノ時ニ於テ後來ノ繪ノ出來不出來ノ幾分ヲ定ムルモノナリ左レハ是レ亦繪ヲ審査スルモノ、腦中ニ在リテ繪ノ巧拙ヲ定ムルノ一要素タルナリ

第三畫工ノ意匠——繪畫ノ繪畫タル所以ハ天然ヲ摸擬スルニ止マラズ即チ精神中ノ無形ノ觀念ヲシテ有形ノ物ト爲シ視覺ニ訴フルモノナリ詩人文學者ハ言

語ヲ以テ思想ヲ通ゼントス、是レ思想ヲ通ズルノ簡便ナル方法ニシテ又繪畫ノ及  
 パサル所アリト雖モ繪畫ハ思想ヲ他人ニ傳フルニ最モ壯快ニシテ且ツ諸人ノ解  
 シ易キ方法ナリト云フベシ此點ヨリ之ヲ觀ルトキハ繪畫ノ巧拙ハ其ノ物ガ天然  
 物ニ似タルヤ否ヤニ關セズ其ノ物ガ畫工ノ精神中ニアリテ言語ニ云ヒ現ハシ難  
 キ高尙ナル多クノ觀念ヲ現ハシ且ツ見ルモノ、精神中ニ多クノ高尙ナル觀念ヲ  
 惹キ起スヲ以テ標準ト爲スモノナリ、るすきん言ヘルコトアリ、曰ク「美術ノ廣大ナ  
 ルハ其ノ看客ノ精神ニ廣大ナル思想ノ最大數ヲ生ゼシムルニ在ルヤ或ハ天然物  
 ニ類似セシムルニ在ルヤ若シ後者ヲシテ果シテ眞ナラシメバ古來諸大家ノ手ニ  
 作リタル美術ヲシテ其ノ價值ヲ失ハシムルモノ甚々多シト云ハザルヲ得ズ美術  
 ニハ種々ノ目的アリ、或者ハ物ヲ敬ユルヲ以テ或者ハ人ヲ喜ベシムルヲ以テ或者  
 ハ天然ニ似セルコトヲ以テ或者ハ新工夫ヲ以テ各目的ト爲スコトナレドモ其ノ  
 目的ト方法ノ如何ナルヲ問ハズ精神中ニ廣大ナル思想ノ最大數ヲ生ゼシムルハ  
 即チ美術ノ廣大ナルコトノ要素ト云フベキナリト、是レ繪畫ノ最モ高尙ナル目的  
 ニシテ主觀的現象ノ客觀的ニ現ハル、モノナリ、尙ホ美術ヨリ來ル苦樂ノ性質ニ

付テハ次ノ章ニ明カナリ、

### 第十二章 美麗ノ學理

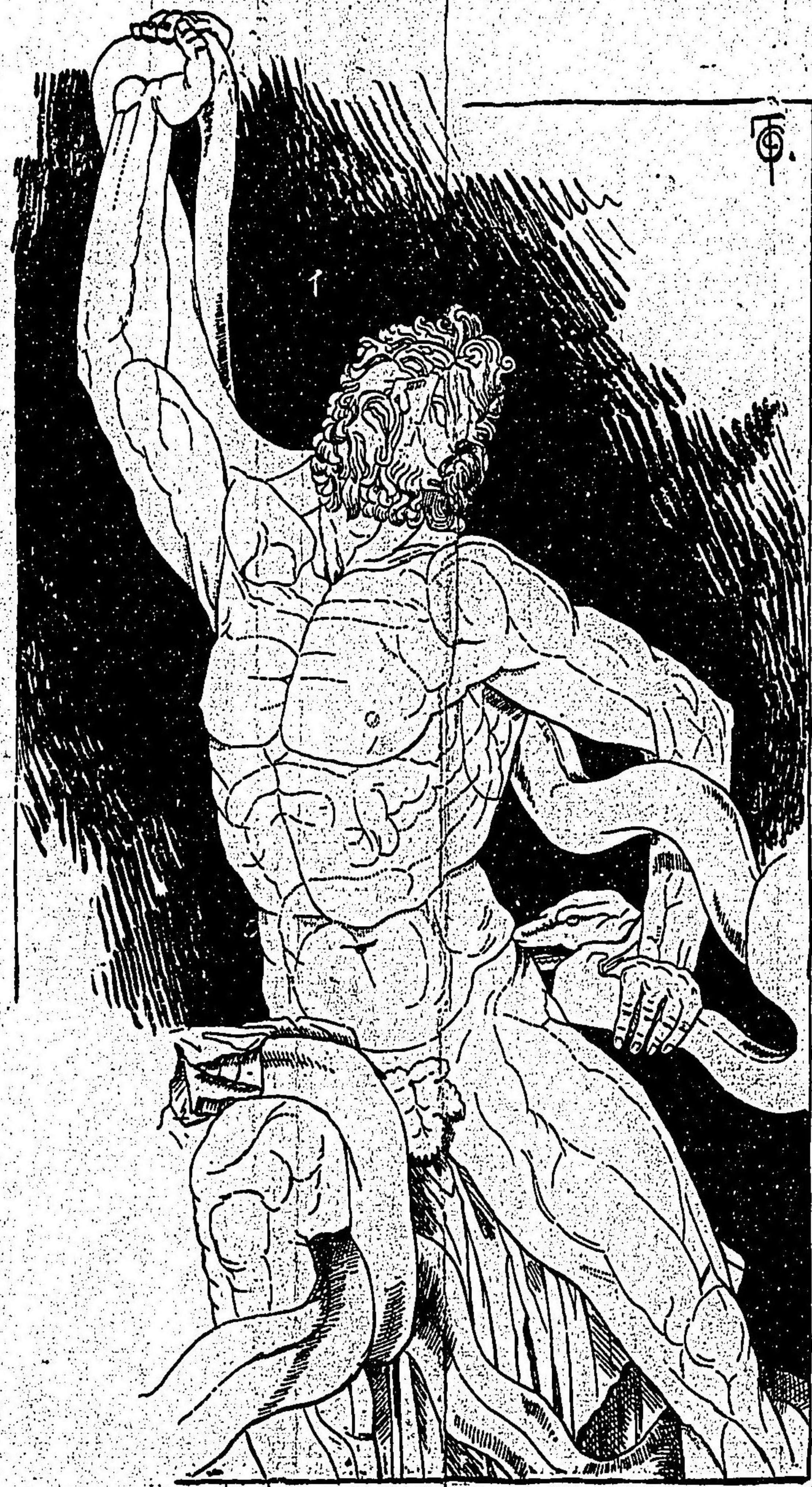
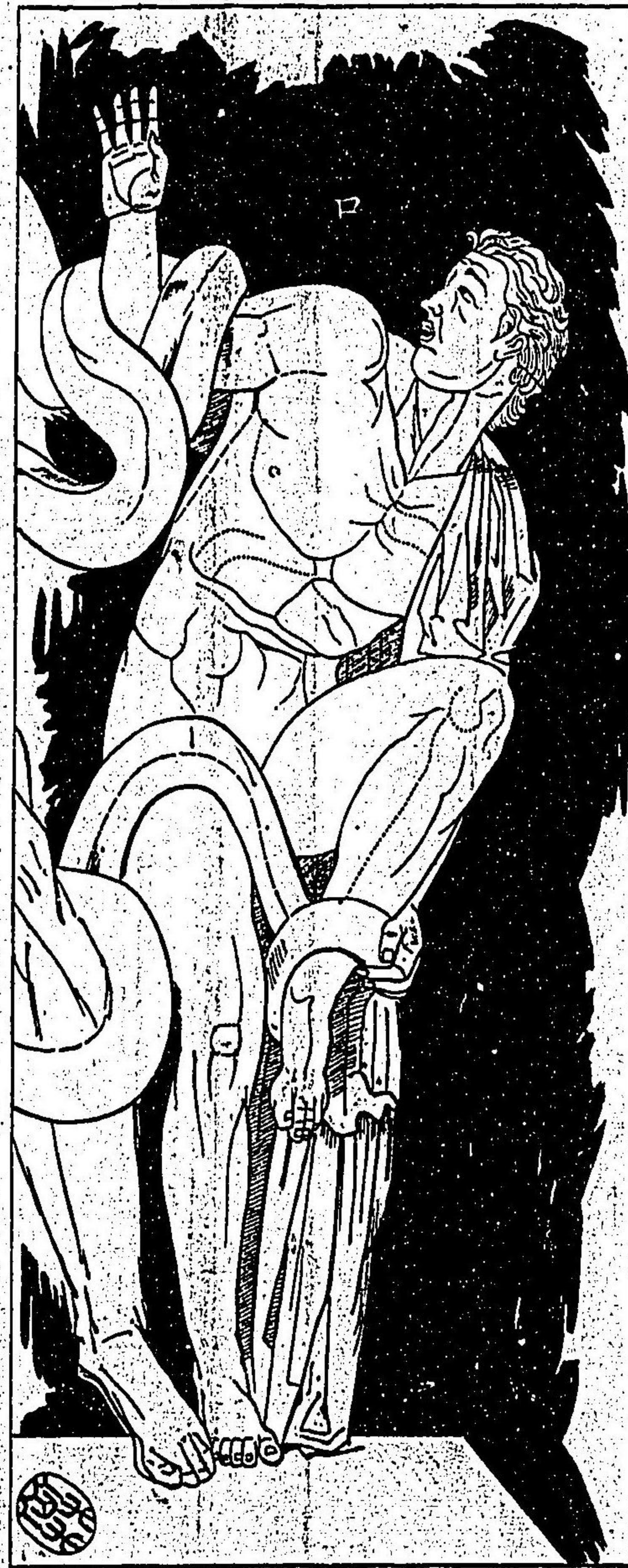
尙チ美麗ト云フ——世ノ中ニ美麗ナルモノト美麗ナラザルモノアリ、美麗ナル  
 モノヲ見レバ快樂ノ感ヲ生シ美麗ナラザルモノハ不快樂ヲ惹キ起ス、而シテ我等  
 其ノ快樂ナルト不快樂ナルトヲ感ズルト雖モ美ノ美タル所以ヲ知ルモノ甚々少  
 ナシ、蓋シ美ノ感覺ハ甚々複雑ナルモノナレバ從テ之ヲ組ミ立ツル要素モ亦甚々  
 多シ、然リ而シテ美ノ感覺ハ鋭ナルガ如ク又鈍ナルガ如シ、其ノ要素ノ二三ヲ増減  
 スルトキハ直チニ之ヲ知ル能ハス、然リト雖モ又一ノ要素タモ之ヲ缺クトキハ知  
 ラズ識ラズ不完全ナルコトノ感覺何時シカ腦中ニ入リテ美ノ感覺ヲ損フモノナ  
 リ、斯ノ如クナルガ故ニ美ナルモノト美ナラザルモノトノ間ノ區別甚々漠然トシ  
 テ定ムル能ハズ、唯、我等ハ其ノ極端ニ於テ美ナルモノト美ナラザルモノトヲ知ル  
 モノナリ、而シテ美ノ感覺ガ快樂ヲ生ゼシムル所以ノモノハ其ノ數多シト雖モ之



ヲ大別スルトキハ左ノ三要素中ニ含有セラル、モノナリ、第一眼球筋肉ノ感、第二  
 色ノ調和、第三同伴法ニ由テ惹キ起サレタル主觀的ノ觀念是レナリ、  
 眼球筋肉ノ感——第一眼球筋肉ノ感ハ前キニ第二章平面ノ知覺論ヲタル如ク  
 眼ニ由テ物ヲ見ルトキハ網膜ノ中央小窩ガ運動スルコトニ由テ廣キ平面ヲモ明  
 カニ見ルコトヲ得ルモノナリ、故ニ眼ノ筋肉ノ感覺ガ視覺ニ結合シテ分ツベカラ  
 ザルヤ明カナリ、又幻影ノ章第十五圖ニ於テ論シタル如ク短キ線ガ長キ直線ヲ橫  
 切ルトキハ眼ガ長キ直線ニ添フテ運動スルニ妨グテ與ヘ其レガ爲メニ平行線ヲ  
 シテ平行ナラザルガ如クニ見セシムルモノナリ、是ヲ以テ之ヲ觀レバ我等ガ物ヲ  
 見ルコトハ眼ハ絶ヘス運動シ且ツ見ルモノ、像チニ由テ眼ノ運動滑カナルモノア  
 リ、又然ラザルモノアリ、而シテ運動滑カナルトキハ感覺モ亦愉快ニシテ運動滑カ  
 ナラザルトキハ之ニ反スルモノナリ、斯ノ如ク眼ノ運動ノ滑カナルト、滑カナラザ  
 ルトニ由リテ快樂ト不快樂ノ差別アルハ恰モ手ニテ物ニ觸ル、トキハ其ノ物ノ  
 表面ガ滑カナルト然ラザルニヨリテ快樂ト不快樂ノ差アルガ如シ、  
 筋肉ノ働キ——然レバ眼ノ筋肉ト其ノ運動ノ關係ヲ尙ホ明カニセザルヲ得ズ、

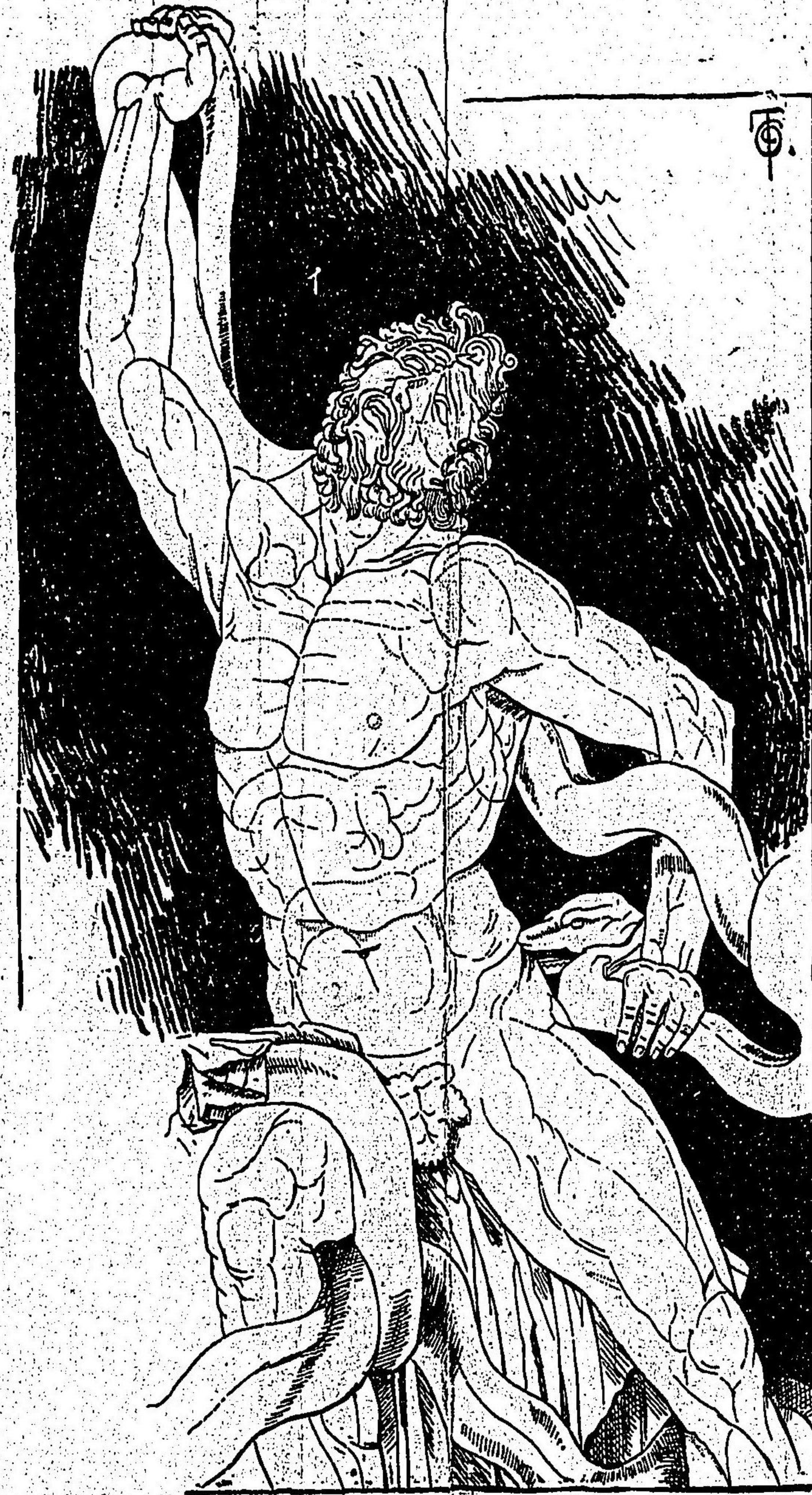
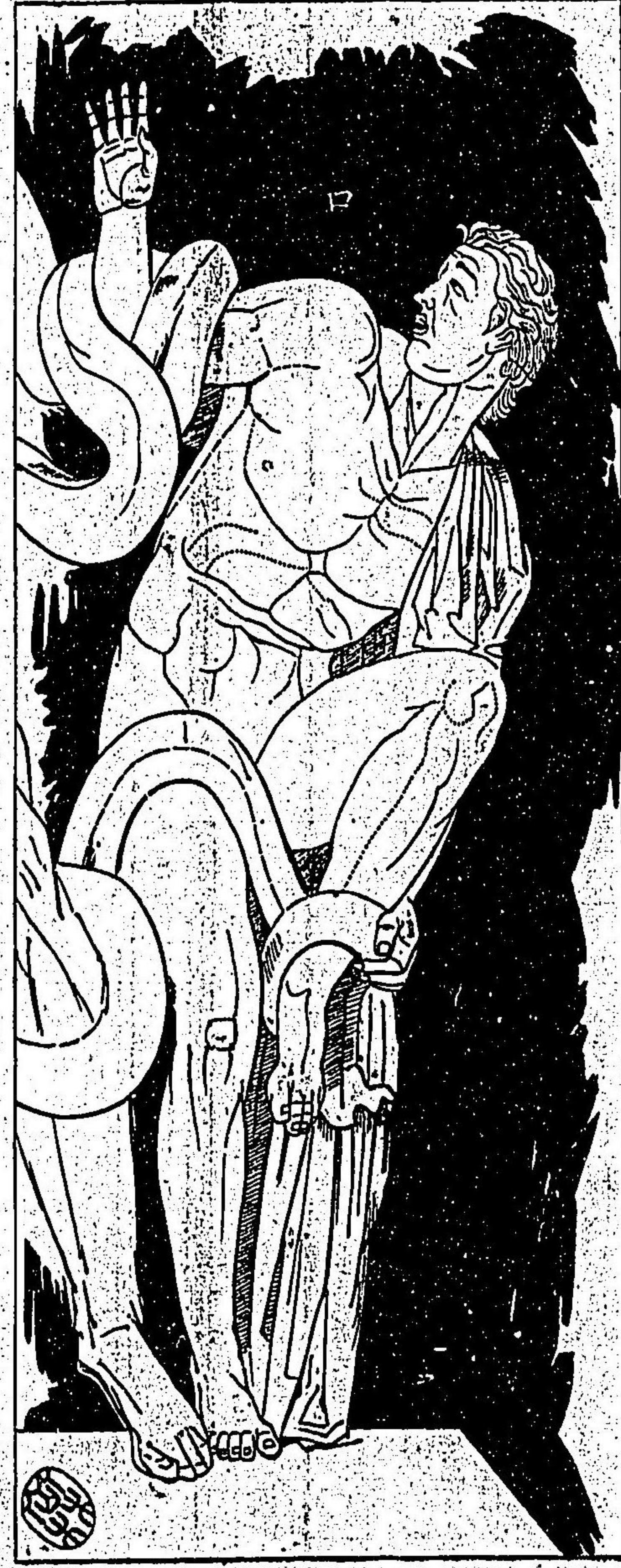
第二十六圖





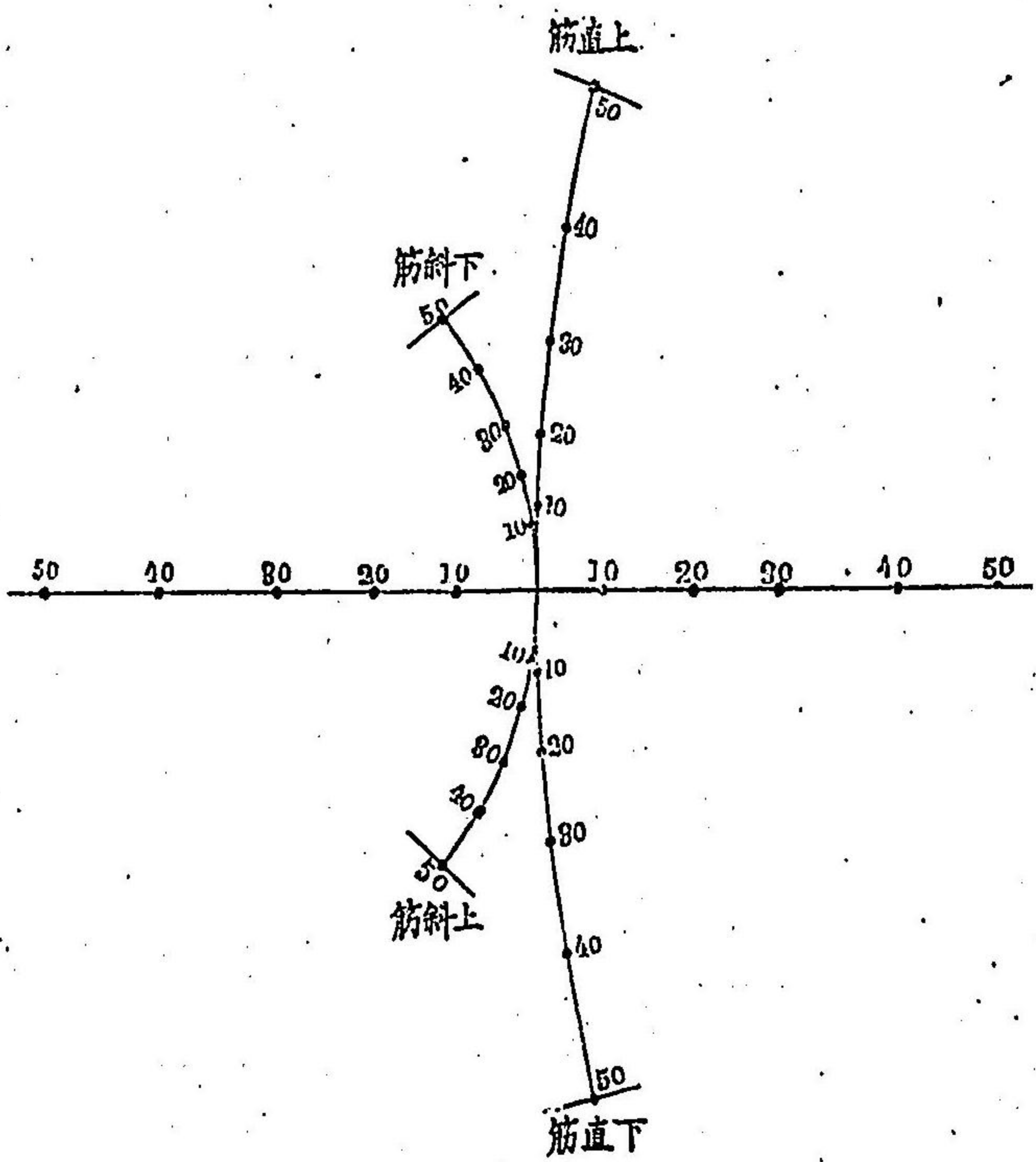
第二十六圖

シテ平行ナラザルガ如ク見セシムルモノナリ、是ヲ以テ之ヲ観レバ我等ガ物ヲ  
 見ルコトハ眼ハ絶ヘス運動シ且ツ見ルモノ、像チニ由テ眼ノ運動滑カナルモノア  
 リ、又然ラザルモノアリ、而シテ運動滑カナルトキハ感覺モ亦愉快ニシテ運動滑カ  
 ナラザルトキハ之ニ反スルモノナリ、斯ノ如ク眼ノ運動ノ滑カナルト滑カナラザ  
 ルトニ由リテ快樂ト不快樂ノ差別アルハ恰モ手ニテ物ニ觸ル、トキハ其ノ物ノ  
 表面ガ滑カナルト然ラザルコトヨリテ快樂ト不快樂ノ差アルガ如シ、  
 筋肉ノ働キ——然レバ眼ノ筋肉ト其ノ運動ノ關係チ尙ホ明カニセザルヲ得ズ、



抑モ眼球ヲ運轉サスルニハ一眼球ニ六個ノ筋肉アリ、内外、上下直筋及ヒ上下斜筋  
是レナリ、此六個ノ筋肉共ニ合シテ眼球ヲ運轉セシムルモノナリト雖モ之ヲ三對  
ニ分ツ、上下直筋、内外直筋及ヒ上下斜筋是レナリ、今假リニ其ノ一對ノ筋肉ヲノミ  
殘シテ他ノ筋肉ノ働キヲ止メ始メニ上下直筋次ニ内外直筋次ニ上下斜筋ヲ別々  
ニ働カシメ而シテ網膜ノ中心ト眼球ノ中心ヲ通シテ一ノ想像線ヲ引キ其ノ線ヲ  
紙ノ表面ニ達セシメ又想像線ノ先キニ筆ヲ付ケテ紙ノ表面ニ眼ノ運轉ヲ記セシ  
ムルトキハ右ニ云ヘル各對ノ筋肉ノ働キニ由テ左方ノ一眼球ヲ運轉セシメタル  
ノ結果ハ第二十三圖ニ見ユルナリ、眼ノ運轉スル所ノ如キモノナレバ地平ニ添フ  
テ眼ガ左右ニ運動スルハ直線ナルガ故ニ滑カニシテ易シ、蓋シ是レ内外直筋ノ働  
キノミニ由ルモノナリ、然リト雖モ鉛直線ヲ見ルニハ上下斜筋及ヒ上下直筋共ニ  
働カザルヲ得ズ、故ニ少シク繁雜ナルモノナリ、然レトモ鉛直線ヲ見ルニハ兩眼ノ  
働キ相合スルガ故ニ互ニ釣り合フテ之ヲ見ルニ便ナラシムルモノナラン、然リ而  
シテ地平線ニモアラズ又鉛直線ニモアラズ、家ノ軒ノ如ク或ハ天井ノ線ノ如ク高  
キ所ニアル直線ヲ見ルニハ眼ノ運動甚ク複雜ナルモノナリ、概シテ之ヲ云ヘバ斯

圖三十二第

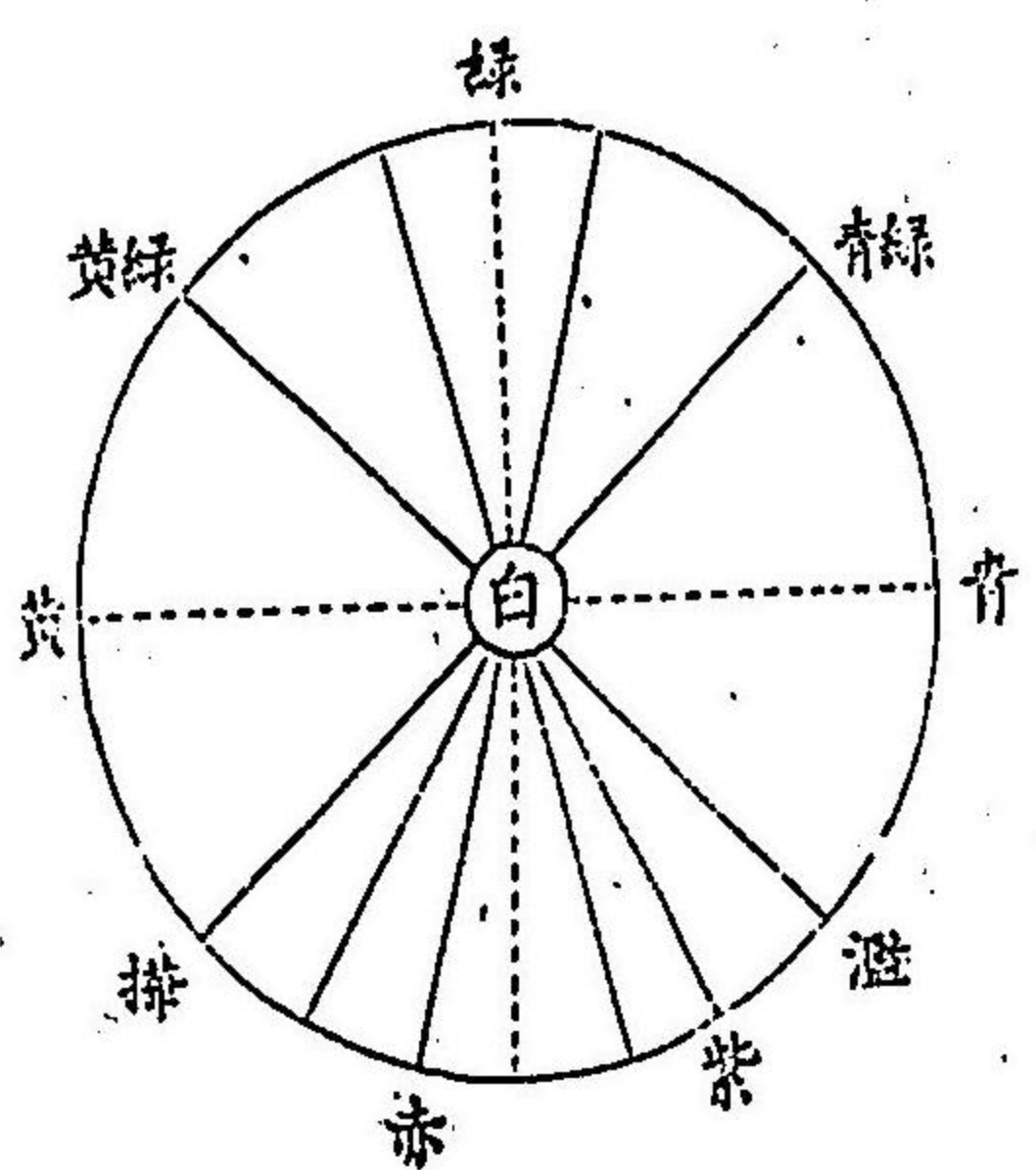


ノ如キ所ニアル線ハ直線ヨリモ僅カ曲線ニナリタルモノヲ以テ最モ麗ハシトス、是レ眼球ノ運動スルニハ直線ニ添フヨリモ僅カ曲線ニナル所ニ於テ最モ滑カナルガ故ナリ、其ノ他並行シタル線ヲ見ルハ快樂ニシテ不規則ナル線ヲ見ルハ不快樂ナリ、是等ハ一々分析シテ其ノ快樂ナルト不快樂ナルノ原因ヲ彼ノ筋肉ノ感覺ニ求ムルコト難キニ非スト雖モ

此書ニ於テ爲シ能ハザル所ナリ、

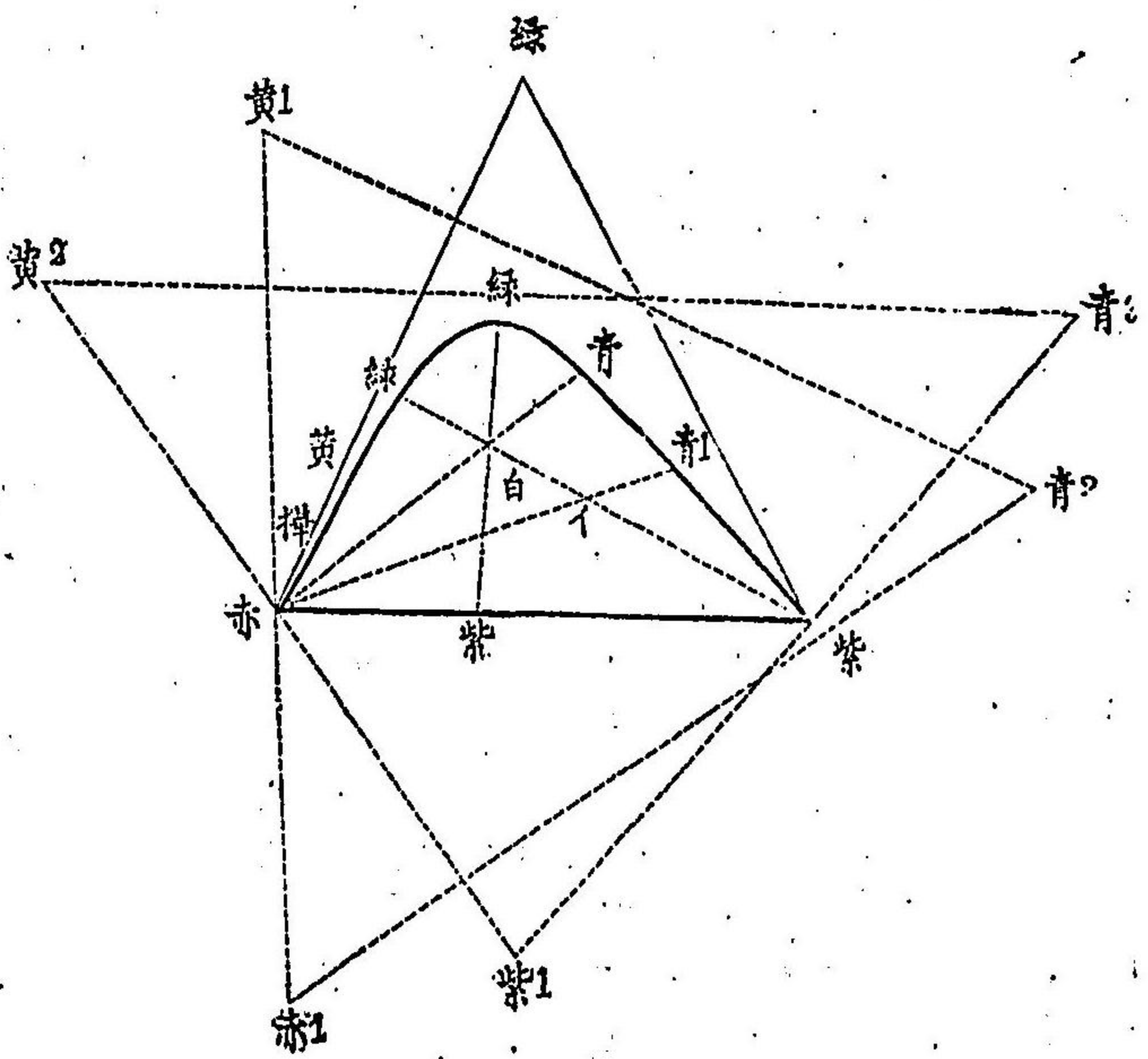
第二、色ノ調和——色ノ調和ニ就キテハ之ヲ分析シテ其ノ學理ヲ見出ダスコト甚ダ難シ、未ダ此學理ヲ見出ダセシ人アラズ、唯、經驗的ニ種々ナル色ヲ交ヘテ畫工ガ繪ヲ彩色シ、婦人ガ身ヲ飾ルニ於テハ實驗的ノ暗指ナキニ非ス、例ヘバ黒ト青ノ如ク、白ト黒ノ如ク、青ト金色ノ如ク、深紅ト靛ノ如ク、青ト靛ノ如キハ殆ント完全ナル調和ナリトハ婦人ノ身ヲ飾ルニ就キテ云ヘルコトナリ、然レドモ其ノ學理ニ至リテハ他日ノ發明ヲ俟タザルヲ得ズ

圖四十二第



數色混合ノ法——色ハ其類多シト雖モ是レ皆彼ノ白色ヲ分析シタルモノニシテ總テ之ヲ合スルトキハ復タ元ノ白色トナル、而シテ第二十四圖ハ輪ノ中心ヲ白トシテメ輪ノ周圍ニ種々ノ色ヲ置キ相對スル色ヲ合スルトキハ常ニ白色ヲ生スルコトヲ表ハシタルモノナリ、而シテ第二十五圖ハ

第二十四圖



第二十四圖ト同理ヲ示スモノ  
ナレトモ少ク精密ナルモノ  
ナリ、例ヘバ赤、緑、紫ノ三角ハ此  
三色ヲ合スレバ白色ヲ生スル  
コトヲ表ハシタリ、而シテ中央  
ノ白ノ所ヨリ其ノ距離ノ大小  
ハ其ノ色が白色ヨリ異ナルノ  
度ヲ表ハシタルモノナリ、而シ  
テ此三角ハ理想的ニ造リタル  
モノナリト雖モ實際太陽ノ光  
線ヲ七色ニ分ツトキニ緑、青ノ  
如キハ赤、紫ヨリモ大ニ白色ニ  
近シ、故ニ彼ノ三角ハ變ジテ圖  
ノ如キ曲線トナル、而シテ赤ト

青或ハ緑ト紫ト合シテ白ヲ爲スモノナリ、其ノ混合ノ度ニ至テハ左ノ比例ニ由テ  
之ヲ知ルベシ

此式ニ於テ青、白、赤、白、赤、及ヒ青ヨリ白マデノ長サヲ表ハ  
シタルモノナリ(以下準之)而シテ又管ニ白色ヲ生スルノミナラズ今假リニ(イ)ナル  
點ヲ取り赤ト青ヲ青(イ)ト赤(イ)ノ割合ニ合スルトキハ恰モ緑ト紫ヲ紫(イ)ト緑(イ)ノ  
割合ニ合シタルト同シ、色ヲ生ズ、其ノ色ハ白色ヨリ少シ、紫ニ近キモノナリ、其ノ他  
此理ヲ以テ混合スルトキハ如何ナル色ト雖モ生ジ能フナリ、又他ノ點線三角ハ想  
像的混合ノ割合ヲ表ハシタルモノナリ、是等ノ如キハ或ハ後日色ノ調和ヲ發見スル  
ノ基本トナルヤモ計リ難シ、故ニ爰ニ記ス、

第三、同伴法ニ基ク觀念——同伴法ニヨリテ惹キ起サレタル主觀的ノ觀念ニ就  
キテハ繪畫ノ章ニ於テ既ニ云ヘル如ク我等美麗ナルモノヲ見ルトキ其物ト同伴  
法ノ働キトノ結合ニヨリテ主觀的ニ種々ナル觀念ヲ惹キ起スモノナリ、而シテ觀  
念ノ結合ハ各自ノ過去ノ經驗ニ基スル者ナルガ故ニ同シ、物ヲ見テモ甲ノ精神ニ  
現ハル、觀念ト乙ノ精神ニ現ハル、觀念トハ全ク同シキコト能ハズト雖モ又一

方ヨリ考フルトキハ人ノ精神ノ構造ニ於テハ定限アルモノナレバ高尙ナル繪畫或ハ彫刻ヲ見ルトキハ自然精神中ニ惹キ起サル、快樂ハ甲ニモ乙ニモ大差異アルコトナシ、素ヨリ甲ノ快樂ト乙ノ快樂ヲ比較スルコトハ決シテ能ハザルコトナリト雖モ其ノ快樂ヲ概括シテ之ニ一名ヲ與フルヲ得ル程ハ相似ルモノナリ、其ノ感覺ヲ稱シテ美妙ノ感ト云フ然リ而シテ演劇或ハ小説ニ於テ現ハル、感覺ハ必スシモ喜バシキコトノミニ非ズ、悲哀アリ、失望シタル愛情アリ、及ビ暗殺等アリテ是等ノ事柄ヲ其レノミ考フルトキハ悲ムベキコト、雖モ之ヲ演劇小説トシテ表ハストキハ亦看客ノ精神中ニ一種ノ快樂ヲ惹キ起スモノナリ、是レ決シテ演劇小説ニノミ止マルコト非ズ、美術一般ニ普通ノ感覺ナリ、故ニ美術ニ於テハ皆ニ喜ハシキコトノ感覺ノミナラズ、悲哀、驚愕、恐怖等其ノ類ノ如何ナルヲ問ハズ、與深ク且ツ多量ノ感覺ヲ惹キ起スヲ以テ美術ノ高尙ナルモノトス、第二十六圖ヲ以テ之ヲ説明セントス

らあこんノ事——之レハらあこんと稱シテ希臘ノ神代記ニ出ツル人物ナリ、彼ハ「アポロ」神ノ祭司ナリシガ不正ノ婚姻ヲ爲シタリ、其ノ兩側ニアルハ其ノ妻ニヨリ

ヲ得タル二人ノ子供ナリ、彼レ一日其子ト共ニ宮ノ前ニ在リ祭ヲナサントセシトキ大蛇來リテ彼レ等ニ纏ヒタレバ、彼レト其ノ次男ハ之ガ爲メニ生命ヲ失ヘリ、此話ハ甚ダ高名ナルコトニシテ其レノミヲ記シタル一冊ノ書物サヘアリ、而シテ羅馬ノ隆盛ナル時代ニ之ヲ大理石ニ彫刻セリ、此圖ニ出セシハ其ノ彫刻ヲ復寫シタルモノナリ、之ニハ種々看者ノ注意ヲ惹クベキ點アリ、

抑、此らあこんハ蛇ニ捲カレテ左ノ手ヲ以テ之ヲ除キタレドモ力大ニ弱リテ最早之ニ抵抗スルノ勢ヒ無クナリタル有様ハ其ノ顔ノ容貌及ビ全身ノ像ヲ(二十六圖イ)ニ由テ見ラル、ナリ、長男(ロ)ハ勢力未タ弱ラズ足ヲ捲キタル蛇ヲ取り去リ殆ント其災難ヲ逃ル、ニ至リタレドモ自分ノ父ト弟ガ蛇ノ爲メニ最早死ナントスル有様ヲ見テ大ニ怖レ慄キ聲高ク叫ビ居ル有様ナリ、又次男(ハ)ハ蛇ニ捲カレテ最早免カル、ノ道ナシト雖モ未タ父ノ如ク弱ラズ尙ホ免レントノ望ミヲ以テ抵抗シ居ルナリ、然リ而シテ次男ノ右手ハ元物ニ非スシテ其ノ缺ケタルモノヲ後ニ補ヒタルモノナレバ其彫刻者ノ元ノ思想ト或ハ違ヘルコトナラン、看者其ノ手ノ拙ナキヲ見テ之ヲ了解スベシ、

らあこんヲ見テ發スル感覺——此彫刻ノ思想夫レ斯ノ如シ其ノ有樣實ニ見ル  
 モ恐ロシ且ツ誰ニテモ若シ斯ノ如キコトニ出逢フトキハ或ハ氣絶スルヤモ計リ  
 難シ斯ノ如クナルガ故ニ此ノ彫刻ヲ見ルモノ、精神中ニハ實ニ恐ロシク且ツ不  
 愉快ナル感覺ヲ生ズベキ筈ナルニ之ニ反シテ美妙ノ快樂ヲ惹キ起スハ何故ナ  
 ル乎一説ニ由レバ總テ他人ガ殺サレ或ハ害サレ或ハ苦ミ居ルヲ見テ快樂ヲ生ズ  
 ルハ畢竟私慾心ニ基スルナリト云フ何トナレバ人ノ身ト己レノ身ヲ比較シ人ハ  
 斯ノ如ク苦ムニモ拘ラズ己レハ其ノ危難ニ逢ハズシテ害サレザルコトヲ思フテ  
 快樂ノ感覺ヲ有スレバナリト然レドモ人ハ左マデニ私慾的動物ニ非ズ此彫刻ニ  
 關シテハ己レノ損害ヲ受クルト受ケザルトニ關セズ多量ノ觀念活動スルニヨリ  
 テ快樂ヲ生ズルモノナラン曾テ佛蘭西ノ碩學バサカール言ヘルコトアリ曰ク「人ハ  
 平和ヲ求ムルガ如クニ思ヘドモ其實ハ騷擾ヲ求ムルモノナリ」ト其ノ意最モ深シ  
 人ハ活動物ニシテ又活動ヲ好ムモノナリ而シテ五官ノ活動ハ起リ易クシテ又直  
 チニ過キ去ルモノナリ觀念ノ活動ニ至テモ種々ノ階級アリ下等ノ快樂ニ就キテ  
 想像スルモ一種ノ活動ナリト雖モ最モ高尚即チ理想的ノ觀念ノ活動ヲ精神中ニ

惹キ起スハ美術ノ最モ高尚ナルモノナリ唯美術ノ美術タル要素ハ言語ニモ表ハ  
 ス能ハス又身振りニモ表ハス能ハザル精神ノ高尚ナル理想ヲ物質的ノ像チニ發  
 表シ看者ノ精神中ニ同様ノ感覺ヲ生ゼシムルコトナリらあこんハ即チ言語ニ言  
 ヒ能ハサル神罰ノ恐ロシキコト及ヒ精神ノ苦痛等ヲ能ク表ハスモノナリ

第十三章 「リズム」

万物皆「リズム」アリ——世界ノ萬物一トシテ「リズム」ヲ有セザルハナシ天脈ノ運  
 動ヨリ小分子ノ運動ニ至ルマテ全ク滑カナル運動アルコトナシ古人ハ天脈ノ運  
 動ヲ以テ全ク滑カナルモノト爲シ之ヲシテ完全無缺ナルコトノ適例ト爲サソコ  
 トチ試ミタレドモ星學ノ進歩スルニ隨ヒ天脈ノ運動ハ其軌道ヲ運動スル中ニ始  
 終彼ノ波ノ如ク震ヘル所ノ運動之ニ同伴ス又古來光線ハ純一ナルモノ、如ク考  
 ヘタレドモ現今ノ物理學者ノ説ニ由レバ精氣ノ波動ヨリ生ズルナリト云フ又音  
 響ハ空氣ノ波動ニ基ス我等ガ手ニ觸ル、所ノ物質中ニテ休ミ居ル固形脈ノ如キ



ハ全ク運動ナキニ似テレドモ現今ノ物理學者ノ説ニヨレバ分子ノ見ル可カラザル波動アリテ其ノ形ヲ保存スルモノナリト云フ斯ノ如ク波動ハ物體ノ存在及ヒ運動ノ基本トナルモノナリ此ノ波動ヲ指シテ「リズム」ト云フ左レバ「リズム」ハ世界万物ニ普通ナル法則ト云フモ不可ナカルベシ

精神ノ「リズム」——抑モ精神ノ現象ハ物質世界ノ現象ト比較シテ種々區別スベキ點アリ然レドモ「リズム」ノ法則ニ至リテハ物質世界ト精神世界ノ區別ナク萬有ノ存在一トシテ此法則ヲ逃ル、モノナキガ如シ人ノ精神ノ活動スルヤ決シテ始終一様ニ活動スルモノニ非ズ既ニ第一章ニ於テ論ヲタル如ク精神現象ノ根本ハ五官ヨリ入來ル無數ノ刺激ニ基クモノナリ然リ而シテ今精神ノ「リズム」的性質ヲ明カニ知ラント欲セバ二枚ノ色硝子ヲ取リ(例ヘバ一ハ赤色他ノ一ハ青色ノ如シ)之ヲ兩眼ニ當テ明ルキ方ヲ見ルトキハ諸物一時ハ赤ク見ヘ數秒ノ後青赤混合シテ見ヘ又數秒ノ後凡テ青ク見ヘ又赤ニ變スルナリ是ヲ以テ之ヲ觀レバ我等兩眼ヲ以テ物ヲ見ルトキハ兩眼同等ノ働キヲ爲スモノニ非ズ右ノ目ノ力強キコトアリ又左ノ目ノ力強キコトアリ斯ノ如ク兩眼互ニ争フガ如ク或ハ兩眼互ニ補フガ如ク

ク甲ト乙ト秒々相交代スルヲ知ル蓋シ此兩眼アルハ各互ニ相助クルノ便利アルモノナラン又我等音響ヲ聞クニ種々ノ調音ガ「リズム」ヲ爲シテ耳ニ入ルトキハ音樂ノ快樂ヲ生ズ又物ヲ食スルニ當リテ如何ニ美味アルモノモ唯、其レノミヲ食スルトキハ或ハ其ノ快樂ノ感ヲ失フコトアリ故ニ種々ナル味ヒ相混シテ始メテ愉快ヲ生ズ又我等ノ筋肉收縮スルニ就キテモ筋肉ガ絶ヘズ收縮シ居ルトキハ疲ル、コト甚ダ速カナリ然レトモ伸縮相和スルトキハ快樂ヲ覺ユルナリ彼ノ舞蹈及ヒ行軍ノ快樂等ハ之ニ基スルコトナラン音樂ノ舞蹈或ハ行軍ト相離レザル豈ニ偶然ノコトナランヤ蓋シ是等ハ皆其ノ類ハ異ナリト雖モ其ノ「リズム」ノ法則ニ從フ點ニ至リテハ同一ノモノナレバナリ精神ノ「リズム」的活動斯ノ如シ而シテ其ノ性質ヲ試験的ニ定メント試ミタルニ其ノ結果左ノ如シ

注意ノ「リズム」——第一注意ノ「リズム」ニ就キテらんげーノ爲シタル試験ニ由レバ注意ノ浮沈スルハ三四秒毎ニアリ然リト雖モ感覺ノ類ノ異ナルニ由リテ其ノ浮沈ノ時間ニモ僅カノ差異ヲ生ズ而シテ又此「リズム」ハ惟ニ注意ニ止マラズ此浮沈ト同伴シテ記憶ノ「リズム」アリ精神ニ外物ノ知覺ヲ得ルヤ其レガ爲メニ幾分

ノ精神力ヲ費スガ故ニ其ノ知覺ヲ受ケタル後チハ暫時記憶力少シク衰ヘタル有様ニテ殆ント四秒ノ後チ少シク其ノ力ヲ回復シ爲メニ前ニ得タル知覺ハ記憶トナリテ再生シ再ビ意識中ニ現ハレ又沈ミ殆ント八秒ノ後チ再ビ意識中ニ浮ビ出テ又沈ム全躰ニ云ヘバ時間ヲ經ルニ從ヒテ再生スル印象ハ其ノ明白ナルコトノ度ヲ減スルト雖モ右ニ云ヘル如ク浮キ或ハ沈ミ即チリズム的ニ現ハルモノナリ(第十七章ヲ參考スヘシ)

文學トリズムハ文學ノ進歩ニ大關係ヲ有スルモノナリ文學ノ始メテ世ニ出ツルヤ散文ヲ以テ先トスル乎韻文ヲ以テ先トスル乎世人ハ韻文ノ散文ニ先ツコトヲ知ル韻文ト散文ノ區別何所ニアル乎散文ニハリズム明カナラズ韻文ニハリズム明カナリ故ニ韻文ハ文學上ノリズムナリ又我邦ニ於テ讀書スルトキ一樣ノ音聲ヲ以テ讀書スルモノナシ其聲或ハ高ク或ハ低ク自儘勝手ノリズムヲ以テ暗誦スルモノナリ而シテ其ノ故如何ヲ問フニ一樣ナル音聲ヲ以テ音讀スルトキハ直チニ疲ルト雖モリズムヲ以テ音讀スルトキハ長ク疲レザルモノナリト云フ

和歌トリズム——西洋ノ詩ニリズムアリ和歌ニモ亦リズムアリ西洋ノ詩ニ現ハルリズムハ素トギリシヤ及ヒラテソ文學ニ始マリ歐米ノ韻文ニ至リテ種々ナルリズム發達セリ其ノ基ク所ハ言語ノ音節(アクセント)ニアルナリト雖モ日本語ニハ音節甚ク少ナシ而シテ其ノ音節ハ地方ニヨリ又人々ノ習慣ニヨリテ違フモノナリ例ヘバ「カキ」ト云フニ柿モアリ鯛モアリ垣モアリ又東京ニテハ火氣モ同音ニテ呼ブナリ是等ノ言葉ハ話ノ前後ニヨリテ其ノ意ハ解サルナリト雖モ其ノ一言ノミヲ別ニ離シテ語ルキニハ東京人ノ柿ハ西京人ノ垣ナリ又東京ノ火氣ハ西京ノ鯛ト相混スル如キ憂ナキ能ハズ是レ日本語ニ一定ノ音節ナキガ故ナリ書ヲ讀ミ歌ヲ詠ズルニ至リテハ各自ノ好ミニ任セテ種々様々ノ音調ヲ用ユ然レモ概シテ之ヲ云ヘバ音節ノ變化甚ク少ナクシテ亦一定ノ法則ナキガ故ニ此點ヨリリズムノ性質ヲ研究スルコト難シ然レドモ和歌ニハ五文字七文字ノ法アリテ一種ノリズムヲ作セリ抑モ和歌ノ五文字七文字ハ數學ノ規則ノ如ク又論理ノ法則ノ如ク機械的ノモノニ非ズ種々ニ變化シ得ベキモノニテ五七七七三十一文字ノ歌ノ如キハ種々ナルリズム中ニ於テ一種ナルノミ而シテ五七七五ノ發句ノ

如キ又三十一文字ノ歌ノ如キ簡單ナル「リズム」ガ本邦ニ發達セシハ蓋シ偶然ノ事ニハ非ルベシ、本邦人衣食住ヨリ美術、文學、宗教、風俗ニ至ル迄、淡白ナラザルハナシ、豈ニ特リ和歌ノ「リズム」ノミナランヤ。

和歌「リズム」ノ發達——然リ而シテ本邦ノ歴史ニ溯リテ其ノ發達ノ順序ヲ考フルニ古事記、日本紀等ノ歌ハ種々様々ニテ管ニ三十一文字ノ規則ニ違フノミナラス五、七ノ規則ニモ違フコト屢ナリ、例ヘバ「イマハヨ、イマハヨ、アハシヤチ、イマダニモアゴヨ、イマダニモアゴヨ」(日本紀)ノ如キハ今日之ヲ讀ム人殆ント其ノ意ヲ解セズ何ソ精神ニ快樂ヲ與ヘンヤト怪シム人少ナシトセズ、然リト雖モ古人ニモ亦「リズム」ノ感覺アリ、謠ヒテ悦ビ、悦ビテ踊リタルハ歴史ノ判然我等ニ告グル所ナリ、然レバ今世ノ人古歌ヲ讀ミテ快樂ヲ感セザルハ古歌ノ拙ナルコノミ歸スル能ハザルヤ明カナリ、古人ハ之ヲ如何ナル音調ニテ謠ヒタルヤ今日其ノ「リズム」ノ性質ヲ知ラズ、何ソ其ノ歌ヲ評スルヲ得ン。

是ニ由リテ之ヲ觀レバ本邦ノ歌ト雖モ古代ニアリテハ五文字、七文字ニ限リタルニ非ズ、三文字アリ、四文字アリ、六文字アリ、又十一文字ノ句モ無キニ非ズ、之ヲ見

テ或ハ古歌ニ一定ノ「リズム」ナキチ尤ムル人ナキニ非ズ、斯ノ如キハ「リズム」ニ五、七ノ外類ナシト思フヨリ來ルコトナリ、然リト雖モ素ヨリ「リズム」ニハ種々アリ、最も簡單ナルモノハ僧侶ガ木魚ヲ打ツトキノ如ク又小兒ガ音讀スルトキノ如ク高音ト低音ト(低音ハ時々無音ノ「アル」ベシ)引キ續キテ發スルモノナリ、又一音ト二音引キ續キ線返ス「ア」リ、又二音ト三音ノ「リズム」アルナリ、本邦言語ノ如キハ二音或ハ三音ヨリ成ルモノ最も多シ、而シテ偶々四音ノ言葉ハ二音ノ合シタル者ナリ、ニ加フルニ國語固有ノ「ア」チハ「ア」リテ言語本脉ニ加ヘテ別ニ「一二三」或ハ四ノ音聲ヲ生ズ、散文ニハ何々スルモノナリ、歌ニ於テハ何々ナルラン等ノ如シ、是等ノ言葉相合シテ五文字或ハ七文字ノ結合脉ヲ爲スト雖モ其ノ結合脉ヲ尙ホ小分サルトキハ五文字ト雖モ「一二三」或ハ「二二二」一ノ如ク分ルナリ、七文字モ亦小分サルナリ、今素盞鳴尊ノ歌ヲ以テ之ヲ例セヨ、ヤクモタツ「ハ、イヤ、クミ、タツ、トナル、イツモヤハカキ」ハ三四ニ分ル、而シテ八音短ハ四文字ナレドモ其レハ「ヤヘト」カキトヨリ成ルモノナレバ此四ハ「二二二」ニ分ル、ナリ、ツマ、コメ、コ「ハ二二二」トナル、ヤハカキ、ツク「ハ二二二」トナル、ソノ「ヤハカキ」チ「ハ二二二」トナル、故ニ我等之ヲ讀ムトキ一様

ノ音聲ヲ以テ讀ミ或ハ又其ノ句切り宜シカラザルトキハ其ノ意ヲ解セズ或ハ又大ニ其ノ意ヲ誤ルコトアルナリ左レバ一文字二文字或ハ三文字毎ニ多少ノ句切りヲ爲シテ讀ムコトヲ要ス而シテ五七ノリズムハ基礎ハ一二三ノリズムニアルナリ故ニイマハヨナル四文字句ノ如キハ今者與イマハヨナル二一ト分ルナリ又クメノコラガ即チ久米之子等ガナル六文字句ハ二一二トナル斯ノ如ク四文字ノ句アリ六文字ノ句ハ五文字七文字ノ法ニ合セズト雖モ是等ハ單一ナルリズムヨリ成リタルモノニシテ敢テリズムノ法則ニ違フモノニハアラザルナリリズムノ性質夫レ斯ノ如シ而シテ現今西洋ノ音樂本邦ニ入り來リシ以來日本ノ言葉ヲ西洋ノ符ニ合ハセン爲メハ五文字七文字ノ法則ヲ守ル能ハズ三文字四文字及ヒ其ノ他ノ句ヲ生スルノ必要アルナリ且又萬葉集及ヒ古今集中ノ純然タル和歌中ニモ六文字或ハ八文字ノ句ニ出逢フコトアルナリ和學者ハアイウエオハ一字多キモ妨ゲナシト云フ然リト雖モ若シ是レリズムノ天然法ノ範圍内ニ非ルトキハ何ゾ和學者又之ヲ許スコトヲ得ンヤ故ニ和歌ノ五文字七文字ハ鉄器ノ如キ法則ニ非ズ其ノ基本タルリズムノ法則中ノ一種ニシテ文學及ヒ音樂ノ進歩ト共ニ變

化スルモノナリ(哲學會雜誌四十一及ヒ四十二號精神物理學ヲ參考スベシ)

「リズム」ノ應用——夫レ斯ノ如シ而シテ又此「リズム」ハ實ニ秒々ニ現ハルノミナラズ時々日々又長クハ年々現ハルモノナリ故ニ人同クコトヲ久シク爲スト好マズ事業ヲ代ヘルコトニ由テ快樂ヲ生ズ是レ皆リズムノ理ニ基クモノニシテ物ノ善惡正邪ヲ問ハズ唯變化ヲ好ミ新奇ヲ好ムモノナレバ斯ノ如キ時ニ於テハ決シテ快樂ヲ以テ事ノ正邪ヲ判斷スルコト能ハズ蓋シリズムノ性質ニ基ク快樂ハ一時ノモノニシテ其ノ同物が暫時ノ後ハ又不愉快ノ根本トナルコトアレバナリ衣服ノ流行ノ如キ最モ適例ト云フ可シ

### 第十四章 笑

人ハ笑フ動物ナリ——人ハ笑フ動物ナリ下等動物ニアリテハ笑フコトナシ口ノ形チ顔ノ容貌ヲ見テ判斷スルトキハ笑ヒニ似タルコトナキニ非スト雖モ其ノ笑ヒナルヤ否ヤ判然セザルナリ笑ヒハ精神上ノ高尙ナル活動ニ基スルモノニシ